

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40010
科目	4001 キャリアプランニングI	授業種別	週間授業
科目責任者	田原 数哲	単位数	1 単位
担当教員	田原 数哲		
授業概要	キャリアプランニングIは、自分が生きてきたこれまでを振り返り、それをもとに、自分のキャリアをどのように作り上げて行くかを考える授業です。キャリアプランニングIの担当教員が、担任としての役割を果たします。少人数教育ですので、友達をつくるよい機会にもなります。規則正しい学生生活が送れるように、自己管理・時間管理について助言をしていきます。また、短期大学生に必要なスタディ・スキル（書くこと、話すこと、聞くこと）の習得や早い段階から将来の目標設定を行います。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	(1) 働くということ、生活をしていくということに対して理解を深め、主体的に行動できる (2) 自分が将来何をしたいのかを思い描くことができる (3) 他者と協働するために必要なスタディ・スキルを獲得することができる		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特にテキストは用意しません。プリントを配布します。参考書及び参考文献は、適宜、指示します。
------------------------------	---

成績評価	授業への取組状況(40%)、発表(20%)、定期試験(40%)の合計によって判断し、成績評価を行います。ただし遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組状況	40%	授業時間内にレポートを課します。
発表	20%	積極的な発言・発表やディスカッションでの取り組み姿勢を評価します。
定期試験	40%	授業時間・予習・復習での学びを筆記試験で評価します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および自己理解・キャリアに関する事前ワークを行う(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/2時間) 3. 体験型授業の場合は、体験することによっての気づきや成長などをレポートとしてまとめる。(個別授業の回/0.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回【講義・演習】ガイダンス 自己紹介 授業の進め方「志」を抱くということ 演習：コミュニケーションセンスのチェック。春学期の目標について考え始める。</p> <p>第2回【講義】就職ガイダンス① イントロダクショ キーワード：キャリアの意味、人生と仕事、インターンシップ</p> <p>第3回【講義】学長による建学の精神について</p> <p>第4回【演習・実習】図書館ガイダンス 実習：図書情報センターの利用方法、文献探索の方法</p> <p>第5回【講義・演習】就職ガイダンス② 自己分析(VRT 検査) キーワード：グループワーク・プレゼンテーションの方法、自己分析</p> <p>第6回【講義・演習】就職ガイダンス③ 自己分析(クレベリン検査) キーワード：性格検査</p> <p>第7回【講義・演習】キャリアプランニング 目標を持つということ 演習：グループワーク：目標と目標達成のためにやるべきことを書き出す。(将来のビジョン)</p> <p>第8回【講義】就職ガイダンス④ 業界職種研究 キーワード：地元企業・就業体験</p> <p>第9回【講義・演習】コミュニケーションの意味するもの(基礎) 演習：グループディスカッション：バーバル・ノンバーバルコミュニケーション</p> <p>第10回【講義・演習】コミュニケーションの意味するもの(応用) 演習：グループディスカッション、ディベート</p> <p>第11回【講義】就職ガイダンス⑤ 業界職種研究 キーワード：地元企業・就業体験</p> <p>第12回【講義・演習】大学で学ぶためのスタディ・スキル 演習：要約の仕方、レポートの書き方</p> <p>第13回【講義・実習】私のキャリアデザイン 実習：短大生活の具体的な行動計画表をつくる。</p> <p>第14回【講義・演習】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究 キーワード：地元企業・就業体験</p> <p>第15回【講義・実習】春学期の成果を秋学期につなげていくために 実習：この授業で学んだことを振り返る。</p> <p>・基礎学力をつけるため、国語・計算の演習問題を実施します。 ・コミュニケーション能力をつけるため、人前で発表する訓練をします。 (自己紹介、友達に薦める本、新聞記事から、最近ちょっと幸せを感じたこと、などのテーマです。) (プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークを用いて、授業を展開していきます) ・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPBM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40018
科目	4001 キャリアプランニングI	授業種別	週間授業
科目責任者	花岡 幹明	単位数	1 単位
担当教員	花岡 幹明		
授業概要	キャリアプランニングIは、自分が生きてきたこれまでを振り返り、それをもとに、自分のキャリアをどのように作り上げて行くかを考える授業です。キャリアプランニングIの担当教員が、担任としての役割を果たします。少人数教育ですので、友達をつくるよい機会にもなります。規則正しい学生生活が送れるように、自己管理・時間管理について助言をしていきます。また、短期大学生に必要なスタディ・スキル（書くこと、話すこと、聞くこと）の習得や早い段階から将来の目標設定を行います。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	(1) 働くということ、生活をしていくということに対して理解を深め、主体的に行動できる (2) 自分が将来何をしたいのかを思い描くことができる (3) 他者と協働するために必要なスタディ・スキルを獲得することができる		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	授業への取組状況(40%)、発表(20%)、定期試験(40%)の合計によって判断し、成績評価を行います。ただし遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。 遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および自己理解・キャリアに関する事前ワークを行う(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/2時間) 3. 体験型授業の場合は、体験することによっての気づきや成長などをレポートとしてまとめる。(個別授業の回/0.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 【講義・演習】ガイダンス 自己紹介 授業の進め方 「志」を抱くということ 演習:コミュニケーションセンスのチェック。春学期の目標について考え始める。</p> <p>第2回 【講義】就職ガイダンス① イントロダクション キーワード:キャリアの意味、人生と仕事、インターンシップ</p> <p>第3回 【講義】学長による建学の精神について</p> <p>第4回 【演習・実習】図書館ガイダンス 実習:図書情報センターの利用方法、文献探索の方法</p> <p>第5回 【講義・演習】就職ガイダンス② 自己分析(VRT 検査) キーワード:グループワーク・プレゼンテーションの方法、自己分析</p> <p>第6回 【講義・演習】就職ガイダンス③ 自己分析(クレベリン検査) キーワード:性格検査</p> <p>第7回 【講義・演習】キャリアプランニング 目標を持つということ 演習:グループワーク:目標と目標達成のためにやるべきことを書き出す。(将来のビジョン)</p> <p>第8回 【講義】就職ガイダンス④ 業界職種研究 キーワード:働く環境</p> <p>第9回 【講義・演習】コミュニケーションの意味するもの(基礎) 演習:グループディスカッション:バーバル・ノンバーバルコミュニケーション</p> <p>第10回 【講義・演習】コミュニケーションの意味するもの(応用) 演習:グループディスカッション、ディベート</p> <p>第11回 【講義】就職ガイダンス⑤ 業界職種研究 キーワード:女性活躍</p> <p>第12回 【講義・演習】大学で学ぶためのスタディ・スキル 演習:要約の仕方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方</p> <p>第13回 【講義・実習】私のキャリアデザイン 実習:短大生活の具体的行動計画表をつくる。</p> <p>第14回 【講義・演習】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究 キーワード:地元企業</p> <p>第15回 【講義・実習】春学期の成果を秋学期につなげていくために 実習:この授業で学んだことを振り返る。</p> <p>・基礎学力をつけるため、国語・計算の演習問題を実施します。 ・コミュニケーション能力をつけるため、人前で発表する訓練をします。 (自己紹介、友達に薦める本、新聞記事から、最近ちょっと幸せを感じたこと、などのテーマです) (プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークを用いて、授業を展開していきます) ・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPBM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40019
科目	4001 キャリアプランニングI	授業種別	週間授業
科目責任者	井原 淑雅	単位数	1 単位
担当教員	井原 淑雅		
授業概要	キャリアプランニングIは、自分が生きてきたこれまでを振り返り、それをもとに、自分のキャリアをどのように作り上げて行くかを考える授業です。キャリアプランニングIの担当教員が、担任としての役割を果たします。少人数教育ですので、友達をつくるよい機会にもなります。規則正しい学生生活が送れるように、自己管理・時間管理について助言をしていきます。また、短期大学生に必要なスタディ・スキル（書くこと、話すこと、聞くこと）の習得や早い段階から将来の目標設定を行います。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	(1) 働くということ、生活をしていくということに対して理解を深め、主体的に行動できる (2) 自分が将来何をしたいのかを思い描くことができる (3) 他者と協働するために必要なスタディ・スキルを獲得することができる		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特にテキストは用意しません。プリントを配布します。参考書及び参考文献は、適宜、指示します。
------------------------------	---

成績評価	授業への取組状況(40%)、発表(20%)、定期試験(40%)の合計によって判断し、成績評価を行います。ただし遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。 遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
授業への取組状況	40%	授業時間内にレポートを課します。
発表	20%	積極的な発言・発表やディスカッションでの取り組み姿勢を評価します。
定期試験	40%	授業時間・予習・復習での学びを筆記試験で評価します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および自己理解・キャリアに関する事前ワークを行う(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/2時間) 3. 体験型授業の場合は、体験することによっての気づきや成長などをレポートとしてまとめる。(個別授業の回/0.5時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回【講義・演習】ガイダンス 自己紹介 授業の進め方「志」を抱くということ 演習：コミュニケーションセンスのチェック。春学期の目標について考え始める。</p> <p>第2回【講義】就職ガイダンス① イントロダクショ キーワード：キャリアの意味、人生と仕事、インターンシップ</p> <p>第3回【講義】学長による建学の精神について</p> <p>第4回【演習・実習】図書館ガイダンス 実習：図書情報センターの利用方法、文献探索の方法</p> <p>第5回【講義・演習】就職ガイダンス② 自己分析(VRT 検査) キーワード：グループワーク・プレゼンテーションの方法、自己分析</p> <p>第6回【講義・演習】就職ガイダンス③ 自己分析(クレベリン検査) キーワード：性格検査</p> <p>第7回【講義・演習】キャリアプランニング 目標を持つということ 演習：グループワーク：目標と目標達成のためにやるべきことを書き出す。(将来のビジョン)</p> <p>第8回【講義】就職ガイダンス④ 業界職種研究 キーワード：地元企業・就業体験</p> <p>第9回【講義・演習】コミュニケーションの意味するもの(基礎) 演習：グループディスカッション：バーバル・ノンバーバルコミュニケーション</p> <p>第10回【講義・演習】コミュニケーションの意味するもの(応用) 演習：グループディスカッション、ディベート</p> <p>第11回【講義】就職ガイダンス⑤ 業界職種研究 キーワード：地元企業・就業体験</p> <p>第12回【講義・演習】大学で学ぶためのスタディ・スキル 演習：要約の仕方、レポートの書き方</p> <p>第13回【講義・実習】私のキャリアデザイン 実習：短大生活の具体的な行動計画表をつくる。</p> <p>第14回【講義・演習】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究 キーワード：地元企業・就業体験</p> <p>第15回【講義・実習】春学期の成果を秋学期につなげていくために 実習：この授業で学んだことを振り返る。</p> <p>・基礎学力をつけるため、国語・計算の演習問題を実施します。 ・コミュニケーション能力をつけるため、人前で発表する訓練をします。 (自己紹介、友達に薦める本、新聞記事から、最近ちょっと幸せを感じたこと、などのテーマです。) (プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークを用いて、授業を展開していきます) ・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPBM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40020
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	花岡 幹明	単位数	1 単位
担当教員	花岡 幹明		
授業概要	キャリアプランニングⅡは、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えていきます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらう機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。職業研究や社会人としての常識を学びながら、2 年生でのスムーズな就職活動ができるように準備していきます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	授業を通じて次の項目を達成する。 ①社会・企業について幅広く理解し、自分なりの価値観で進路選択の判断を行うことができる。 ②就職活動に向けて、必要な基礎的な知識を身につける。 ③円滑なコミュニケーション能力。問題解決能力、プレゼンテーション能力など、社会や大学でも役に立つ汎用的スキルの重要性を理解し、活用することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2027 最新版 史上最強 一般常識 + 時事一問一答問題集	オフィス海	ナツメ社	¥1,595	9784816377037	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示します。
------------------------------	-----------

成績評価	確認試験・オープンカンパニー報告書・レポート課題・履歴書添削評価・担任課題を総合的に判断し、評価を行います。また、面接対策講座の取り組み状況も評価の対象となります。ただし、遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
確認試験	50%	一般教養問題の知識を確認します。
報告書・レポート課題	10%	自身の将来を見据えた積極的な姿勢や行動を確認します。
履歴書添削	10%	指導内容を踏まえて作成しているかを確認します。
担任課題	30%	各担任の指導内容の理解度を確認します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。 予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および業界研究(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/1時間)。 3. 一般常識問題集から指定されたテーマの振り返りと学習(2回～15回/1時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回 【講義】就職ガイダンス① 就職活動導入ガイダンス キーワード: キャリアセンター・就職の流れ 第2回 【講義・演習】現代人の働き方を考える 演習: 一般常識(政治・法律) 第3回 【講義】就職ガイダンス② 業界職種研究① キーワード: 女性の働き方 第4回 【講義】就職ガイダンス③ 業界職種研究② キーワード: 就職支援サイトの使い方 第5回 【講義・演習】キャリアの多様化 演習: 一般常識(経済) 第6回 【講義・演習】キャリアの諸問題 演習: 一般常識(国際情勢) 第7回 【講義】就職ガイダンス④ 履歴書の書き方(基礎) キーワード: 自己分析、自己PR、志望動機 第8回 【講義・演習】企業の仕組みを知る(就業体験) キーワード: 企業研究・業界研究 第9回 【講義】就職ガイダンス⑤ 先輩方の就職体験報告会 キーワード: 就職活動 第10回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 面接) 演習: 一般常識(国語) 第11回 【講義】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究③ キーワード: 面接試験 第12回 【講義】就職ガイダンス⑦ 業界職種研究④ キーワード: 就職イベント参加について 第13回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 集団) 演習: 一般知識(数学) 第14回 【講義】就職ガイダンス⑧ 履歴書の書き方(応用) キーワード: 履歴書の記入指導(応用) 第15回 【講義】まとめ 演習: 確認試験 ・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。
--------------	---

ナンバリング	CPBM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40021
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	1 単位
担当教員	伊藤 圭一		
授業概要	キャリアプランニングⅡは、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらう機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。職業研究や社会人としての常識を学びながら、2 年生でのスムーズな就職活動ができるように準備していきます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	授業を通じて次の項目を達成する。 ①社会・企業について幅広く理解し、自分なりの価値観で進路選択の判断を行うことができる。 ②就職活動に向けて、必要な基礎的な知識を身につける。 ③円滑なコミュニケーション能力。問題解決能力、プレゼンテーション能力など、社会や大学でも役に立つ汎用的スキルの重要性を理解し、活用することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2027 最新版 史上最強 一般常識 + 時事一問一答問題集	オフィス海	ナツメ社	¥1,595	9784816377037	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示します。
------------------------------	-----------

成績評価	確認試験・オープンカンパニー報告書・レポート課題・履歴書添削評価・担任課題を総合的に判断し、評価を行います。また、面接対策講座の取り組み状況も評価の対象となります。ただし、遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
確認試験	50%	一般教養問題の知識を確認します。
報告書・レポート課題	10%	自身の将来を見据えた積極的な姿勢や行動を確認します。
履歴書添削	10%	指導内容を踏まえて作成しているかを確認します。
担任課題	30%	各担任の指導内容の理解度を確認します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。 予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および業界研究(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/1時間)。 3. 一般常識問題集から指定されたテーマの振り返りと学習(2回～15回/1時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回 【講義】就職ガイダンス① 就職活動導入ガイダンス キーワード: キャリアセンター・就職の流れ 第2回 【講義・演習】現代人の働き方を考える 演習: 一般常識(政治・法律) 第3回 【講義】就職ガイダンス② 業界職種研究① キーワード: 女性の働き方 第4回 【講義】就職ガイダンス③ 業界職種研究② キーワード: 就職支援サイトの使い方 第5回 【講義・演習】キャリアの多様化 演習: 一般常識(経済) 第6回 【講義・演習】キャリアの諸問題 演習: 一般常識(国際情勢) 第7回 【講義】就職ガイダンス④ 履歴書の書き方(基礎) キーワード: 自己分析、自己PR、志望動機 第8回 【講義・演習】企業の仕組みを知る(就業体験) キーワード: 企業研究・業界研究 第9回 【講義】就職ガイダンス⑤ 先輩方の就職体験報告会 キーワード: 就職活動 第10回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 面接) 演習: 一般常識(国語) 第11回 【講義】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究③ キーワード: 面接試験 第12回 【講義】就職ガイダンス⑦ 業界職種研究④ キーワード: 就職イベント参加について 第13回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 集団) 演習: 一般常識(数学) 第14回 【講義】就職ガイダンス⑧ 履歴書の書き方(応用) キーワード: 履歴書の記入指導(応用) 第15回 【講義】まとめ 演習: 確認試験 ・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付けて返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。
--------------	---

ナンバリング	CPBM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40022
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧崎 優佳	単位数	1 単位
担当教員	瀧崎 優佳		
授業概要	キャリアプランニングⅡは、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えていきます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらう機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。職業研究や社会人としての常識を学びながら、2 年生でのスムーズな就職活動ができるように準備していきます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	授業を通じて次の項目を達成する。 ①社会・企業について幅広く理解し、自分なりの価値観で進路選択の判断を行うことができる。 ②就職活動に向けて、必要な基礎的な知識を身につける。 ③円滑なコミュニケーション能力。問題解決能力、プレゼンテーション能力など、社会や大学でも役に立つ汎用的スキルの重要性を理解し、活用することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2027 最新版 史上最強 一般常識 + 時事一問一答問題集	オフィス海	ナツメ社	¥1,595	9784816377037	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示します。
------------------------------	-----------

成績評価	確認試験・オープンカンパニー報告書・レポート課題・履歴書添削評価・担任課題を総合的に判断し、評価を行います。また、面接対策講座の取り組み状況も評価の対象となります。ただし、遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
確認試験	50%	一般教養問題の知識を確認します。
報告書・レポート課題	10%	自身の将来を見据えた積極的な姿勢や行動を確認します。
履歴書添削	10%	指導内容を踏まえて作成しているかを確認します。
担任課題	30%	各担任の指導内容の理解度を確認します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	授業で使用の問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。 予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および業界研究(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/1時間) 3. 一般常識問題集から指定されたテーマの振り返りと学習(2回～15回/1時間)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 【講義】就職ガイダンス① 就職活動導入ガイダンス キーワード: キャリアセンター・就職の流れ</p> <p>第2回 【講義・演習】現代人の働き方を考える 演習: 一般常識(政治・法律)</p> <p>第3回 【講義】就職ガイダンス② 業界職種研究① キーワード: 女性の働き方</p> <p>第4回 【講義】就職ガイダンス③ 業界職種研究② キーワード: 就職支援サイトの使い方</p> <p>第5回 【講義・演習】キャリアの多様化 演習: 一般常識(経済)</p> <p>第6回 【講義・演習】キャリアの諸問題 演習: 一般常識(国際情勢)</p> <p>第7回 【講義】就職ガイダンス④ 履歴書の書き方(基礎) キーワード: 自己分析、自己PR、志望動機</p> <p>第8回 【講義・演習】企業の仕組みを知る(就業体験) キーワード: 企業研究・業界研究</p> <p>第9回 【講義】就職ガイダンス⑤ 先輩方の就職体験報告会 キーワード: 就職活動</p> <p>第10回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 面接) 演習: 一般常識(国語)</p> <p>第11回 【講義】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究③ キーワード: 面接試験</p> <p>第12回 【講義】就職ガイダンス⑦ 業界職種研究④ キーワード: 就職イベント参加について</p> <p>第13回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 集団) 演習: 一般常識(数学)</p> <p>第14回 【講義】就職ガイダンス⑧ 履歴書の書き方(応用) キーワード: 履歴書の記入指導(応用)</p> <p>第15回 【講義】まとめ 演習: 確認試験</p> <p>・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPBM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40023
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	矢島 明彦	単位数	1 単位
担当教員	矢島 明彦		
授業概要	キャリアプランニングⅡは、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらう機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。職業研究や社会人としての常識を学びながら、2 年生でのスムーズな就職活動ができるように準備していきます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	授業を通じて次の項目を達成する。 ①社会・企業について幅広く理解し、自分なりの価値観で進路選択の判断を行うことができる。 ②就職活動に向けて、必要な基礎的な知識を身につける。 ③円滑なコミュニケーション能力。問題解決能力、プレゼンテーション能力など、社会や大学でも役に立つ汎用的スキルの重要性を理解し、活用することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2027 最新版 史上最強 一般常識 + 時事一問一答問題集	オフィス海	ナツメ社	¥1,595	9784816377037	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示します。
------------------------------	-----------

成績評価	確認試験・オープンカンパニー報告書・レポート課題・履歴書添削評価・担任課題を総合的に判断し、評価を行います。また、面接対策講座の取り組み状況も評価の対象となります。ただし、遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
確認試験	50%	一般教養問題の知識を確認します。
報告書・レポート課題	10%	自身の将来を見据えた積極的な姿勢や行動を確認します。
履歴書添削	10%	指導内容を踏まえて作成しているかを確認します。
担任課題	30%	各担任の指導内容の理解度を確認します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。 予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および業界研究(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/1時間)。 3. 一般常識問題集から指定されたテーマの振り返りと学習(2回～15回/1時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回 【講義】就職ガイダンス① 就職活動導入ガイダンス キーワード: キャリアセンター・就職の流れ 第2回 【講義・演習】現代人の働き方を考える 演習: 一般常識(政治・法律) 第3回 【講義】就職ガイダンス② 業界職種研究① キーワード: 女性の働き方 第4回 【講義】就職ガイダンス③ 業界職種研究② キーワード: 就職支援サイトの使い方 第5回 【講義・演習】キャリアの多様化 演習: 一般常識(経済) 第6回 【講義・演習】キャリアの諸問題 演習: 一般常識(国際情勢) 第7回 【講義】就職ガイダンス④ 履歴書の書き方(基礎) キーワード: 自己分析、自己PR、志望動機 第8回 【講義・演習】企業の仕組みを知る(就業体験) キーワード: 企業研究・業界研究 第9回 【講義】就職ガイダンス⑤ 先輩方の就職体験報告会 キーワード: 就職活動 第10回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 面接) 演習: 一般常識(国語) 第11回 【講義】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究③ キーワード: 面接試験 第12回 【講義】就職ガイダンス⑦ 業界職種研究④ キーワード: 就職イベント参加について 第13回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 集団) 演習: 一般知識(数学) 第14回 【講義】就職ガイダンス⑧ 履歴書の書き方(応用) キーワード: 履歴書の記入指導(応用) 第15回 【講義】まとめ 演習: 確認試験 ・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。
--------------	---

ナンバリング	CPBM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40024
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	辰巳 智行	単位数	1 単位
担当教員	辰巳 智行		
授業概要	キャリアプランニングⅡは、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えていきます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらい機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。職業研究や社会人としての常識を学びながら、2 年生でのスムーズな就職活動ができるように準備していきます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	授業を通じて次の項目を達成する。 ①社会・企業について幅広く理解し、自分なりの価値観で進路選択の判断を行うことができる。 ②就職活動に向けて、必要な基礎的な知識を身につける。 ③円滑なコミュニケーション能力。問題解決能力、プレゼンテーション能力など、社会や大学でも役に立つ汎用的スキルの重要性を理解し、活用することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2027 最新版 史上最強 一般常識 + 時事一問一答問題集	オフィス海	ナツメ社	¥1,595	9784816377037	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示します。
------------------------------	-----------

成績評価	確認試験・オープンカンパニー報告書・レポート課題・履歴書添削評価・担任課題を総合的に判断し、評価を行います。また、面接対策講座の取り組み状況も評価の対象となります。ただし、遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
確認試験	50%	一般教養問題の知識を確認します。
報告書・レポート課題	10%	自身の将来を見据えた積極的な姿勢や行動を確認します。
履歴書添削	10%	指導内容を踏まえて作成しているかを確認します。
担任課題	30%	各担任の指導内容の理解度を確認します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。 予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および業界研究(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/1時間) 3. 一般常識問題集から指定されたテーマの振り返りと学習(2回～15回/1時間)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 【講義】就職ガイダンス① 就職活動導入ガイダンス キーワード: キャリアセンター・就職の流れ</p> <p>第2回 【講義・演習】現代人の働き方を考える 演習: 一般常識(政治・法律)</p> <p>第3回 【講義】就職ガイダンス② 業界職種研究① キーワード: 女性の働き方</p> <p>第4回 【講義】就職ガイダンス③ 業界職種研究② キーワード: 就職支援サイトの使い方</p> <p>第5回 【講義・演習】キャリアの多様化 演習: 一般常識(経済)</p> <p>第6回 【講義・演習】キャリアの諸問題 演習: 一般常識(国際情勢)</p> <p>第7回 【講義】就職ガイダンス④ 履歴書の書き方(基礎) キーワード: 自己分析、自己PR、志望動機</p> <p>第8回 【講義・演習】企業の仕組みを知る(就業体験) キーワード: 企業研究・業界研究</p> <p>第9回 【講義】就職ガイダンス⑤ 先輩方の就職体験報告会 キーワード: 就職活動</p> <p>第10回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 面接) 演習: 一般常識(国語)</p> <p>第11回 【講義】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究③ キーワード: 面接試験</p> <p>第12回 【講義】就職ガイダンス⑦ 業界職種研究④ キーワード: 就職イベント参加について</p> <p>第13回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 集団) 演習: 一般常識(数学)</p> <p>第14回 【講義】就職ガイダンス⑧ 履歴書の書き方(応用) キーワード: 履歴書の記入指導(応用)</p> <p>第15回 【講義】まとめ 演習: 確認試験</p> <p>・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPBM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40027
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	田原 数哲	単位数	1 単位
担当教員	田原 数哲		
授業概要	キャリアプランニングⅡは、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらい機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。職業研究や社会人としての常識を学びながら、2 年生でのスムーズな就職活動ができるように準備していきます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	授業を通じて次の項目を達成する。 ①社会・企業について幅広く理解し、自分なりの価値観で進路選択の判断を行うことができる。 ②就職活動に向けて、必要な基礎的な知識を身につける。 ③円滑なコミュニケーション能力。問題解決能力、プレゼンテーション能力など、社会や大学でも役に立つ汎用的スキルの重要性を理解し、活用することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2027 最新版 史上最強 一般常識 + 時事一問一答問題集	オフィス海	ナツメ社	¥1,595	9784816377037	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示します。
------------------------------	-----------

成績評価	確認試験・オープンカンパニー報告書・レポート課題・履歴書添削評価・担任課題を総合的に判断し、評価を行います。また、面接対策講座の取り組み状況も評価の対象となります。ただし、遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
確認試験	50%	一般教養問題の知識を確認します。
報告書・レポート課題	10%	自身の将来を見据えた積極的な姿勢や行動を確認します。
履歴書添削	10%	指導内容を踏まえて作成しているかを確認します。
担任課題	30%	各担任の指導内容の理解度を確認します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。 予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および業界研究(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/1時間)。 3. 一般常識問題集から指定されたテーマの振り返りと学習(2回～15回/1時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回 【講義】就職ガイダンス① 就職活動導入ガイダンス キーワード: キャリアセンター・就職の流れ 第2回 【講義・演習】現代人の働き方を考える 演習: 一般常識(政治・法律) 第3回 【講義】就職ガイダンス② 業界職種研究① キーワード: 女性の働き方 第4回 【講義】就職ガイダンス③ 業界職種研究② キーワード: 就職支援サイトの使い方 第5回 【講義・演習】キャリアの多様化 演習: 一般常識(経済) 第6回 【講義・演習】キャリアの諸問題 演習: 一般常識(国際情勢) 第7回 【講義】就職ガイダンス④ 履歴書の書き方(基礎) キーワード: 自己分析、自己PR、志望動機 第8回 【講義・演習】企業の仕組みを知る(就業体験) キーワード: 企業研究・業界研究 第9回 【講義】就職ガイダンス⑤ 先輩方の就職体験報告会 キーワード: 就職活動 第10回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 面接) 演習: 一般常識(国語) 第11回 【講義】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究③ キーワード: 面接試験 第12回 【講義】就職ガイダンス⑦ 業界職種研究④ キーワード: 就職イベント参加について 第13回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 集団) 演習: 一般常識(数学) 第14回 【講義】就職ガイダンス⑧ 履歴書の書き方(応用) キーワード: 履歴書の記入指導(応用) 第15回 【講義】まとめ 演習: 確認試験 ・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。
--------------	---

ナンバリング	CPBM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40028
科目	4002 キャリアプランニングⅡ	授業種別	週間授業
科目責任者	井原 淑雅	単位数	1 単位
担当教員	井原 淑雅		
授業概要	キャリアプランニングⅡは、就業力を育成するための授業です。「就職活動へ踏み出そう」という気持ちを起こさせる、学生さんの背中を押す授業です。ステップを踏んで、就職活動の流れ・ポイントを教えます。内定のとれた在学生や本学卒業生を呼んで、就職活動経験、現場での経験を話してもらう機会も設けています。キャリアセンターと連携しながら、授業を進めていきます。職業研究や社会人としての常識を学びながら、2 年生でのスムーズな就職活動ができるように準備していきます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	授業を通じて次の項目を達成する。 ①社会・企業について幅広く理解し、自分なりの価値観で進路選択の判断を行うことができる。 ②就職活動に向けて、必要な基礎的な知識を身につける。 ③円滑なコミュニケーション能力。問題解決能力、プレゼンテーション能力など、社会や大学でも役に立つ汎用的スキルの重要性を理解し、活用することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2027 最新版 史上最強 一般常識 + 時事一問一答問題集	オフィス海	ナツメ社	¥1,595	9784816377037	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示します。
------------------------------	-----------

成績評価	確認試験・オープンカンパニー報告書・レポート課題・履歴書添削評価・担任課題を総合的に判断し、評価を行います。また、面接対策講座の取り組み状況も評価の対象となります。ただし、遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・課題レポート・提出物で判定します。遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
確認試験	50%	一般教養問題の知識を確認します。
報告書・レポート課題	10%	自身の将来を見据えた積極的な姿勢や行動を確認します。
履歴書添削	10%	指導内容を踏まえて作成しているかを確認します。
担任課題	30%	各担任の指導内容の理解度を確認します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	授業で使用する問題集は、高校卒業時の基礎学力がベースとなります。不安を感じる人は、中学・高校時代の教科書を活用すると良いでしょう。 予習・復習 1. 授業テーマに関する資料の読解および業界研究(2回～15回/2時間)。 2. 授業内容およびディスカッションを踏まえ、キャリア観の振り返り、課題・レポート作成を行う(2回～15回/1時間)。 3. 一般常識問題集から指定されたテーマの振り返りと学習(2回～15回/1時間)

授業の実施方法と授業計画	第1回 【講義】就職ガイダンス① 就職活動導入ガイダンス キーワード: キャリアセンター・就職の流れ 第2回 【講義・演習】現代人の働き方を考える 演習: 一般常識(政治・法律) 第3回 【講義】就職ガイダンス② 業界職種研究① キーワード: 女性の働き方 第4回 【講義】就職ガイダンス③ 業界職種研究② キーワード: 就職支援サイトの使い方 第5回 【講義・演習】キャリアの多様化 演習: 一般常識(経済) 第6回 【講義・演習】キャリアの諸問題 演習: 一般常識(国際情勢) 第7回 【講義】就職ガイダンス④ 履歴書の書き方(基礎) キーワード: 自己分析、自己PR、志望動機 第8回 【講義・演習】企業の仕組みを知る(就業体験) キーワード: 企業研究・業界研究 第9回 【講義】就職ガイダンス⑤ 先輩方の就職体験報告会 キーワード: 就職活動 第10回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 面接) 演習: 一般常識(国語) 第11回 【講義】就職ガイダンス⑥ 業界職種研究③ キーワード: 面接試験 第12回 【講義】就職ガイダンス⑦ 業界職種研究④ キーワード: 就職イベント参加について 第13回 【講義・演習】面接による自己表現(基礎: 集団) 演習: 一般知識(数学) 第14回 【講義】就職ガイダンス⑧ 履歴書の書き方(応用) キーワード: 履歴書の記入指導(応用) 第15回 【講義】まとめ 演習: 確認試験 ・課題、試験や提出物に関しては、採点やコメントを付して返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ・適宜、国語・計算の演習問題を実施します。 ・授業計画は、受講学生の習熟度によって変更することがあります。
--------------	---

ナンバリング	CPBM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	授業コード	40061
科目	4006 ゼミナール	授業種別	週間授業
科目責任者	矢島 明彦	単位数	2 単位
担当教員	矢島 明彦		
授業概要	1年次で学んだ知識を集約したうえで、情報収集・分析・制作計画等を行い、プレゼンテーション能力も身につけていく。以上のことを通して、医療事務分野をより深く学ぶための手法を身につけ、社会に貢献できる人材に近づくことを目的とする。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	
到達目標	(1) 基本的な情報収集・分析・制作計画等の方法を身につけることができる。 (2) 図書や電子媒体等を利用して調査・研究した成果についてまとめ、発表する力を身につける。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
特になし					

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
特になし					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	情報収集・資料の作成(50%)、プレゼンテーション(50%)を総合的に判断して評価する。	
評価項目	割合	評価基準
情報収集・資料の作成	50%	レポート・プレゼンテーション資料の完成度によって評価する
プレゼンテーション	50%	各種発表の際のプレゼンテーションの出来具合、質疑応答能力を評価する

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	1. 予習として、日本の医療情勢、医療制度について情報収集をし、理解したうえで分析できるように準備をする。(1回1時間) 2. 復習として、情報収集・分析等のレポートを作成する。(1回1時間分) 3. 年間3回の発表会を行う。パワーポイントを用い1人で発表できるように準備をする。

授業の実施方法と授業計画	<p>医療(特に医療事務)に関する、厚生労働省など公的機関等から公表されているデータおよび、アンケート調査したデータ等を分析して現代の医療、健康の現状、問題点を調べていく。 医療事務各種検定など取得したい資格等の問題を分析し、資格試験の効率的な勉強方法を考えながら資格取得を目指す。さらに、医療機関に関する様々な情報収集・分析を行い、資料の作成を行います。この成果を予め質疑応答に的確に対応できるようにしたうえで、プレゼンテーションが出来るようにします。</p> <p>第01回(講義) ガイダンス 第02回(講義) 診療報酬改定について 第03回(講義・演習) 診療報酬改定について(情報収集1) 第04回(講義・演習) 診療報酬改定について(情報収集2) 第05回(講義・演習) 診療報酬改定について(発表資料の作成1) 第06回(講義・演習) 診療報酬改定について(発表資料の作成2) 第07回(講義・演習) 診療報酬改定について(発表) 第08回(講義) 諸外国の保険制度について 第09回(講義・演習) 諸外国の保険制度について(情報収集1) 第10回(講義・演習) 諸外国の保険制度について(情報収集2) 第11回(講義・演習) 諸外国の保険制度について(発表資料の作成1) 第12回(講義・演習) 諸外国の保険制度について(発表資料の作成2) 第13回(講義・演習) 諸外国の保険制度について(発表) 第14回(講義) 診療報酬改定、諸外国の保険制度についてのまとめ1 第15回(講義・演習) 診療報酬改定、諸外国の保険制度についてのまとめ2 第16回(講義) 日本の報酬制度の特徴について 第17回(講義・演習) 日本の報酬制度の特徴について(情報収集1) 第18回(講義・演習) 日本の報酬制度の特徴について(情報収集2) 第19回(講義・演習) 日本の報酬制度の特徴について(発表資料の作成1) 第20回(講義・演習) 日本の報酬制度の特徴について(発表資料の作成2) 第21回(講義・演習) 日本の報酬制度の特徴について(発表) 第22回(講義) 病院機能の分析 第23回(講義・演習) 病院機能の分析(情報収集1) 第24回(講義・演習) 病院機能の分析(情報収集2) 第25回(講義・演習) 病院機能の分析(病院研究1) 第26回(講義・演習) 病院機能の分析(病院研究2) 第27回(講義) 病院研究について 第28回(講義・演習) 病院研究について(まとめ1) 第29回(講義・演習) 病院研究について(まとめ2) 第30回(講義・演習) 病院研究について(発表)</p> <p>・各回の分析についてグループワークを通じて練度の高いものとしていく。又、教員からも個別に改善点や評価点について指導・評価する。 ・発表会の際に成果物に対してグループワークを行う。又、教員から改善点や評価点について全体公表を行う。 *授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等の質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 *) 豊川市民病院のイメージアップに関する活動に参加予定です。不定期での活動ですので、その都度スケジュールを変更します。 *) ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPBM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	授業コード	40062
科目	4006 セミナール	授業種別	週間授業
科目責任者	辰巳 智行	単位数	2 単位
担当教員	辰巳 智行		

授業概要	このゼミナールは、われわれが生きている現代社会の課題や問題について、地域社会の中で活動実践や調査を通じて考える力を修得することを目的とする。 本ゼミナールでは、こうした地域社会の問題に関して、テーマを決め、現場を実際に見て、様々な立場の意見を聞き、また地域の団体などと組んで活動実践に取り組むなかで、問題を多角的に把握する能力を身につけることを目標とする。 また、問題を捉えるために必要な視座や方法論を輪読（読書会）・読書紹介などを通じて獲得する。 調査や実践で明らかになったことに基づき、地域社会の問題の要因や及ぼす影響、利害や価値観の調整方法をディスカッションを通じて考えていく。 なお、輪読の文献や研究・活動のテーマは、受講者の関心や地域活動の内容に基づいて決める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題を把握するための視点や方法論を修得する ・社会問題を探求して、議論することができる ・輪読やグループワークで、他人の意見を聴き、自分の意見を根拠に基づいて表現できる ・地域活動、フィールドワークや聞き取り調査に必要なマナーやルールを修得する 						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
テキストは指定しない。ゼミの中で指示する。						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	評価は、ゼミナールへの貢献、輪読・読書報告担当回や実践活動・調査結果の報告、最終的なレポートで評価する ゼミナールへの貢献：地域活動・実査への貢献やディスカッションでの発言を評価する 報告：文献輪読や読書報告、活動報告・調査報告などでの報告内容や報告資料、質疑への応答で理解度を評価 課題提出：研究テーマについての調査に関して、作成した報告レポートと、それに基づいたプレゼンテーションの内容を評価	
評価項目	割合	評価基準
ゼミナールへの貢献	40%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
報告	40%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
課題提出	20%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)

受講条件	必修科目。受講生が意欲的にゼミナールに関わり、主体的に考えようとする姿勢が求められる。
事前・事後学修(内容・時間)	ゼミナールの時間は、輪読・読書報告、活動・調査の報告、ディスカッションの時間に充てる。 そのため、報告の担当者は十分な準備が求められる(4時間×3回)。担当者以外の参加者も、ディスカッションのために疑問点や論点を各自でまとめておく必要がある(1時間×18回)。 地域実践活動・フィールドワーク/聞き取り調査は、講義時間外に行われる場合がある。

授業の実施方法と授業計画	<p>【春学期】第1回【講義】ガイダンス(文献と報告担当者の決定)</p> <p>第2回【講義・演習】活動・調査・研究テーマの検討(ディスカッション・グループワーク)</p> <p>第3回【講義・演習】活動・調査・研究テーマの検討(ディスカッション・グループワーク)</p> <p>第4回【演習】文献購読(2名)・ディスカッション</p> <p>第5回【演習】文献購読(2名)・ディスカッション</p> <p>第6回【演習】文献購読(2名)・ディスカッション</p> <p>第7回【演習】文献購読(2名)・ディスカッション</p> <p>第8回【演習】活動・調査・研究テーマの検討(ディスカッション・グループワーク)</p> <p>第9回【演習】活動・調査・研究テーマの検討(ディスカッション・グループワーク)</p> <p>第10回【演習】文献購読(2名)・ディスカッション</p> <p>第11回【演習】文献購読(2名)・ディスカッション</p> <p>第12回【演習】文献購読(2名)・ディスカッション</p> <p>第13回【演習】文献購読(2名)・ディスカッション</p> <p>第14回【演習】活動・調査・研究テーマの検討(ディスカッション・グループワーク)</p> <p>第15回【演習】活動・調査・研究テーマの検討・決定(ディスカッション)</p> <p>【秋学期】</p> <p>第16回【演習】活動・調査・構想報告(プレゼンテーション)</p> <p>第17回【実習】地域活動・現地調査(フィールドワーク・ディスカッション)</p> <p>第18回【実習】地域活動・現地調査(フィールドワーク・ディスカッション)</p> <p>第19回【演習】中間報告準備(プレゼンテーション・グループワーク)</p> <p>第20回【演習】中間報告準備(プレゼンテーション・グループワーク)</p> <p>第21回【演習】中間報告(プレゼンテーション)</p> <p>第22回【演習】地域活動・現地調査(フィールドワーク・ディスカッション)</p> <p>第23回【演習】地域活動・現地調査(フィールドワーク・ディスカッション)</p> <p>第24回【演習】地域活動・現地調査(フィールドワーク・ディスカッション)</p> <p>第25回【演習】地域活動・現地調査(フィールドワーク・ディスカッション)</p> <p>第26回【演習】地域活動・現地調査(フィールドワーク・ディスカッション)</p> <p>第27回【講義・演習】レポート・報告書の作成</p> <p>第28回【講義・演習】レポート・報告書の作成</p> <p>第29回【演習】報告(プレゼンテーション・ディスカッション)</p> <p>第30回【演習】まとめ(ディスカッション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の行事などの都合で、順番を入れ替えることがある。 ・事前事後学修以外でも、講義時間以外の活動も求められる。 <ul style="list-style-type: none"> ・提出された課題、活動報告、読書レポートなどについては、コメントをつけて個別、もしくはゼミ全体にフィードバックする ・受講者の人数や関心によって、ゼミナールの進め方を変更することもある ・地域活動は、学外の団体との連携の可能性もある ・地域活動・現地調査に必要なパソコンやICT機器(レーザー加工機)などの取得に必要な技能講習を適宜行う ・現地調査(フィールドワーク)の日程は調整による
--------------	--

ナンバリング	CPBM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	授業コード	40063
科目	4006 ゼミナール	授業種別	週間授業
科目責任者	田原 数哲	単位数	2 単位
担当教員	田原 数哲		

授業概要	社会人としての基礎教養を身につけるとともに、人としての成長とは何かを、人と人、人と社会とのつながりや、自然、歴史・文化を題材にして幅広く学んでいく。 愛知県警察本部、豊橋警察署、愛知県東三河総局などと連携し、防犯ボランティア活動を通じ、学生自らが考え、行動し、地域社会と積極的にかかわることを目指す。 学生一人ひとりが個性を生かし、人間的に成長し、社会人として自信を持って新しい社会へ出発できるように勉強していく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					
到達目標	自然や人とのかかわりの中で、自ら働きかけ、行動できる人となることを目標とする。 自分自身を知り、人や自然とのかかわりや、社会や歴史、文化を学び、人としての目標を持った生活ができるように、次の2点を具体的な目標とする。 ① 社会人として基礎となる幅広い知識・教養を身につけるとともに、防犯ボランティア活動などに積極的に参加することができる。 ② 社会、歴史・文化等から疑問点を見つけ、意見として発表できるまで探究することができる。						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特にテキストはありません。
------------------------------	---------------

成績評価	課題への取り組み状況(40%)、レポート等の提出状況(30%)、ボランティア活動などへの参加状況(30%)によって総合的に評価します。 ・課題への取り組み状況は、課題に対する意見、具体的な提案などを参考にして評価する。 ・レポート等の提出物は、毎回の課題に対するレポートなどを参考にして評価する。 ・ボランティア活動などへの参加状況は、各活動における参加状況、活動状況を参考に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題の取り組み状況	30%	課題に対する意見、具体的な提案などを参考に評価します。
レポート等の提出状況	30%	テーマに沿った内容となっているかを確認し評価します。
ボランティア活動などへの参加状況	40%	各活動の参加状況や活動状況を参考に評価します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に配布する資料を読み、関係する項目を検索するなどの準備をしておくこと。学外ボランティア活動については、関係機関との連携のための連絡・調整時間を含む。(1時間程度×30回) 毎授業後に、授業で得た内容についてレポートを作成すること。学外ボランティア活動については、ボランティア活動後の関係機関との事後の連絡時間を含む。(1時間程度×30回) 授業内で指示する内容について、事前に調べて授業に参加すること。学外ボランティア活動については、公演のための練習を含む。(1時間×30回)

授業の実施方法と授業計画	第1回【講義】ガイダンス 第2回【演習】自己探求1(成育歴) 第3回【演習】自己探求2(性格・教育) 第4回【講義】人との係わり(人間関係) 第5回【講義】自然との係わり(水、森林、地球環境) 第6回【講義・演習】社会との係わり1(ボランティア活動) 第7回【演習】防犯ボランティア活動計画1 (前年度の防犯ボランティア活動を参考に、全員でディスカッションし、本年度の活動方針及び役割分担などを計画立案する。) 第8回【演習】防犯ボランティア活動計画2 (活動方針及び役割分担から、学生個人がどのように係わるか検討し、プレゼンテーションする。) 第9回【講義】社会との係わり2(社会のしくみ) 第10回【講義】社会との係わり3(政治、経済) 第11回【演習】学外活動1(防犯ボランティア活動) 第12回【演習】学外活動2(防犯ボランティア活動) 第13回【講義】歴史・文化との係わり1(歴史・文化) 第14回【演習】学外活動3(防犯ボランティア活動) 第15回【演習】学外活動4(防犯ボランティア活動・防犯講話) 第16回【講義】古典を学ぶ1(日本の古典) 第17回【講義】古典を学ぶ2(世界の古典) 第18回【講義】日本の歴史・文化・自然遺産1 第19回【講義】日本の歴史・文化・自然遺産2 第20回【演習】学外活動5(防犯ボランティア活動) 第21回【演習】学外活動6(防犯ボランティア活動) 第22回【講義】世界の歴史・文化・自然遺産1 第23回【講義】世界の歴史・文化・自然遺産2 第24回【演習】学外活動7(防犯ボランティア活動) 第25回【演習】人生論を読む(各人生論の研究及び討議) 第26回【演習】人生論を読む(各人生論の研究及び討議) 第27回【演習】学外活動8(防犯ボランティア活動) 第28回【演習】学外活動9(防犯ボランティア活動) 第29回【演習】レポートの発表1 (各自で1年間自分が学んだことをレポートし、プレゼンテーションする。) 第30回【演習】レポートの発表2 (各自の発表を受け、1年間の活動の総括をする。) ※防犯ボランティア活動は、地域の安全安心にどのように係わるか、前年度の活動を参考にディスカッションし、本年度の活動方針を計画立案する。また、活動にあたっては、愛知県警察本部、豊橋警察署・豊川警察署と連絡を取りながら、防犯キャンペーンに参加したり、保育園での防犯公演の実施や小学校の下校見守り活動を行う。 ※一般教養の題材は、学生各自が、テーマに応じて調べ、発表し、意見交換する。 ※課題レポートに対してはコメントを付して返却します。 ※受講生の習熟度により授業計画を変更することもあります。
--------------	--

ナンバリング	CPBM2005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	授業コード	40064
科目	4006 セミナール	授業種別	週間授業
科目責任者	朝倉 由美子	単位数	2 単位
担当教員	朝倉 由美子		
授業概要	<p>活動の主軸としては、地域と連携して食育の視点を含めた「こどもクッキング教室」の開催を行う。実施予定施設は、本来は豊橋市こども未来館「ここにこ」のキッチン工房であるが、改修中のため春学期は豊橋創造大学短期大学部の調理室 (B33)、秋学期は豊橋市こども未来館「ここにこ」での開催とする</p> <p>SOZO こどもクッキング</p> <p>①好き嫌いが多くとされる野菜や魚を使うことも視野に入れつつ、小学生の好みや技量にあった献立を取り上げてクッキング教室を実施する。そして、子どもたちに調理実習を通して料理の楽しさや自分で食事を作ることの重要性を知る機会の提供をする。年間 4 回実施する予定である。</p> <p>②こどもクッキング教室を計画実行する過程で、献立の組合せから各回の食育コラム、タイムテーブルの作成など、各過程で意見交換をして確認し、全員の協力で完成させる。</p> <p>その他の活動</p> <p>① (食品加工の実践) 八朔を使ってママレード作りや、小みかんでみかん大福づくり、製パン等を計画している。他には全員で話し合っってチャレンジする品目も検討する。</p> <p>② (大学祭への出店) 出店内容は話し合っって決定する。</p> <p>③ (交流会) チームワークを高めるために学期内で開催する。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	
到達目標	<p>全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲への気配りと判断により、何事にも意欲的に取り組むことができる。 ・チームワーク活動における個人の役割をわきまえ、積極的な発言と行動ができる。 ・食品加工の実践を通して、旬の食材の加工保存の知識を体得することができる。 <p>こどもクッキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しく参加できるように気を配って会話をすることができる。 ・自らも基本的な調理技術を体得し、その上でそれをもとに正しく調理の誘導ができる。 ・同時進行の献立を調理する際に時間配分を心掛けてスムーズに進めることができる。 ・調理過程での危険の予知が出来る。 		
テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項			
成績評価	主な活動の「こどもクッキング」での資料作成と活動貢献度、こどもクッキング以外の活動への参加意欲等の総合評価		
評価項目	割合	評価基準	
「こどもクッキング」での資料作成 (配布レシピ、発注票他)	30%	配布資料に伝えたい情報を見やすく、整理してまとめているか	
「こどもクッキング」での活動貢献度	30%	参加者の安全に配慮し、調理に楽しく参加できるよう、公平に気を配れているか	
自らの調理技術向上への意欲と取り組み力	40%	技術向上の努力と成果を評価します	
受講条件	必修科目		
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>①子ども料理教室では郷土料理も献立に取り上げることもあるため、書籍や情報端末などから調べたり、家族や親戚、近所の人等に関して資料を収集する。(0.5 時間以上/週あたり)</p> <p>②調理技術に関して、自宅において自らの技術の向上と訓練を実践する。(3 時間以上/週あたり)</p> <p>③野菜や魚の摂取不足の現状から、摂取を促す献立を考える (0.5 時間以上/週あたり)</p> <p>④配布資料やプレゼンテーション資料を作成するため、基本的な PC 技術の向上を実践する。(0.5 時間以上/週あたり)</p>		
授業の実施方法と授業計画	<p>春学期</p> <p>1 回 (演習) ガイダンス セミナールの進め方について 子どもクッキング開催日程と献立の検討、その他の活動についての計画検討</p> <p>2 回 (演習) 第 1 回クッキングの献立のレシピ検討</p> <p>3 回 (実習) 第 1 回クッキングの試作</p> <p>4 回 (実習) 第 1 回クッキングの試作 各担当の資料作り</p> <p>5 回 (実習) 第 2 回クッキングの試作 1 各担当の資料作り</p> <p>6 回 (実習) 食品加工 八朔ママレード</p> <p>7 回 (実習) 第 1 回こどもクッキングの仕込み準備、進め方等の最終確認、第 1 回アンケート・レシピ・コラム印刷 食材の計量と確認</p> <p>★ 8 回 (実習) 第 1 回 SOZO こどもクッキング実施</p> <p>9 回 (実習) 第 2 回クッキング試作 2、各担当の資料作り</p> <p>10 回 (演習) 第 2 回目の配布レシピ作成 タイムテーブル作成</p> <p>11 回 (実習) 第 2 回 こどもクッキング仕込み準備 進め方等の最終確認 担当者は資料印刷</p> <p>★ 12 回 (実習) 第 2 回 SOZO こどもクッキング実施</p> <p>13 回 (実習) 第 3 回クッキング試作 1 各担当の資料作り、アンケート集計入力</p> <p>14 回 (実習) 第 3 回目の試作</p> <p>15 回 (実習) ゼミ交流会 食品加工 製パン、ピザ作り</p> <p>16 回 (実習) 第 3 回クッキング試作、各担当の資料作り</p> <p>秋学期</p> <p>17 回 (校外活動) こどもクッキング実施施設「ここにこ」への挨拶とキッチンの確認</p> <p>18 回 (演習) 模擬店開店に向けての作業 販売品の製造計画</p> <p>19 回 (実習) 模擬店開店に向けての作業</p> <p>20 回 (実習) 模擬店出店準備 販売品の製造計画実行へ 店舗のポスター等作成</p> <p>21 回 (演習) 第 3 回こどもクッキング仕込み準備 進め方等の最終確認 担当者は資料印刷</p> <p>★ 22 回 (実習) (校外活動) 第 3 回 SOZO こどもクッキング実施 (実習) 第 4 回目の試作①</p> <p>10/23 ~ 25 創造祭 模擬店参加</p> <p>23 回 (実習) 第 4 回目の試作</p> <p>24 回 (実習) 第 4 回目の試作 資料確認</p> <p>25 回 (実習) 4 回目資料仕上げ コラム・配布レシピ作成</p> <p>26 回 (実習) 第 4 回こどもクッキングの仕込み準備、進め方等の最終確認、第 4 回資料印刷</p> <p>★ 27 回 (校外活動) 第 4 回 SOZO こどもクッキング実施 (演習)</p> <p>28 回 (実習) 活動記録アルバム作り、SOZO こどもクッキング 1 年間のアンケート集計作業</p> <p>29 回 (実習) 食品加工 みかん大福作り (演習) アルバム作り進める</p> <p>30 回 (演習) アルバム完成へ、</p> <p>31 回 全体の反省会</p> <p>32 回 予備日</p> <p>※ 課題のフィードバックは、講義内で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答えます。 ※ ただし、こどもクッキングの日程、および活動内容は事情により変更する場合がある。</p>		
ナンバリング	CPBM2009		

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	授業コード	40065
科目	4006 ゼミナール	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧崎 優佳	単位数	2 単位
担当教員	瀧崎 優佳		

授業概要	<p>学修者が社会人となったときに、自分で企画実行できるビジネス技術を学ぶ。グループディスカッションを通して、自信を持って自分を主張し人の話をきちんと聴く姿勢を身につける。調査、企画を通して事前準備の大切さを学び、プレゼンテーションを行い意見を発表する。豊橋市の施設などでのイベントを継続して行うとともに、新たな「人が集まるしくみ」について研究していく。主に SDG s をテーマに活動を行います。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域連携のプロジェクト活動を通して社会人基礎力を備える 2. グループワークを通して、協働できるようになる 3. 地域との関わりを通して、コミュニケーション能力を身につける 4. 社会人としての基本的マナーを身につける 5. 新企画を考えることで想像力を養う 						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストは指定しないが参考文献については授業内で紹介する。
------------------------------	-------------------------------

成績評価	<p>グループディスカッション、ワーク等の参加態度、積極性、レポート評価および規律・受講態度の総合評価とする。 なお、遅刻・早退・劣悪な学習態度は減点の対象となる。</p>	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	30%	課題に対して適切な内容になっているかを確認する。
授業中のへの取り組み状況、積極性、発言議論への貢献度など	70%	自分の意見をしっかりと述べることができ、他人に意見を聞き、コミュニケーションをとることができているか。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学習 ・社会情勢を知るため新聞やニュースに目を通し、地域の情報を中心に自分で要約し所感をまとめる。(0.5 時間× 30 回) ・地域の課題(SDG s の取り組み)、地域のイベント等について調べる(0.5 時間× 30 回)</p> <p>事後学習 ・毎回の授業の振り返りをまとめる(1 時間× 30 回)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 【講義】 ガイダンス 第2回 【講義・演習】 職業人へのスタート・自己を知る、他己を知る 第3回 【講義】 社会課題、SDG s について知る(1) 第4回 【講義・演習】 SDG s についての聞き取り調査 第5回 【講義・演習】 役割と機能、課題の洗い出し・ブレインストーミング 第6回 【講義・演習】 SDG s について考える 第7回 【講義・演習】 人が集まる仕組みについて考える(2) 第8回 【講義・演習】 イベント体験(グループワーク)(1) 第9回 【講義・演習】 イベント体験(グループワーク)(2) 第10回 【講義・演習】 現地見学(フィールドワーク) 第11回 【講義・演習】 イベント企画・実施(フィールドワーク)(1) 第12回 【講義・演習】 イベント企画・実施(フィールドワーク)(2) 第13回 【講義・演習】 夏休みイベント計画(グループディスカッション)(1) 第14回 【講義・演習】 夏休みイベント計画(グループディスカッション)(2) 第15回 【講義・演習】 春学期まとめ発表 第16回 【講義】 秋学期に向けてのガイダンス 第17回 【講義・演習】 学祭の計画・準備(グループディスカッション)(1) 第18回 【講義・演習】 学祭の計画・準備(グループディスカッション)(2) 第19回 【講義・演習】 学祭の計画・準備(グループディスカッション)(3) 第20回 【演習】 イベントの準備(グループワーク)(1) 第21回 【演習】 イベントの準備(グループワーク)(2) 第22回 【講義・演習】 調査の仕方、アンケート作成・実施・分析(1) 第23回 【演習・演習】 調査の仕方、アンケート作成・実施・分析(2) 第24回 【講義・演習】 プロジェクトまとめ(1) 第25回 【講義・演習】 プロジェクトまとめ(2) 第26回 【講義・演習】 プロジェクト発表準備(1) 第27回 【講義・演習】 プロジェクト発表準備(2) 第28回 【演習】 プロジェクト発表(プレゼンテーション) 第29回 【講義・演習】 社会人としての心構え①第一印象の重要性 第30回 【講義・演習】 社会人としての心構え②ビジネスマナー</p> <p>課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等での質問についても適宜、授業内や個別に回答します。 ※ classroom を使用する場合があります。</p> <p>※学生の習熟度により変更がある場合があります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPBM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期			授業コード	40067		
科目	4006 ゼミナール			授業種別	週間授業		
科目責任者	井原 淑雅			単位数	2 単位		
担当教員	井原 淑雅						
授業概要	<p>本学は新城市と、『子育て支援に係る連携協定』を2023年12月に締結した。その目的は、新城市と本学が相互に連携・協力し、教育・保育及び子育て支援分野において人的・知的資源の交流と物質的資源の活用を図ることで、地域社会の発展と人材育成に寄与することである。</p> <p>ところで、新城市は平成17(2005)年に鳳来町、作手村と合併した。その時より、年少人口と生産年齢人口の割合が一貫して低下している。さらに、近年のコロナ禍により出生率も大幅に減少している。</p> <p>そこで、本ゼミナールでは連携・協力事項の(2)「子供・子育て家庭の体験活動と親子交流の推進に関すること」に着目し、『新城 MiraNova プロジェクト～未来へつなぐ新しい星～』を立ち上げた。「MiraNova」とは、未来(Mira) + 新しい星(Nova)の意味を込めた造語である。昨年度は、新城市鳥原児童館で開催された夏祭りやクリスマス会でのイベントを企画した。今年度は「しんしろ軽トラ市」にてフリーマーケットを開催し、その売上金を鳥原児童館へ寄付することも計画している。以上のような活動を通して地域社会との関係を築きながら、各自が新たな問題を見つけ出ししていくことを目的とする。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					
到達目標	<p>多様な個性の協働による社会活動を展開することで、「持続可能な社会の創り手」となることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働的探究に参加・貢献できる「資質・能力」を身につける。 ・目標達成に必要な非認知能力を磨く。 ・社会関係資本力(人的な互恵的つながり力)を蓄積する。 						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
問題解決学習で育む「資質・能力」- 誠実な対話力、確かな情動力、互恵的つながり力-	藤井千春	明治図書	1800 円 + 税	9784184092341		

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	評価は各自の課題を解決するための資料収集力、テーマに関するレポート並びにレポート内容に関するプレゼンテーション等で評価する。	
評価項目	割合	評価基準
最終レポート	30%	文章構成力、論理力、誤字脱字等について評価する。
プロジェクト貢献度	70%	学外活動での取り組み(企画、運営)に関して評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前までに、次回のテキスト単元を読むこと。(第5～9回/1時間程度) ・毎授業前までに、指示されたキーワードについて調べておくこと。(第2～4回/1時間程度) ・毎授業後には、授業内容をまとめておくこと。(第10～15回、18回～24回/1時間程度) ・授業前に参考文献を収集しておくこと(第11回、17回/1時間程度) ・授業前に与えられた資料を読んでおくこと(第26回～29回/1時間程度) ・授業後には、授業内容をまとめるとともに、疑問点や問題点の整理をすること。(第16回、21回、25回～29回/1時間程度) ・プロジェクト活動は、講義時間外に実施する。(第15回、20回、24回/3時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>「春学期」</p> <p>第1回【講義】ガイダンス</p> <p>第2回【講義・演習】2023年度ゼミ活動について</p> <p>第3回【講義・演習】2024年度ゼミ活動について</p> <p>第4回【講義・演習】2025年度ゼミ活動について</p> <p>第5回【講義・演習】第1章「基盤社会に」求められる学び・ディスカッション</p> <p>第6回【講義・演習】第2章 社会構成主義 - 熟議する誠実な対話力 - ディスカッション</p> <p>第7回【講義・演習】第3章 非認知的能力 - 課題達成に向かう確かな情動力 - ディスカッション</p> <p>第8回【講義・演習】第4章 社会関係資本 - 人的な互恵的つながり - ディスカッション</p> <p>第9回【講義・演習】第5章 「資質・能力」を育むための教師の立ち位置・ディスカッション</p> <p>第10回【実習】「新城鳥原児童館」現地調査①</p> <p>第11回【演習】文献等による情報収集</p> <p>第12回【講義・演習】2026年度 第1回プロジェクトテーマの検討①</p> <p>第13回【講義・演習】2026年度 第1回プロジェクトテーマの検討②</p> <p>第14回【講義・演習】2026年度 第1回プロジェクトテーマ設定②</p> <p>第15回【演習】2026年度 第1回プロジェクト活動</p> <p>「秋学期」</p> <p>第16回【演習】第1回プロジェクト活動の振り返り・報告書作成</p> <p>第17回【講義】文献等による情報収集</p> <p>第18回【講義・演習】2026年度 第2回プロジェクトテーマの検討①</p> <p>第19回【講義・演習】2026年度 第2回プロジェクトテーマ設定②</p> <p>第20回【実習】2026年度 第2回プロジェクト活動</p> <p>第21回【演習】第2回プロジェクト活動の振り返り・報告書作成</p> <p>第22回【講義・演習】2026年度 第3回プロジェクトテーマの検討①</p> <p>第23回【講義・演習】2026年度 第3回プロジェクトテーマ設定②</p> <p>第24回【実習】2026年度 第3回プロジェクト活動</p> <p>第25回【演習】第3回プロジェクト活動の振り返り・報告書作成</p> <p>第26回【演習】卒業レポートの作成①</p> <p>第27回【実習】卒業レポートの作成②</p> <p>第28回【演習】卒業レポートの作成③</p> <p>第29回【演習】卒業レポート発表</p> <p>第30回【演習】振り返りとまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題やレポートに関しては、文章指導をするとともにコメントを付けて返却する。 ・現地調査は、現地との調整により日程を決定する。 ・受講者の関心によって、内容を変更することもある。
--------------	---

ナンバリング	CPBM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	授業コード	40069
科目	4006 ゼミナール	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		
授業概要	2つのテーマに取り組みます。1つは、みんなの受けたい新しい講座を企画、運営する取り組みを行います。もう1つは豊橋市大村・下地地区を走るコミュニティーバス「かわきたバス」利用促進につながる活動を行います。この2つの取り組みを通じて現代社会について学んでいきます。年に2回の活動実践と創造祭への参加、成果発表会を主な取り組みとしています。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	
到達目標	実際に新しい講座を企画運営することで現代の若い世代のニーズを理解することができる。
かわきたバスの取り組みを通じて高齢社会のニーズについて理解することができる。
2つの取り組みからこれからの社会に必要なことを気が付くことができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	活動に積極的に参加してください。取り組む姿勢を評価します。遅刻や不参加が目に見えるようだと注意の対象とし評価に影響する場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
活動の計画性	40%	計画を立てるときの発言や協力する姿勢を評価します
活動への参加	40%	学外での活動の参加姿勢について評価します
発表	20%	1年の活動を振り返り自分の取り組みを発表することを評価の対象とします

受講条件	必修科目です。自分の将来について前向きに考えてから受講をしてください。
事前・事後学修(内容・時間)	事前事後の準備(4時間相当):各取り組みの前には必ず準備をすること。 新しい講座について:かわきたバスについて 創造祭への参加について:事前調査などに講義時間以外にも各ゼミ時間につき4時間相当の時間を費やします。

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回【講義・演習】ガイダンス 役割と担当決め</p> <p>第2回【講義・演習】活動スケジュールを考えよう!(グループワーク)</p> <p>第3回【講義・演習】受けたい授業を考える(グループワーク)</p> <p>第4回【講義・演習】他校の例を調べてみよう(グループワーク)</p> <p>第5回【講義・演習】講義の打ち合わせをしよう(グループワーク)</p> <p>第6回【講義・演習】新しい講座を実施しよう(グループワーク)</p> <p>第7回【講義・演習】体験のまとめ(グループワーク)</p> <p>第8回【講義・演習】かわきたバスって??(グループワーク)</p> <p>第9回【講義・演習】かわきたバスへの提案をまとめよう(グループワーク)</p> <p>第10回【講義・演習】企業の方をお招きしてお話を聞こう(グループワーク)</p> <p>第11回【講義・演習】かわきたバスへの提案をしてみよう(グループワーク)</p> <p>第12回【講義・演習】活動してみよう(まずは、グッズを考えよう)(グループワーク)</p> <p>第13回【講義・演習】活動してみよう(みんなでグッズを討論しよう)(グループワーク)</p> <p>第14回【講義・演習】活動してみよう(どう活用するか考えよう)(グループワーク)</p> <p>第15回【講義・演習】活動してみよう(似たものをさがしてみよう)(グループワーク)</p> <p>第16回【講義・演習】春学期を振り返る(グループワーク)</p> <p>第17回【講義・演習】創造祭参加企画をまとめ(グループワーク)</p> <p>第18回【講義・演習】創造祭参加企画を準備しよう(グループワーク)</p> <p>第20回【講義・演習】創造祭を振り返ろう</p> <p>第21回【講義・演習】かわきたバスの活動への振り返り(グループワーク)</p> <p>第22回【講義・演習】豊橋市役所の方のお話を聞こう(グループワーク)</p> <p>第23回【講義・演習】かわきたバスの活動への成果のまとめ(グループワーク)</p> <p>第24回【講義・演習】新しい講座を振り返ろう(グループワーク)</p> <p>第25回【講義・演習】新しい講座について発信しよう(グループワーク)</p> <p>第26回【講義・演習】新しい講座をまとめよう(グループワーク)</p> <p>第27回【講義・演習】この取り組みの成果を考えよう(グループワーク)</p> <p>第28回【講義・演習】学外への発信をしてみよう(グループワーク)</p> <p>第29回【講義・演習】就職活動を振り返ろう(グループワーク)</p> <p>第30回【講義・演習】1年を振り返る(グループワーク)</p> <p>※毎回、授業ごとに就職対策勉強会を行います。 ※視察旅行、イベント参加などにより日程、内容に変更がある場合があります。 ※講演者をお招きする場合には日程に変更があることが予想されます。 ※Instagramなどを使った情報発信を予定しています。 ※提出物については次の回にフィードバックします。 ※感染防止の見地から予定を変更する場合があります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPBM2009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40080
科目	4008 ビジネス文書 I	授業種別	週間授業
科目責任者	井原 淑雅	単位数	2 単位
担当教員	井原 淑雅		
授業概要	企業などにおける業務の処理は、文書によって行われている。これを「文書主義」という。ビジネスの社会で果たす文書の役割を理解し、目的に応じた文書を作成できるようになる。ビジネス文書1では主に文書を書く上で必要となる基本的な項目について習得する。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	<p>企業、病院、役所の仕事では、さまざまな文書の作成が求められる。ビジネス文書Iで身につける文書作成能力は、科の卒業認定・学位授与の方針「必修科目群からなる就業力育成コアユニットの学修により、社会人基礎力を養い、汎用性のある一般事務能力を身につけている」に沿ったものである。その到達目標は、以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、正しい日本語が使える。 2、ビジネス文書の記述に必要な表記のルールを習得できる。 3、ビジネス文書の記述に必要な待遇表現・用語を習得する。 4、ビジネス文書の書式を理解し、簡単な社内文書・社外文書が作成できる。 5、文章作成の基礎力を習得する。 <p>なお、遠隔授業になった場合、具体的な授業方法については、別途指示する。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ビジネス文書検定 受験ガイド 3 級	公益財団法人 実務技能検定協会 編	早稲田教育出版	1000 円 + 税	9784776611707	
キャリアアップ国語表現法 二十五訂版	丸山顯徳 編著	嵯峨野書院	1700 円 + 税	9784782306284	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	成績評価は、以下に基づく。 主体的・積極的な取り組み(20%) :例えば課題に対する取り組み方、指定されたとおりに提出物を提出したか。 中間試験(30%)、課題レポート(50%)	
評価項目	割合	評価基準
課題提出・確認テスト	20%	講義内容の習熟度を確認する。
中間試験	30%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題レポート	50%	講義内容の理解度及び習熟度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<p>毎授業前に教科書を読んでおくこと(1時間程度×14)</p> <p>毎授業後に授業で学んだことを復習すること(2時間程度×14)</p> <p>ビジネス文書の作成には、基本的な日本語表記の知識が必要となる。各自、漢字などの復習に取り組むこと。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>※前半の講義は知識を習得する内容であるため、中間試験を実施する。また、小テストを実施した場合は、採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。</p> <p>第1回 ガイダンス 漢字習得の近道</p> <p>第2回(講義・演習) 同音異義語</p> <p>第3回(講義・演習) 同訓異義語</p> <p>第4回(講義・演習) 音訓と熟語</p> <p>第5回(講義・演習) 熟語の構造</p> <p>第6回(講義・演習) 四字熟語</p> <p>第7回(講義・演習) 仮名遣いと送り仮名</p> <p>第8回(講義・演習) 中間試験</p> <p>第9回(講義・演習) ビジネス文書とは 表記技能(総合、用字)</p> <p>第10回(講義・演習) 表記技能(書式、まとめ)</p> <p>第11回(講義・演習) 表現技能(正確な文書 分かりやすい文書)</p> <p>第12回(講義・演習) 表現技能(礼儀正しい文章)</p> <p>第13回(講義・演習) 実務技能(社内文書)</p> <p>第14回(講義・演習) レポートの作成</p> <p>第15回(講義・演習) まとめ</p> <p>＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPCM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40090
科目	4009 ビジネス文書Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	井原 淑雅	単位数	2 単位
担当教員	井原 淑雅		
授業概要	ビジネス文書Ⅱでは1年次にビジネス文書Ⅰで学んだ基礎的な知識を用いながら、さまざまな目的に応じたビジネス文書が作成できるようになることを目標とする。また、アカデミックライティング能力も身に付けることも目標とする。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	
到達目標	<p>企業、病院、役所の仕事では、さまざまな目的に応じた文書の作成が求められる。ビジネス文書Ⅱで身につける文書作成能力は、科の卒業認定・学位授与の方針「必修科目群からなる就業力育成コアユニットの学修により、社会人基礎力を養い、汎用性のある一般事務能力を身につけている」に沿ったものである。その到達目標は、以下の通りとする。</p> <p>1、正しい日本語が使える。 2、目的に応じたビジネス文書が作成できる。 3、実社会での有効なコミュニケーションを実現するために必要な、文章読解力及び文章作成力を習得する。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ビジネス文書検定受験ガイド 3級	公益財団法人 実務技能検定協会編	早稲田教育出版	1000 円 + 税	9784776611707	
キャリアアップ 国語表現法 二十五訂版	丸山顯徳 編著	嵯峨野書院	1700 円 + 税	9784782306284	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	提出・確認テスト(20%)、中間試験(30%)、課題レポート(50%)の結果から評価する。なお、授業内課題をすべて提出していないものは、中華試験の受験資格はないものとする。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出・確認テスト	20%	講義内容の習熟度を確認する。
中間試験	30%	筆記試験にて理解度を確認する。
定期試験	50%	講義内容の理解度及び習熟度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書を読んでおくこと(1時間程度×14) 毎授業後に授業で学んだことを復習すること(2時間程度×14)

授業の実施方法と授業計画	<p>※前回の講義が知識を習得する内容の場合は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点后速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、学生が記述した文章は添削指導を行う。前半の内容に関しては、中間試験を実施する。</p> <p>第1回(講義・演習) ガイダンス 第2回(講義・演習) 正確な文章、分かりやすい文章 第3回(講義・演習) 礼儀正しい文章 第4回(講義・演習) 社内文書(稟議書) 第5回(講義・演習) 社内文書(規定文書、誓約書、押印、議事録) 第6回(講義・演習) 社内文書(報告書、依頼書、案内文書、通知文書、照会文) 第7回(講義・演習) 社内文書(営業日報、案内状) 第8回(講義・演習) 中間試験 第9回(講義・演習) アカデミックライティングとは 第10回(講義・演習) 文章読解 第11回(講義・演習) 文章要約① 第12回(講義・演習) 文章要約② 第13回(講義・演習) 課題レポート① 第14回(講義・演習) 課題レポート② 第15回(講義・演習) まとめ</p> <p>※ただし、学習者の習熟度により授業内容を変更することもある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPCM2004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40091
科目	4009 ビジネス文書Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	井原 淑雅	単位数	2 単位
担当教員	井原 淑雅		
授業概要	ビジネス文書Ⅱでは1年次にビジネス文書Ⅰで学んだ基礎的な知識を用いながら、さまざまな目的に応じたビジネス文書が作成できるようになることを目標とする。また、アカデミックライティング能力も身に付けることも目標とする。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	<p>企業、病院、役所の仕事では、さまざまな目的に応じた文書の作成が求められる。ビジネス文書Ⅱで身につける文書作成能力は、科の卒業認定・学位授与の方針「必修科目群からなる就業力育成コアユニットの学修により、社会人基礎力を養い、汎用性のある一般事務能力を身につけている」に沿ったものである。その到達目標は、以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、正しい日本語が使える。 2、目的に応じたビジネス文書が作成できる。 3、実社会での有効なコミュニケーションを実現するために必要な、文章読解力及び文章作成力を習得する。 		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ビジネス文書検定受験ガイド 3級	公益財団法人 実務技能検定協会編	早稲田教育出版	1000 円 + 税	9784776611707	
キャリアアップ 国語表現法 二十五訂版	丸山顯徳 編著	嵯峨野書院	1700 円 + 税	9784782306284	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------

成績評価	提出物(・確認テスト20%)、中間試験(30%)、課題レポート(50%)の結果から評価する。なお、授業内課題をすべて提出していないものは、中華試験の受験資格はないものとする。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出・確認テスト	20%	講義内容の習熟度を確認する。
中間試験	30%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題レポート	50%	講義内容の理解度及び習熟度を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書を読んでおくこと(1時間程度×14) 毎授業後に授業で学んだことを復習すること(2時間程度×14)

授業の実施方法と授業計画	<p>※前回の講義が知識を習得する内容の場合は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点后速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、学生が記述した文章は添削指導を行う。前半の内容に関しては、中間試験を実施する。</p> <p>第1回(講義・演習) ガイダンス 第2回(講義・演習) 正確な文章、分かりやすい文章 第3回(講義・演習) 礼儀正しい文章 第4回(講義・演習) 社内文書(稟議書) 第5回(講義・演習) 社内文書(規定文書、誓約書、押印、議事録) 第6回(講義・演習) 社内文書(報告書、依頼書、案内文書、通知文書、照会文) 第7回(講義・演習) 社内文書(営業日報、案内状) 第8回(講義・演習) 中間試験 第9回(講義・演習) アカデミックライティングとは 第10回(講義・演習) 文章読解 第11回(講義・演習) 文章要約① 第12回(講義・演習) 文章要約② 第13回(講義・演習) 課題レポート① 第14回(講義・演習) 課題レポート②</p> <p>※ただし、学習者の習熟度により授業内容を変更することもある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPCM2004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40100
科目	4010 接客演習	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧崎 優佳	単位数	1 単位
担当教員	瀧崎 優佳		
授業概要	<p>多様な職業や生き方を選択できる時代となった今、信頼や好感が得られる柔軟な人間性が求められている。授業では、キャリアを積むために必要な接客・マナーを身につける。様々な場面で求められる挨拶や言葉遣い、電話対応、来客対応や訪問マナーなどの一連の基本的なマナーはもちろんのこと、社会で働き続けるために必要な、傾聴スキルや共感など対人関係スキルの習得を目標とする。接客に大切な挨拶やお辞儀など基本動作の演習を繰り返し行うことによって自然に行えるよう身につける。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する接客検定に携わり、サービス業の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等行う科目です。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で基本的なマナー知識を理解した接客が実践できる ・サービス接客実務検定 2 級レベルのサービスに関する知識を習得し、問題が解ける ・サービス接客実務検定準 1 級レベルのサービス接客技術を修得し、実務として用いることができる 		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
サービス接客検定 1-2 級 実問題集 (第 58 回～第 64 回)	実務技能検定協会編	早稲田ビジネスサービス	1,800	9784776613107	冊子版
サービス接客検定 2 級 公式テキスト	実務技能検定協会 編	早稲田ビジネスサービス	1300	9784776613060	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	授業内で行う筆記試験、小テスト、授業態度や取り組みの姿勢などを総合して評価する。接客の実践として行うロールプレイの積極的な取り組みも評価の対象とする。遅刻・早退・劣悪な学習態度は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
授業内で行う小テスト及び確認テスト、模擬試験	40%	筆記試験にて理解度を確認します。
演習によるロールプレイによる立ち居振る舞いや言葉遣い	40%	授業内で学んだ内容が理解でき実践できているか。
課題発表	20%	事前課題を授業内で積極的に発表できるか

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学習</p> <p>①1週間のうち気になった新聞記事やニュースを調べ、所感をまとめる。(0.5 時間程度× 15 回)</p> <p>②毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと(0.5 時間程度× 15 回)</p> <p>事後学習</p> <p>①毎回の授業で学んだテキストの復習を行うこと(1 時間程度× 15 回)</p>

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.【講義・演習】 サービススタッフの資質 I オリエンテーション (PBL 課題解決型学習) 2.【講義・演習】 サービススタッフの資質 II (CS、接客、) (PBL 課題解決型学習) 3.【講義・演習】 専門知識 I (サービスの意義) (PBL 課題解決型学習) 4.【講義・演習】 専門知識 II (サービスの現場における行動) (PBL 課題解決型学習) 5.【講義・演習】 一般知識 I (ことわざ、慣用語、商取引用語) (PBL 課題解決型学習) 6.【講義・演習】 一般知識 II (商品、売買、その他商売用語) (PBL 課題解決型学習) 7.【講義・演習】 対人技能 I (接客マナーの基本) (PBL 課題解決型学習) 8.【講義・演習】 対人技能 II (サービススタッフとしてのマナー) (PBL 課題解決型学習) 9.【講義・演習】 実務技能 I (問題処理、環境整備、金品管理) (PBL 課題解決型学習) 10.【講義・演習】 実務技能 II (社交業務) (PBL 課題解決型学習) 11.【演習】 接客対応の基本 I (挨拶・接客用語・言葉遣い) 12.【演習】 接客対応の基本 II (立ち居振る舞い) 13.【演習】 接客対応ロールプレイ I (基本言動、接客応答) (グループワーク) 14.【演習】 接客対応ロールプレイ II (接客対応) (グループワーク) 15.【演習】 接客対応ロールプレイ III (総合練習) (グループワーク) <p>授業内で解く問題・試験について授業内で質問、疑問に答えフィードバックする。またロールプレイについては個別にコメントを行う。必要に応じて提出する課題は速やかにコメントを付けて返却し授業内で解説する。※ classroom を使用する場合があります。</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更する事もあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPCM2005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40150
科目	4015 プロジェクトプランニング	授業種別	週間授業
科目責任者	花岡 幹明	単位数	2 単位
担当教員	花岡 幹明		

授業概要	この授業では、プロジェクト(問題解決)活動を題材に、人間行動・組織行動を多角的に分析した経営学の諸理論を学習する。毎回の授業では、知識・情報を伝える講義と受講生が自ら考え、調べ、話し合う、主体的な学習スタイルを併用する。実践的な演習の題材として、ネット上での公開を目的とした学生の視点から地元企業の紹介記事の作成を行う。このような演習を通じてプロジェクトマネジメントのエッセンスを体験的に学習する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
到達目標	<p>当科目は、ディプロマポリシーに掲げる「就業力育成」の要となるビジネスの基礎知識や組織や組織行動、すなわち経営学のエッセンスの修得を目的としており、具体的には以下のような目標を設定する。</p> <p>①問題解決とビジネスの意義とその相違点を説明できる。 ②会社と企業(組織)の相違点を説明できる。 ③ビジネスにおける社会性について説明できる。 ④問題発見のプロセス(マーケティングリサーチ)について説明できる。 ⑤マネジメントのプロセスとしてプロジェクトの企画プロセスを説明し、且つ企画書の作成ができる。 ⑥個人の成長プロセスとしての経験学習について説明することができる。</p>						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特定のテキストは使用しませんが、毎回資料を配布します。参考図書等についても、授業内で適宜紹介します。
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているか、課題レポートと定期試験において評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	40%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前には、事前に指示された準備・学習を行っておくこと。(第2~15回/1時間程度) ・毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること。(第2~15回/1時間程度) ・「問題発見のプロセス」のグループワークに際しては、授業後に課題(ケーススタディ)を完成させること。(第5~6回/3時間程度) ・「プロジェクトプランの作成」と「実践・報告」のグループワークに際しては、授業後に課題(計画書、フィールドワーク、プレゼン資料)と最終課題であるプロジェクト報告書を完成させること。(第10~11,14~15回/3時間程度) <p>※講義資料やレポート課題の配布と提出は、学内LANの共有フォルダ内にて行う。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) ガイダンス:プロジェクトと問題解決 第2回 (講義) 問題解決とマネジメント 第3回 (講義) ビジネスと会社のしくみ 第4回 (講義・演習) 問題発見のプロセス(1) 地域の社会的課題を考える(ディスカッション) 第5回 (講義・演習) 問題発見のプロセス(2) いかにか課題に取り組むか:戦略策定プロセス(グループワーク) 第6回 (講義・演習) 問題発見のプロセス(3) 具体的課題について調べよう:環境分析(グループワーク) 第7回 (講義・演習) 組織の概念:問題解決(プロジェクト)の実行者について考える(ディスカッション) 第8回 (講義・演習) 社会起業とは(地元の社会起業家による講義とディスカッション) 第9回 (講義) プロジェクトマネジメント:プロジェクトの進め方 第10回 (講義・演習) プロジェクトプランの作成(1) 課題設定と活動計画の作り方(グループワーク) 第11回 (講義・演習) プロジェクトプランの作成(2) 問題点の発見と報告書の作り方(グループワーク) 第12回 (講義) 経験学習(1) 成長概念、モチベーションとリーダーシップ 第13回 (講義) 経験学習(2) 他者との関係性、プロフェッショナルリズムとホスピタリティ 第14回 (演習) プロジェクト活動の実践と報告(1) 報告書の改善と発表資料の作成(グループワーク) 第15回 (演習) プロジェクト活動の実践と報告(2) グループ発表(プレゼンテーション)</p> <p>※課題(テストやレポート等)については、授業内あるいは Classroom を通じて質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※グループワーク等の質問やアンケートの実施は、Google フォームを使用する。 ※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPAM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	40160		
科目	4016 ビジネス実務総論			授業種別	週間授業		
科目責任者	瀧崎 優佳			単位数	2 単位		
担当教員	瀧崎 優佳						
授業概要	今日のビジネスには、広範囲の知識と技術が要求される。仕事を確実に処理していくには、一般知識をはじめとした実務処理能力が必要となる。そこで、有能なワーカーとして活躍するための基礎理念や基本的な考え方、心構えを体系的に理解し、ビジネス実務に必要な言葉遣いや立ち居振る舞いを身につける。 ※この科目は当該授業内容に関する企業におけるビジネス実務の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
到達目標	1. 一般知識をはじめとした実務処理能力を体得する 2. ワーカーとして活躍するための基礎理念を体得する 3. 社会人としての心構え基本的なマナーを身につける						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
これだけは知っておきたい! 面接対策&ビジネスマナー		ウイネット	1200	9784872849141		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	期末試験および小テスト・課題・授業への積極的な取り組みで総合的に評価します。 なお、遅刻、早退や劣悪な学習態度は減点の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。
課題・実技	15%	課題に対して適切な内容になっているか。
ワーク・実技	15%	積極的に授業に取り組みグループディスカッションなどで自分の意見を述べているか。実技ができていないか。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	事前学習 ① 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと(1時間程度×14回) ② 新聞やニュースを読み自分の考えをまとめること(1時間程度×14回) 事後学習 ① 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(2時間程度×14回) ② 第16回定期試験に向けてテキストの復習を行うこと(4時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回 【講義】 ガイダンス「ビジネス実務に必要なこととは何か」 第2回 【講義】 社会人になるとは、なぜ働くのか、身だしなみ 第3回 【講義】 学生と社会人の違い(グループディスカッション) 第4回 【講義】 社会人としての心構え・社会人としての資質・職場の基本的なマナー 第5回 【講義・演習】 基本動作(立ち方、お辞儀の仕方、歩き方、発声練習) 第6回 【講義】 言葉遣い 第7回 【講義・演習】 話のしかた・聴き方 第8回 【講義】 敬語・正しい言葉遣いを身につける 第9回 【講義】 電話対応の基本 第10回 【講義・演習】 電話対応 (ロールプレイ実践) 第11回 【講義・演習】 電話対応 (ロールプレイ実践) 第12回 【講義・演習】 電話対応 様々な場面での対応(PBL 課題解決型) 第12回 【講義・演習】 訪問マナーと来客対応 名刺交換 第13回 【講義】 ビジネス文書・メール・手紙のマナー 第14回 【講義】 マナー総括 質問・自己宣言 第15回 【講義】 社会人になるにあたってまとめ 試験や課題のフィードバックは、講義内または Google Classroom で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答える。 授業内で解く問題に関してはその都度質問・疑問に対するフィードバックを行う。 ロールプレイに関しては個々にコメントを行いフィードバックする。必要に応じて提出する課題はコメントを付けて返却し授業内で解説する。* classroom を使用する場合があります。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。
--------------	---

ナンバリング	CPCM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	40230		
科目	4023 パソコン演習 I			授業種別	週間授業		
科目責任者	辰巳 智行			単位数	2 単位		
担当教員	辰巳 智行						
授業概要	<p>この講義は、パソコンに関する基本知識や技術を修得することを目的とする。スマートフォンが普及している今日でも、企業で働く際にパソコンの基本的な操作技能が求められる場面は多い。そのため、本講義では短大での学習や卒業後に活用できるパソコンの基礎的な知識や操作方法を身につけることを目標とする。本講義は下記の4点を中心に進めていく。</p> <p>(1) パソコンの概念や用語など基本的な知識を学ぶこと (2) Windows の基本的な操作を覚えること (3) 電子メールの送信方法やコラボレーションツール（遠隔講義やオンラインミーティングを含む）の使い方を学ぶこと (4) レポート・報告書・ビジネス文書などを書くこと（学修における生成 AI ツールの利用を含む） (5) オフィス・アプリケーション（Microsoft Office）の基本的な使い方を知ること</p> <p>パソコンに苦手意識がある学生は、それを克服すること。パソコン操作に自信がある学生は、更に多くの知識を身につけ、より効率的に、より簡易な方法で操作できることを目指す。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
到達目標	<p>(1) パソコンに関する概念や用語など基礎的な知識を理解し、説明できる (2) 基礎的な Windows 操作ができる (3) 電子メールやコラボレーションツールのしくみを理解して、適切なコミュニケーションができる (4) タッチタイピングの技術を習得する (5) 「ワード」「エクセル」などオフィス・アプリケーションでビジネス文書が作成できる (6) パソコンの機能や操作方法で、自分が何をしたいのか、何がわからないのか、他人に質問できる</p>						
テキスト(教科書)							
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考		
よくわかる Microsoft Word 2021 ドリル	FOM	FOM	1210	978-4-86775-032-2			
よくわかる Microsoft Excel 2021 ドリル	FOM	FOM	1210	978-4-86775-031-5			
よくわかる Microsoft Word 2024 & Microsoft Excel 2024 & Microsoft PowerPoint 2024 Office 2024 / Microsoft 365 対応	FOM	FOM	2640	978-4-86775-152-7			
よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365 対策テキスト & 問題集	FOM	FOM	2310	978-4-86775-069-8			
テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	<p>よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365 対策テキスト & 問題集 FOM 出版 定価 2,310 円(本体 2,100 円) ISBN コード 978-4-86775-056-8 (教科書 5 冊目)</p>						
成績評価	<p>講義時に実施する課題とレポートで評価する。 課題 講義中の課題への取り組み状況の評価する レポート パソコンで作成したレポートで、パソコンの操作やアプリの機能についての理解度を評価する</p>						
評価項目	割合	評価基準					
課題	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)					
レポート	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)					
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	<p>予習として、あらかじめのテキストを読み、予めテキストを熟読して内容を把握するとともに、分からない用語などは事前に調べておくこと(1.5 時間/回)。復習は、講義中に説明した操作を自力できるように練習して、分からなかった箇所を質問できるようにしておくこと。(1 時間/回)、講義前後の時間などを利用してタイピングの練習を各自で行うこと(方法は講義ガイドで説明する。)(0.5 時間/回)。</p> <p>本講義で修得した知識・技術を、他の講義で活用すること。 学習に必要なプリント等を配布する場合があります。</p>						
授業の実施方法と授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、主にパソコン操作演習の形式で実施する。 ・各回での進捗および疑問点等は、Google Classroom もしくは Forms で報告・質問することをもって講義への参加と見なす。課題や疑問点や質問については、講義で全体もしくは個別に回答・フォロー、フィードバックを行う。 ・ドリルや MOS 対策を受講者各人の理解度やテキストの進捗に合わせて、講義時間中もしくは講義外で進めていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること ・受講者の習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある <p>第 1 回【講義・演習】ガイダンス、Windows の基本操作 第 2 回【講義・演習】インターネット・ブラウザの基本操作、学内システムの紹介 第 3 回【講義・演習】Windows の概念・基本操作(ファイル操作等) 第 4 回【講義・演習】電子メールの概念と利用方法・電子メールの練習 第 5 回【講義・演習】電子メールの利用方法・電子メールの練習 2、学修における生成 AI 利用 第 6 回【講義・演習】コラボレーションツール(遠隔講義)の利用方法、 第 7 回【講義・演習】コラボレーションツール(オンラインミーティング)の利用方法 2 第 8 回【演習】Office ツールの基本操作 1 第 9 回【演習】Office ツールの基本操作 2 第 10 回【演習】スライドショー発表のグループワーク 第 11 回【演習】Word ドリル基礎 1 第 12 回【演習】Word ドリル基礎 2 第 13 回【演習】Word ドリル基礎 3 第 14 回【演習】Word ドリル基礎 4 第 15 回【演習】Word ドリル応用 1 第 16 回【演習】Word ドリル応用 2 第 17 回【演習】Word ドリル応用 3 第 18 回【演習】Word ドリル応用 4 第 19 回【演習】Excel ドリル基礎 1 第 20 回【演習】Excel ドリル基礎 2 第 21 回【演習】Excel ドリル基礎 3 第 22 回【演習】Excel ドリル基礎 4 第 23 回【演習】Excel ドリル応用 1 第 24 回【演習】Excel ドリル応用 2 第 25 回【演習】Excel ドリル応用 3 第 26 回【演習】Excel ドリル応用 4 第 27 回【演習】ドリルまとめ・総合問題演習 1 第 28 回【演習】ドリルまとめ・総合問題演習 2 第 29 回【演習】ドリルまとめ・総合問題演習 3 第 30 回【演習】まとめ</p>						
ナンバリング	CPAM1002						

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40231
科目	4023 パソコン演習 I	授業種別	週間授業
科目責任者	佐野 真一郎	単位数	2 単位
担当教員	佐野 真一郎		
授業概要	<p>この講義は、パソコンに関する基本知識や技術を修得することを目的とする。</p> <p>スマートフォンが普及している今日でも、企業で働く際にパソコンの基本的な操作技能が求められる場面は多い。そのため、本講義では短大での学習や卒業後に活用できるパソコンの基礎的な知識や操作方法を身につけることを目標とする。本講義は下記の 4 点を中心に進めていく。</p> <p>(1) パソコンの概念や用語など基本的な知識を学ぶこと (2) Windows の基礎的な操作を覚えること (3) 電子メールの送信方法やコラボレーションツール（遠隔講義やオンラインミーティングを含む）の使い方を学ぶこと (4) レポート・報告書・ビジネス文書などを書くこと（学修における生成 AI ツールの利用を含む） (5) オフィス・アプリケーション（Microsoft Office）の基本的な使い方を知ること</p> <p>パソコンに苦手意識がある学生は、それを克服すること。パソコン操作に自信がある学生は、更に多くの知識を身につけ、より効率的に、より簡易な方法で操作できることを目指す。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	<p>(1) パソコンに関する概念や用語など基礎的な知識を理解し、説明できる (2) 基礎的な Windows 操作ができる (3) 電子メールやコラボレーションツールのしくみを理解して、適切なコミュニケーションができる (4) タッチタイピングの技術を習得する (5) 「ワード」「エクセル」などオフィス・アプリケーションでビジネス文書が作成できる (6) パソコンの機能や操作方法で、自分が何をしたいのか、何がわからないのか、他人に質問できる</p>		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
よくわかる Microsoft Word 2021 ドリル	FOM	FOM	1210	978-4-86775-032-2	
よくわかる Microsoft Excel 2021 ドリル	FOM	FOM	1210	978-4-86775-031-5	
くわかる Microsoft Word 2024 Microsoft Excel 2024 Microsoft PowerPoint 2024 Office 2024 / Microsoft 365 対応	FOM	FOM	2640	978-4-86775-152-7	
よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365 対策テキスト問題集	FOM	FOM	2310	978-4-86775-069-8	
よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365 対策テキスト問題集	FOM	FOM	2310	978-4-86775-056-8	

成績評価	<p>講義時に実施する課題とレポートで評価する。 課題 講義中の課題への取り組み状況の評価する レポート パソコンで作成したレポートで、パソコンの操作やアプリの機能についての理解度を評価する</p>	
評価項目	割合	評価基準
課題	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
レポート	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>予習として、あらかじめのテキストを読み、予めテキストを熟読して内容を把握するとともに、分からない用語などは事前に調べておくこと (1.5 時間 / 回)。復習は、講義中に説明した操作を自力できるように練習して、分からなかった箇所を質問できるようにしておくこと。(1 時間 / 回)、講義前後の時間などを利用してタイピングの練習を各自で行うこと (方法は講義ガイドで説明する。)(0.5 時間 / 回)。</p> <p>本講義で修得した知識・技術を、他の講義で活用すること。 学習に必要なプリント等を配布する場合がある。</p>

授業の実施方法と授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、主にパソコン操作演習の形式で実施する。 ・各回での進捗および疑問点等は、Google Classroom もしくは Forms で報告・質問することをもって講義への参加と見なす。課題や疑問点や質問については、講義で全体もしくは個別に回答・フォロー、フィードバックを行う。 ・ドリルや MOS 対策を受講者各人の理解度やテキストの進捗に合わせて、講義時間中もしくは講義外で進めていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること ・受講者の習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある <p>第 1 回【講義・演習】ガイダンス、Windows の基本操作 第 2 回【講義・演習】インターネット・ブラウザの基本操作、学内システムの紹介 第 3 回【講義・演習】Windows の概念・基本操作 (ファイル操作等) 第 4 回【講義・演習】電子メールの概念と利用方法・電子メールの練習 第 5 回【講義・演習】電子メールの利用方法・電子メールの練習 2、学修における生成 AI 利用 第 6 回【講義・演習】コラボレーションツール (遠隔講義) の利用方法 第 7 回【講義・演習】コラボレーションツール (オンラインミーティング) の利用方法 2 第 8 回【演習】Office ツールの基本操作 1 第 9 回【演習】Office ツールの基本操作 2 第 10 回【演習】スライドショー発表のグループワーク 第 11 回【演習】Word ドリル基礎 1 第 12 回【演習】Word ドリル基礎 2 第 13 回【演習】Word ドリル基礎 3 第 14 回【演習】Word ドリル基礎 4 第 15 回【演習】Word ドリル応用 1 第 16 回【演習】Word ドリル応用 2 第 17 回【演習】Word ドリル応用 3 第 18 回【演習】Word ドリル応用 4 第 19 回【演習】Excel ドリル基礎 1 第 20 回【演習】Excel ドリル基礎 2 第 21 回【演習】Excel ドリル基礎 3 第 22 回【演習】Excel ドリル基礎 4 第 23 回【演習】Excel ドリル応用 1 第 24 回【演習】Excel ドリル応用 2 第 25 回【演習】Excel ドリル応用 3 第 26 回【演習】Excel ドリル応用 4 第 27 回【演習】ドリルまとめ・総合問題演習 1 第 28 回【演習】ドリルまとめ・総合問題演習 2 第 29 回【演習】ドリルまとめ・総合問題演習 3 第 30 回【演習】まとめ</p>
--------------	--

ナンバリング	CPAM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40240
科目	4024 パソコン演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	辰巳 智行	単位数	2 単位
担当教員	辰巳 智行		
授業概要	<p>この講義は、パソコンに関する基本知識や技術を修得し、特に学習やビジネスの場面で必要な文書作成能力やデータ分析表現能力を身につけること目的とする。</p> <p>レポート作成やビジネスの場面では、パソコンを使ってデータの分析をしたり、資料・レポートをまとめて文書にする能力が求められる。それに対応できるように、オフィス・アプリケーション (Microsoft Office) の機能を理解して、操作方法を身につけ、「マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 資格」の出題範囲に準じた操作技術を身につけ、Word や Excel で自分が実現したい機能を、書籍やインターネットを通じて、検索して解決できるようになることを目標とする。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	<p>(1) Word, Excel について MOS の出題範囲の機能を理解して、自ら操作ができる</p> <p>(2) エクセルの基本機能を理解して、数表・グラフ・データベース処理をもちいたビジネス文書が作成できること</p> <p>(3) パソコンの機能や操作方法で、自分が何をしたいのか、何がわからないのか、他人に質問できること</p> <p>(4) 実現したい機能や分からない操作方法をインターネットなどで検索して解決できること</p>		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
MOS Excel 365 対策テキスト&問題集	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	2100	9784867750568	
MOS Word 365 対策テキスト&問題集	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	2100	9784867750698	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	<p>講義時に実施する課題への取り組みとレポートで評価する。</p> <p>課題： 講義中の課題への取り組み状況やフィードバックを評価する</p> <p>レポート： パソコンで作成したレポートで、パソコンの操作やアプリの機能についての理解度を評価する</p>	
評価項目	割合	評価基準
課題	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
レポート	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)

受講条件	必修科目 (本講義は、2022 年度春学期開講の「パソコン演習Ⅰ」の内容を前提とする。)
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>予習として、あらかじめのテキストを読み、予めテキストを熟読して内容を把握するとともに、分からない用語などは事前に調べておくこと (1.5 時間 / 回)。復習は、講義中に説明した操作を自力できるように練習して、分からなかった箇所を質問できるようにしておくこと (1 時間 / 回)、講義前後の時間などを利用してタイピングの練習を各自で行うこと (方法は講義ガイダンスで説明する) (0.5 時間 / 回)。</p> <p>本講義で修得した知識・技術を、他の講義で活用すること。 学習に必要なプリント等を配布する場合があります。</p>

授業の実施方法と授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、主にパソコン操作演習の形式で実施する ・各講義回ごとの進捗および疑問点等は、講義回ごとに Google Classroom もしくは Forms で報告・質問すること。この報告・質問の提出により講義への参加とみなす。提出された課題や疑問点、質問については、講義全体で説明するか、もしくは個別に回答・フォロー、フィードバックを行う。 ・講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること ・受講者の習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある <p>第 1 回【講義】ガイダンス、MOS の紹介 第 2 回【演習】MOS Word 出題範囲 1 文書の管理前 第 3 回【演習】MOS Word 出題範囲 1 文書の管理後 第 4 回【演習】MOS Word 出題範囲 2 文字、段落、セクションの挿入と書式設定前 第 5 回【演習】MOS Word 出題範囲 2 文字、段落、セクションの挿入と書式設定後 第 6 回【演習】MOS Word 出題範囲 3 表やリストの管理前 第 7 回【演習】MOS Word 出題範囲 3 表やリストの管理後 第 8 回【演習】MOS Word 出題範囲 4 参考資料の作成と管理 第 9 回【演習】MOS Word 出題範囲 5 グラフィック要素の挿入と書式設定前 第 10 回【演習】MOS Word 出題範囲 5 グラフィック要素の挿入と書式設定後 第 11 回【演習】MOS Word 出題範囲 6 文書の共同作業の管理 第 12 回【演習】MOS Word 第 1 回模擬試験 第 13 回【演習】MOS Word 第 2 回模擬試験 第 14 回【演習】MOS Word 第 3 回模擬試験 第 15 回【演習】MOS Word 第 4 回模擬試験 第 16 回【演習】MOS Excel 出題範囲 1 ワークシートやブックの管理前 第 17 回【演習】MOS Excel 出題範囲 1 ワークシートやブックの管理後 第 18 回【演習】MOS Excel 出題範囲 2 セルやセル範囲のデータの管理前 第 19 回【演習】MOS Excel 出題範囲 2 セルやセル範囲のデータの管理後 第 20 回【演習】MOS Excel 出題範囲 3 テーブルとテーブルのデータの管理前 第 21 回【演習】MOS Excel 出題範囲 3 テーブルとテーブルのデータの管理後 第 22 回【演習】MOS Excel 出題範囲 4 数式や関数を使用した演算の実行前 第 23 回【演習】MOS Excel 出題範囲 4 数式や関数を使用した演算の実行後 第 24 回【演習】MOS Excel 出題範囲 5 グラフの管理前 第 25 回【演習】MOS Excel 出題範囲 5 グラフの管理後 第 26 回【演習】MOS Excel 第 1 回模擬試験 第 27 回【演習】MOS Excel 第 2 回模擬試験 第 28 回【演習】MOS Excel 第 3 回模擬試験 第 29 回【演習】MOS Excel 第 4 回模擬試験 第 30 回【演習】まとめ</p>
--------------	---

ナンバリング	CPAM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40241
科目	4024 パソコン演習Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	佐野 真一郎	単位数	2 単位
担当教員	佐野 真一郎		
授業概要	<p>この講義は、パソコンに関する基本知識や技術を修得し、特に学習やビジネスの場面で必要な文書作成能力やデータ分析・表現能力を身につけることとする。</p> <p>レポート作成やビジネスの場面では、パソコンを使ってデータの分析をしたり、資料・レポートをまとめて文書にする能力が求められる。それに対応できるように、オフィス・アプリケーション (Microsoft Office) の機能を理解して、操作方法を身につけ、「マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 資格」の出題範囲に準じた操作技術を身につけ、Word や Excel で自分が実現したい機能を、書籍やインターネットを通じて、検索して解決できるようになることを目標とする。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		
到達目標	<p>(1) Word , Excel について MOS の出題範囲の機能を理解して、自ら操作ができる</p> <p>(2) エクセルの基本機能を理解して、数表・グラフ・データベース処理をもちいたビジネス文書が作成できること</p> <p>(3) パソコンの機能や操作方法で、自分が何をしたいのか、何がわからないのか、他人に質問できること</p> <p>(4) 実現したい機能やわからない操作方法をインターネットなどで検索して解決できること</p>		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
MOS Excel 365 対策テキスト&問題集	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	2100	9784867750568	
MOS Word 365 対策テキスト&問題集	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	2100	9784867750698	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	<p>講義時に実施する課題への取り組みとレポートで評価する。</p> <p>課題： 講義中の課題への取り組み状況やフィードバックを評価する</p> <p>レポート： パソコンで作成したレポートで、パソコンの操作やアプリの機能についての理解度を評価する</p>	
評価項目	割合	評価基準
課題	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
レポート	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)

受講条件	必修科目 (本講義は、2022 年度春学期開講の「パソコン演習Ⅰ」の内容を前提とする。)
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>予習として、あらかじめのテキストを読み、予めテキストを熟読して内容を把握するとともに、分からない用語などは事前に調べておくこと (1.5 時間 / 回)。復習は、講義中に説明した操作を自力できるように練習して、分からなかった箇所を質問できるようにしておくこと。(1 時間 / 回)、講義前後の時間などを利用してタイピングの練習を各自で行うこと (方法は講義ガイダンスで説明する) (0.5 時間 / 回)。</p> <p>本講義で修得した知識・技術を、他の講義で活用すること。 学習に必要なプリント等を配布する場合がある。</p>

授業の実施方法と授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、主にパソコン操作演習の形式で実施する ・各講義回ごとの進捗および疑問点等は、講義回ごとに Google Classroom もしくは Forms で報告・質問すること。この報告・質問の提出により講義への参加とみなす。提出された課題や疑問点、質問については、講義全体で説明するか、もしくは個別に回答・フォロー、フィードバックを行う。 ・講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること ・受講者の習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある <p>第 1 回【講義】ガイダンス、MOS の紹介 第 2 回【演習】MOS Word 出題範囲 1 文書の管理前 第 3 回【演習】MOS Word 出題範囲 1 文書の管理後 第 4 回【演習】MOS Word 出題範囲 2 文字、段落、セクションの挿入と書式設定前 第 5 回【演習】MOS Word 出題範囲 2 文字、段落、セクションの挿入と書式設定後 第 6 回【演習】MOS Word 出題範囲 3 表やリストの管理前 第 7 回【演習】MOS Word 出題範囲 3 表やリストの管理後 第 8 回【演習】MOS Word 出題範囲 4 参考資料の作成と管理 第 9 回【演習】MOS Word 出題範囲 5 グラフィック要素の挿入と書式設定前 第 10 回【演習】MOS Word 出題範囲 5 グラフィック要素の挿入と書式設定後 第 11 回【演習】MOS Word 出題範囲 6 文書の共同作業の管理 第 12 回【演習】MOS Word 第 1 回模擬試験 第 13 回【演習】MOS Word 第 2 回模擬試験 第 14 回【演習】MOS Word 第 3 回模擬試験 第 15 回【演習】MOS Word 第 4 回模擬試験 第 16 回【演習】MOS Excel 出題範囲 1 ワークシートやブックの管理前 第 17 回【演習】MOS Excel 出題範囲 1 ワークシートやブックの管理後 第 18 回【演習】MOS Excel 出題範囲 2 セルやセル範囲のデータの管理前 第 19 回【演習】MOS Excel 出題範囲 2 セルやセル範囲のデータの管理後 第 20 回【演習】MOS Excel 出題範囲 3 テーブルとテーブルのデータの管理前 第 21 回【演習】MOS Excel 出題範囲 3 テーブルとテーブルのデータの管理後 第 22 回【演習】MOS Excel 出題範囲 4 数式や関数を使用した演算の実行前 第 23 回【演習】MOS Excel 出題範囲 4 数式や関数を使用した演算の実行後 第 24 回【演習】MOS Excel 出題範囲 5 グラフの管理前 第 25 回【演習】MOS Excel 出題範囲 5 グラフの管理後 第 26 回【演習】MOS Excel 第 1 回模擬試験 第 27 回【演習】MOS Excel 第 2 回模擬試験 第 28 回【演習】MOS Excel 第 3 回模擬試験 第 29 回【演習】MOS Excel 第 4 回模擬試験 第 30 回【演習】まとめ</p>
--------------	---

ナンバリング	CPAM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40250
科目	4025 実務英語	授業種別	週間授業
科目責任者	大木 ひろみ	単位数	2 単位
担当教員	大木 ひろみ		
授業概要	<p>ビジネス英語初心者の大学生向けのテキストを使用してビジネス英語の基礎を学ぶ。 テキストは、特にホスピタリティ業界（ホテル、旅館、レストラン、航空会社、旅行会社、エンターテインメントなど）で働くことに興味がある学習者向けに作られている。ホテルの予約（電話予約）やチェックインの対応、レストランでの飲食物の提供、道案内、困っているお客さんのサポート、顧客からのクレーム対応など、実務的な接客業務を想定したボキャブラリー、文法、会話練習が盛り込まれており、効果的にコミュニケーション能力を身に付けていくことができる。実際の場面で役立つ会話表現を聞き取り、聞き取った重要表現をペアで練習して覚えていく。各ユニットには、そのユニットで扱う重要表現に関する文法の説明があるので、中学・高校で学習した文法事項を再確認していく。会話は全て客との会話なので、自分が海外旅行や出張で客の立場になった時の会話を養う上でも大変有益である。 又、ビジネスコミュニケーション能力を測る TOEIC テストを受験するための基礎的な英語力を身に付けるようにしていく。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	
到達目標	<p>中学・高校で学習した重要表現や文法事項を再確認する。 ビジネス英語（特にホスピタリティ業界で、お客様対応に必要な英語）を身に付ける。 TOEICテストを受験するための基礎力を身に付ける。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
Speaking of Hospitality おもてなしの気持ちを伝える英会話	Alan Meadows	南雲堂	2,750 円	978-4-523-17988-7	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	中間試験、定期試験および小テストによって、授業の到達目標がどの程度達成できているかを評価する。原則として毎回出席すること。6回以上欠席（遅刻は3回で1回の欠席とみなす）した場合および試験を欠席した場合は不合格の対象となる。	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	45%	筆記試験にて授業で学んだ内容の理解度を確認する。
期末試験	45%	筆記試験にて授業で学んだ内容の理解度を確認する。
小テスト	10%	授業で学んだ会話をペアで暗唱し、暗記・発音・イントネーションなどの完成度で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<p>自習用音声ファイル(授業 CD と同じ内容)をストリーミング再生、またはダウンロードすることができるので、予習・復習に活用すること。 毎回の授業計画にそって予習(単語の意味を調べる・音声ファイルで発音練習など)をすること(0.5 時間程度 × 13回)。 授業後復習(音声ファイルを使って発音しながら重要表現を暗記するなど)をすること(1時間程度 × 13回)。 中間試験の出題範囲の復習をすること(4時間程度)。 中間試験の答案返却後、間違えた個所の復習をすること(0.5 時間程度)。 小テスト(会話を暗唱)のための練習を音声ファイルを使ってすること(2時間程度)。 定期試験の出題範囲の復習をすること(4時間程度)。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(講義・演習) ガイダンス(授業の進め方、予習・復習のやり方、授業外の学習方法など) Unit 1 Speaking About Yourself 第2回(講義・演習) Unit 1 Speaking About Yourself, Unit 2 Could I Have Your Name, Please? 第3回(講義・演習) Unit 2 Could I Have Your Name, Please? 第4回(講義・演習) Unit 3 Your Room Is On The 12th Floor 第5回(講義・演習) Unit 3 Your Room Is On The 12th Floor, Unit 4 Are You Ready To Order? 第6回(講義・演習) Unit 4 Are You Ready To Order? 第7回(講義・演習) Unit 5 Do We Have Enough Wine? 第8回(講義・演習) Unit 1 ~ Unit 5 の復習 第9回(講義・演習) Unit 6 I'll Try The Sashimi 第10回(講義・演習) Unit 6 I'll Try The Sashimi, Unit 7 I'd Like To Book A Room 第11回(講義・演習) Unit 7 I'd Like To Book A Room 第12回(講義・演習) Unit 8 I'm Looking For A Souvenir 第13回(講義・演習) Unit 8 I'm Looking For A Souvenir, Unit 9 What Seems To Be The Problem? 第14回(講義・演習) Unit 9 What Seems To Be The Problem? 第15回(講義・演習) Unit 6 ~ Unit 9 の復習</p> <p>試験や課題のフィードバックは、講義内で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答える。 中間試験および小テストについては、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPAM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40251
科目	4025 実務英語	授業種別	週間授業
科目責任者	大木 ひろみ	単位数	2 単位
担当教員	大木 ひろみ		
授業概要	<p>ビジネス英語初心者の大学生向けのテキストを使用してビジネス英語の基礎を学ぶ。 テキストは、特にホスピタリティ業界（ホテル、旅館、レストラン、航空会社、旅行会社、エンターテインメントなど）で働くことに興味がある学習者向けに作られている。ホテルの予約（電話予約）やチェックインの対応、レストランでの飲食物の提供、道案内、困っているお客さんのサポート、顧客からのクレーム対応など、実務的な接客業務を想定したボキャブラリー、文法、会話練習が盛り込まれており、効果的にコミュニケーション能力を身に付けていくことができる。実際の場面で役立つ会話表現を聞き取り、聞き取った重要表現をペアで練習して覚えていく。各ユニットには、そのユニットで扱う重要表現に関する文法の説明があるので、中学・高校で学習した文法事項を再確認していく。会話文は全て客との会話なので、自分が海外旅行や出張で客の立場になった時の会話力を養う上でも大変有益である。 又、ビジネスコミュニケーション能力を測る TOEIC テストを受験するための基礎的な英語力を身に付けるようにしていく。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	
到達目標	<p>中学・高校で学習した重要表現や文法事項を再確認する。 ビジネス英語（特にホスピタリティ業界で、お客様対応に必要な英語）を身に付ける。 TOEIC テストを受験するための基礎力を身に付ける。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
Speaking of Hospitality おもてなしの気持ちを伝える英会話	Alan Meadows	南雲堂	2,750 円	978-4-523-17988-7	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	<p>中間試験、定期試験および小テストによって、授業の到達目標がどの程度達成できているかを評価する。原則として毎回出席すること。6回以上欠席（遅刻は3回で1回の欠席とみなす）した場合および試験を欠席した場合は不合格の対象となる。</p>	
評価項目	割合	評価基準
中間試験	45%	筆記試験にて授業で学んだ内容の理解度を確認する。
期末試験	45%	筆記試験にて授業で学んだ内容の理解度を確認する。
小テスト	10%	授業で学んだ会話文をペアで暗唱し、暗記・発音・イントネーションなどの完成度で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<p>自習用音声ファイル(授業 CD と同じ内容)をストリーミング再生、またはダウンロードすることができるので、予習・復習に活用すること。 毎回の授業計画にそって予習(単語の意味を調べる・音声ファイルで発音練習など)をすること(0.5 時間程度 × 13回)。 授業後復習(音声ファイルを使って発音しながら重要表現を暗記するなど)をすること(1時間程度 × 13回)。 中間試験の出題範囲の復習をすること(4時間程度)。 中間試験の答案返却後、間違えた個所の復習をすること(0.5 時間程度)。 小テスト(会話文を暗唱)のための練習を音声ファイルを使ってすること(2時間程度)。 定期試験の出題範囲の復習をすること(4時間程度)。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(講義・演習) ガイダンス(授業の進め方、予習・復習のやり方、授業外の学習方法など) Unit 1 Speaking About Yourself 第2回(講義・演習) Unit 1 Speaking About Yourself, Unit 2 Could I Have Your Name, Please? 第3回(講義・演習) Unit 2 Could I Have Your Name, Please? 第4回(講義・演習) Unit 3 Your Room Is On The 12th Floor 第5回(講義・演習) Unit 3 Your Room Is On The 12th Floor, Unit 4 Are You Ready To Order? 第6回(講義・演習) Unit 4 Are You Ready To Order? 第7回(講義・演習) Unit 5 Do We Have Enough Wine? 第8回(講義・演習) Unit 1 ~ Unit 5 の復習 第9回(講義・演習) Unit 6 I' ll Try The Sashimi 第10回(講義・演習) Unit 6 I' ll Try The Sashimi, Unit 7 I' d Like To Book A Room 第11回(講義・演習) Unit 7 I' d Like To Book A Room 第12回(講義・演習) Unit 8 I' m Looking For A Souvenir 第13回(講義・演習) Unit 8 I' m Looking For A Souvenir, Unit 9 What Seems To Be The Problem? 第14回(講義・演習) Unit 9 What Seems To Be The Problem? 第15回(講義・演習) Unit 6 ~ Unit 9 の復習</p> <p>試験や課題のフィードバックは、講義内で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答える。 中間試験および小テストについては、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPAM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40270
科目	4027 ライフ・コーディネート (人生とお金)	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧崎 優佳	単位数	2 単位
担当教員	瀧崎 優佳		

授業概要	<p>社会人として最低限度必要なお金についての知識を身に付け自分の人生をライフプランニングとマネープランニングの双方から考えていくことができるようになることを目的とする。 将来設計としてライフプランニングを行い、そこに間のお金について考える。 就職して自立するにあたり、お金に対する意識をしっかりと自覚するように取り組む。 また働いて何をしたいのか自分の将来について明確に可視化し、そのための行動について目標を立て、卒業後の行動につなげる。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関するキャリアコンサルタント、ワークライフバランスコンサルタントの資格をもち企業等において実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>		
------	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の「仕事」と「将来」を「お金」という切り口で考えられること 2. 自分にとって「素敵なライフプラン」が立てられること 3. 社会人として、最低限度必要なお金の知識を身につけること 4. 就職をゴールとして考えるのではなくその後の行動を考える 5. 行動を実践するために具体的な目標を立てる
------	---

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	<p>授業内で使用テキストを配布する。 「これであなたもひとり立ち」(無料) 「ドリームマップワークブック」1,000 円※授業内で徴収する</p>
-------------------------------	--

成績評価	<p>作文、提出課題、授業中のへの取り組み状況、積極性、発言議論への貢献度などで総合的に評価する。 遅刻、早退や劣悪な学習態度は減点の対象となる場合があります。</p>	
評価項目	割合	評価基準
レポート、作文、提出課題	70%	課題に対して適切な内容になっているか確認する。
授業中のへの取り組み状況、積極性、発言議論への貢献度など	30%	積極的な発言、ペアワーク、グループワークでの参加態度で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 毎授業前に指定箇所までテキストを読んでおくこと (1 時間程度× 14 回) ② 授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること (1 時間程度× 14 回) ③ ライフプラン作成に向けて情報収集をすること (2 時間程度) <p>事後学習</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること (2 時間程度× 15 回)

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 回 【講義】 オリエンテーション 「今、なぜお金について学ばなければならないか」 第 2 回 【講義】 夢、実現!それとも? 第 3 回 【講義】 自立のための意思決定～アイデンティティ確立のために (ペアワーク) 第 4 回 【講義】 私の命をはぐくんでお金はいくら?～ゆりかごから 19 年 (ペアワーク) 第 5 回 【講義】 社会人になるための経済学～求人票から読み取れること (ペアワーク) 第 6 回 【講義】 ひとり暮らしシミュレーション 第 7 回 【講義】 カード社会の歩き方 (グループディスカッション) 第 8 回 【講義】 おいしい話にご用心!悪徳商法と戦う!～手段はまだある (PBL) 第 9 回 【講義】 お金の使い方、借り方、貯め方 (外部講師) 第 10 回 【講義】 ワークライフバランスについて考える① 第 11 回 【講義】 ワークライフバランスについて考える② 第 12 回 【講義】 ライフプランニング①自己分析・目標設定 第 13 回 【講義・演習】 ライフプランニング②ライフプラン・ドリームマップ作成 第 14 回 【講義・演習】 ライフプランニング③ドリームマップ発表 (プレゼンテーション) 第 15 回 【講義】 ライフプランニング④行動計画</p> <p>課題・レポート等については必要に応じてコメントを加え、フィードバックして返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜授業内や個別に回答します。グループディスカッション等では各自に対してコメントを加えたフィードバックを行います。 ※ classroom を使用する場合があります。</p> <p>★ただし、受講生との習熟度によって授業計画を変更することがあります</p>
--------------	--

ナンバリング	CPDM2017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	40180		
科目	4018 計算実務			授業種別	週間授業		
科目責任者	木下 勝義			単位数	2 単位		
担当教員	木下 勝義						
授業概要	単位の換算や割合に関する計算のように、日常生活の中でもよく使われる計算知識は意外と多く、実務においても、これらは頻繁に用いられるものである。本講義では、改めて計算知識とその有用性を検討し、実務の面で必要とされる計算知識と技術を学び、個々の計算能力を高め、応用力をつけていく。また、一般職や事務職の就職試験で用いられる SPI (非言語系問題) や事務能力検査に対応した問題を取り上げ、幅広い教養を身に付けるとともに、就職活動に向けた基礎的対策を行っていく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般事務能力の基礎となる四則演算、単位換算、小数・分数の計算ができる。 2. グラフや表の読み取りや作成ができる。 3. 割合、金利などの実社会で必要とされる課題が解決できる。 4. 応用問題として、簿記の基礎となる売買・精算の問題等を理解し解くことができる。 						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	1 時間目のガイダンス時に問題冊子を配布する。また各時間ごとに主に計算問題のプリントを配布する。 この他に、課題や練習問題など、適宜配布する。
-------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。なお、遅刻・早退や劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。評価は期末試験 (筆記試験) と授業内で実施する小テスト及びプリント提出状況を総合しておこなう。期末試験については詳細はガイダンス時に説明する。授業内小テストは、ほぼ毎回実施し、評価に組み入れる場合は、事前に告知する。評価配分についても、詳細はガイダンス時に説明する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	期末試験は筆記試験でその解答状況で評価する。
小テスト	30%	各授業終了後小テストを行い、その解答状況で評価する。
課題提出	20%	プリントや課題などへの取組状況と提出状況で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学修として問題冊子の関連部分を予習していただくこと。(第 2~ 第 15 回 /1 時間程度) 2. 事後学修として授業で得た学びを整理し確実なものとしておくこと。(第 1~ 第 14 回 / 1 時間程度) 3. 毎時間、授業の前半では計算演習プリントを配布し演習を行う。その内容の小テストを次の授業で実施することから、小テストに向けた準備をしていただくこと。(第 3~ 第 15 回 /0.5 時間程度) 4. 授業で生じた疑問や問題習熟のために追加課題を配布する。この課題を次回の授業までに調べて提出すること。(第 2~ 第 14 回 /0.5 時間程度) 5. これまで取り組んだ小テストや問題冊子などを整理し、定期試験範囲の復習を行うこと。(第 14~ 第 15 回 / 2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) ガイダンス 到達度確認テスト</p> <p>第2回 (講義) 数と式 (1) 四則演算</p> <p>第3回 (講義) 数と式 (2) 百分率・分数</p> <p>第4回 (講義) 数と式 (3) 単位計算</p> <p>第5回 (講義) 数と式 (4) 方程式の基礎</p> <p>第6回 (講義・演習) 数と式 (5) 方程式の応用 (文章から、グループワークで問題解決方法を探求し、発表する。)</p> <p>第7回 (講義) 数的処理 (1) 損益算</p> <p>第8回 (講義) 数的処理 (2) 分割払い・仕事算</p> <p>第9回 (講義) 数的処理 (3) 速度・旅人算</p> <p>第11回 (講義) 数的処理 (4) 濃度</p> <p>第12回 (講義) 数的処理 (5) 集合・論理</p> <p>第13回 (講義) 表の読み取り</p> <p>第14回 (講義) 金利計算の基礎・金利計算</p> <p>第15回 (講義・演習) 応用 (文章から、グループワークで問題解決方法を探求し、発表する。)</p> <p>※試験や課題のフィードバックは、講義内で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答える。 ※小テストを実施した場合、次回に返却し、問題点を指摘するとともに、各自で復習する。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPDM1011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40181
科目	4018 計算実務	授業種別	週間授業
科目責任者	木下 勝義	単位数	2 単位
担当教員	木下 勝義		

授業概要	単位の換算や割合に関する計算のように、日常生活の中でもよく使われる計算知識は意外と多く、実務においても、これらは頻繁に用いられるものである。本講義では、改めて計算知識とその有用性を検討し、実務の面で必要とされる計算知識と技術を学び、個々の計算能力を高め、応用力をつけていく。また、一般職や事務職の就職試験で用いられる SPI (非言語系問題) や事務能力検査に対応した問題を取り挙げ、幅広い教養を身に付けるとともに、就職活動に向けた基礎的対策を行っていく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般事務能力の基礎となる四則演算、単位換算、小数・分数の計算ができる。 2. グラフや表の読み取りや作成ができる。 3. 割合、金利などの実社会で必要とされる課題が解決できる。 4. 応用問題として、簿記の基礎となる売買・精算の問題等を理解し解くことができる。 						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	1時間目のガイダンス時に問題冊子を配布する。また、各時間ごとに主に計算問題のプリントを配布する。 この他に、課題や練習問題など、適宜配布する。
-------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。なお、遅刻・早退や劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。評価は期末試験 (筆記試験) と授業内で実施する小テスト及びプリント提出状況を総合しておこなう。期末試験については詳細はガイダンス時に説明する。授業内小テストは、ほぼ毎回実施し、評価に組み入れる場合は、事前に告知する。評価配分についても、詳細はガイダンス時に説明する。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	50%	期末試験は筆記試験でその解答状況で評価する。
小テスト	30%	各授業終了後小テストを行い、その解答状況で評価する。
課題提出	20%	プリントや課題などへの取組状況と提出状況で評価する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修 (内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学修として問題冊子の関連部分を予習して頂くこと。(第 2~ 第 15 回 / 1時間程度) 2. 事後学修として授業で得た学びを整理し確実なものとしておくこと。(第 1~ 第 14 回 / 1時間程度) 3. 毎時間、授業の前半では計算演習プリントを配布し演習を行う。その内容の小テストを次の授業で実施することから、小テストに向けた準備をして頂くこと。(第 3~ 第 15 回 / 0.5 時間程度) 4. 授業で生じた疑問や問題習熟のために追加課題を配布する。この課題を次回の授業までに調べて提出すること。(第 2~ 第 14 回 / 0.5 時間程度) 5. これまで取り組んだ小テストや問題冊子などを整理し、定期試験範囲の復習を行うこと。(第 14~ 第 15 回 / 2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) ガイダンス 到達度確認テスト</p> <p>第2回 (講義) 数と式 (1) 四則演算</p> <p>第3回 (講義) 数と式 (2) 百分率・分数</p> <p>第4回 (講義) 数と式 (3) 単位計算</p> <p>第5回 (講義) 数と式 (4) 方程式の基礎</p> <p>第6回 (講義・演習) 数と式 (5) 方程式の応用 (文章から、グループワークで問題解決方法を探求し、発表する。)</p> <p>第7回 (講義) 数的処理 (1) 損益算</p> <p>第8回 (講義) 数的処理 (2) 分割払い・仕事算</p> <p>第9回 (講義) 数的処理 (3) 速度・旅人算</p> <p>第11回 (講義) 数的処理 (4) 濃度</p> <p>第12回 (講義) 数的処理 (5) 集合・論理</p> <p>第13回 (講義) 表の読み取り</p> <p>第14回 (講義) 金利計算の基礎・金利計算</p> <p>第15回 (講義・演習) 応用 (文章から、グループワークで問題解決方法を探求し、発表する。)</p> <p>※試験や課題のフィードバックは、講義内で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答える。 ※小テストを実施した場合、次回に返却し、問題点を指摘するとともに、各自で復習する。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPDM1011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40410
科目	4041 ビジネス実務演習	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧崎 優佳	単位数	2 単位
担当教員	瀧崎 優佳		
授業概要	<p>現代のビジネス社会においては、豊かな実務知識と技能を必要とされる。その内容は、日程の管理、受付対応、交際業務、文書業務、文書整理、情報の収集など多岐にわたる。ビジネス実務総論で学んだ社会人としての目的意識の上に、必要な実務能力を演習を通して体得する。</p> <p>秘書検定 2 級レベルの知識を身につける。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する秘書検定に携わり、企業における秘書の実務経験を有する教員がその経験を活かして講義等を行う科目です。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○
到達目標	ビジネス全般の知識やマナーを修得し、秘書技能検定 2 級レベルの問題が解け、かつ、同程度の実務に対応できること		

テキスト(教科書)		著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
書籍名						
秘書検定2級 クイックマスター 改訂2版		公益財団法人 実務技能検定協会 編	早稲田教育出版	1,300 円(+消費税)	9784776610311	
秘書検定2級 実問題集 2026 年度版		公益財団法人 実務技能検定 編	早稲田教育出版	1,600 円(+消費税)	未定	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	<p>期末試験、小テスト、演習課題の提出、授業中のへの取り組み状況、積極性、発言議論への貢献度等を総合評価します。</p> <p>また、面接対策講座の取り組み状況も評価の対象とします。</p> <p>なお、遅刻・早退・劣悪な学習態度は減点の対象となる場合があります。</p>	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認します。
授業内で行う小テストおよび演習課題の提出と授業中のへの取り組み状況、積極性、発言議論への貢献度など	30%	小テスト、課題にて授業の理解度を確認し授業中の積極的な発言等で評価します。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学習</p> <p>①毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと(0.5時間程度×14回)</p> <p>②授業内で行う小テストの試験範囲について学習する(0.5時間程度×14回)</p> <p>事後学習</p> <p>①毎授業後に授業で得た学びについて関連問題を解くこと(1時間程度×14回)</p> <p>②定期試験に向けてテキストの復習を行うこと(2時間程度)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 【講義・演習】 ガイダンス、職業人としての資質・と心構え</p> <p>第2回 【講義・演習】 職業人としての人柄・求められる能力</p> <p>①処理能力・行動力②判断力③理解力・洞察力④人間関係処理能力</p> <p>第3回 【講義・演習】 職務知識Ⅰ①秘書の役割と機能 ②スタッフとしての仕事</p> <p>第4回 【講義・演習】 職務知識Ⅱ</p> <p>③秘書の職務における定型業務内容④定型業務の仕事の進め方</p> <p>第5回 【講義・演習】 一般知識Ⅰ①資本と経営②企業の組織形態</p> <p>第6回 【講義・演習】 一般知識Ⅰ③経営管理</p> <p>第7回 【講義・演習】 一般知識Ⅱ①人事・労務②会計・財務</p> <p>第8回 【講義・演習】 一般知識Ⅱ③手形・小切手と金融④税務</p> <p>第9回 【講義・演習】 一般知識Ⅲ①生産管理②マーケティング</p> <p>第10回 【講義・演習】 一般知識Ⅲ③会社をめぐる法律</p> <p>第11回 【講義・演習】 一般知識Ⅳ</p> <p>①情報処理とニューメディア ②常識としての基礎用語と略語</p> <p>第12回 【講義・演習】 一般知識Ⅳ ③常識としてのカタカナ語</p> <p>第13回 【講義・演習】 マナー・接遇Ⅰ ①人間関係の重要性</p> <p>第14回 【講義・演習】 マナー・接遇Ⅰ ②話し方の基本 ③効果的な話し方(ペアワーク)</p> <p>第15回 【講義・演習】 話の聴き方(聴き力検定)(ワークショップ) ※外部講師</p> <p>第16回 【講義・演習】 マナー接遇Ⅱ①敬語 ②報告の仕方 ③説明の仕方 ④説得の仕方</p> <p>第17回 【講義・演習】 マナー接遇Ⅱ⑤注意忠告の仕方、受け方⑥苦情処理⑦上手な断り方</p> <p>第18回 【講義・演習】 マナー接遇Ⅲ①電話対応(ペアワーク)</p> <p>第19回 【講義・演習】 マナー接遇Ⅲ②来客対応③席次 ④接遇用語の使い方(ペアワーク)</p> <p>第20回 【講義・演習】 マナー接遇Ⅳ①慶事の対応②パーティ会食の知識③弔事の対応</p> <p>第21回 【講義・演習】 マナー接遇Ⅳ④弔事の心得とマナー</p> <p>第22回 【講義・演習】 マナー接遇Ⅳ⑤贈答のしきたり ⑥贈答のマナー</p> <p>第23回 【講義・演習】 技能Ⅰ ①会議の知識 ②会議の準備・設営 ③会議中の秘書の仕事</p> <p>第24回 【講義・演習】 技能Ⅱ ①ビジネス文書の作成</p> <p>第25回 【講義・演習】 技能Ⅱ ②グラフの書き方</p> <p>第26回 【講義・演習】 技能Ⅱ ③文書の受発信④郵便の知識</p> <p>第27回 【講義・演習】 技能Ⅲ ①ファイリング</p> <p>第28回 【講義・演習】 技能Ⅲ ②名刺の整理</p> <p>第29回 【講義・演習】 技能Ⅳ ①日程管理②主張に関する事務③オフィス環境づくり</p> <p>第30回 【講義・演習】 まとめ・総復習</p> <p>試験や課題のフィードバックは、講義内または Google Classroom で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答えます。</p> <p>授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントに加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPCM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41500
科目	4150 食の歴史と文化	授業種別	週間授業
科目責任者	朝倉 由美子	単位数	2 単位
担当教員	朝倉 由美子		

授業概要	<p>・私たちが食べている食品のルーツや伝播の背景を知り、その結果今の食文化があることを解説する。</p> <p>・日本をはじめ世界各国にはそれぞれの食文化があり、それらは風土や歴史の中で生まれ、時代と共に変化し、今に受け継がれている。</p> <p>しかし、昨今は伝統や地域性、そして季節感が薄れ、心が満たされない食環境の変化もある。</p> <p>ここでは、さまざまな食の歴史と多様化してきた食文化の現状と歴史的環境的背景等を理解し、これからの食環境と人々のつながりについて考える力を培う。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎					
到達目標	<p>・世界における食品の伝播の歴史を学び、現在の食との関係を整理することができる。</p> <p>・日本の食の変遷をたどり、行事や節句における食の伝承を理解して示すことができる。</p> <p>・世界における代表的な国の料理の誕生の背景には長い歴史の変遷が関わっていることを理解する。</p> <p>・食環境の現状と問題点とそれに対する自らの行動について述べるができる。</p>						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	筆記試験と課題レポートの総合評価とする 原則として毎回出席することとする。 但し、自らの責めを負わない理由以外の遅刻早退や劣悪な受講態度などを減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	食のルーツ、食の現状に関心がある
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業内容に関連する時代に起きた歴史(日本史・世界史)を調べ直し、時代背景を確認しておく。(2時間/回) <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業で時代の流れと食文化の関係を学んだことをもとに課題レポートをまとめる。(1.5時間/回) ・各回のテーマにおける自らの食生活や、食料の確保の地球規模の問題などについて考え、まとめる(0.5時間/回)

授業の実施方法と授業計画	<p>教科書は無く、毎回資料と課題を配布し、配布資料に沿って授業を進めます。</p> <p>1回(講義) ガイダンス 授業の進め方 「和食」がユネスコ無形文化遺産になったわけ</p> <p>2回(講義) 節句 暦と行事食 正月料理の食材について</p> <p>3回(講義) 原始、古代 日本人の暮らし方と食料の確保</p> <p>4回(講義) 奈良・平安時代 どんな食事をしていたのか</p> <p>5回(講義) 鎌倉・室町・安土桃山時代 武家社会となって 何が変わったか</p> <p>6回(講義) 江戸時代 日本料理の完成へ</p> <p>7回(講義) 明治～昭和時代 前編 開国から洋食化</p> <p>8回(講義) 後編 昭和～戦後からの大きな変化</p> <p>9回(講義) 中国料理の4大料理の味の特徴</p> <p>10回(講義) 西洋料理 古代ギリシャ・ローマ</p> <p>11回(講義) フランス料理が西洋料理の代表になるまで</p> <p>12回(講義) 新大陸発見が世界の料理にもたらしたもの 主な国の料理の特徴</p> <p>13回(講義) 洋菓子の歴史と特徴</p> <p>14回(講義) テーブルセッティング フランス式とイギリス式のマナー比較 中華料理と日本料理の作法など</p> <p>15回(講義) SDGsの食に関連する項目について考える 地球が悲鳴を上げる現状 まとめ</p> <p>試験や課題のフィードバックは、講義内で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答えませす 課題レポートはコメントを入れて返却します ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
--------------	---

ナンバリング	CPDM1012
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	42500
科目	4250 食生活アドバイザー	授業種別	週間授業
科目責任者	朝倉 由美子	単位数	2 単位
担当教員	朝倉 由美子		
授業概要	食を通して「生活そのもの」を提案し、適切な指導や助言をする食生活のスペシャリストを認定する資格の「食生活アドバイザー」3 級を取得するため、栄養と健康・文化と食習慣・食品学・衛生管理の 4 つの分野から 3 名の担当者が分担して解説する。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	
到達目標	食生活アドバイザーは様々な分野を理解できていることが求められる。そのためには食生活と関わる全般に関心を持って取り組むことで、資格取得を目指す。 ①各単元の重要ポイントをまとめることができる。 ②各単元ごとに正しく理解し自ら予習と復習を行うことができる。 ③練習問題や模擬試験から出題傾向の特徴をとらえ冷静さと迅速さを培う。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2026-2027 公式 食生活アドバイザー テキスト&問題集	一般社団法人 FLA ネットワーク協会	日本能率協会マネジメントセンター	1,870 円	9784800593825	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	成績評価は、各単元ごとに行う小テストと模擬試験の結果から総合して評価とする。 なお、やむを得ない理由以外の遅刻早退や劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。 検定試験の可否自体は成績評価には関連させません。	
評価項目	割合	評価基準
分野ごとの小テスト	40%	講義内容の理解度を確認する
筆記試験(模擬試験)	60%	筆記試験によって総合的な理解度を確認する

受講条件	3 級の資格取得を目指す者 初回のガイダンスに出席すること(初回から授業を行いますので、テキスト持参が望ましい)
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修 ・講義時での理解を早めるために、事前にテキストの予定範囲を熟読し、内容の確認をする。(1.5 時間/回) 事後学修 ・単元末にある練習問題と単元ごとに配布される過去問題集に取り組み、出題の傾向を確認して出題の特徴に慣れる(2 時間/回) ・問題集等で理解が不十分と分かった事項の再確認と暗記に努める。(0.5 時間/回)

授業の実施方法と授業計画	<p>カレンダーに沿った詳細な進行計画書は初回のガイダンスで配布します。 検定試験後の授業と期末試験日の時間は検定前の補講日や別の日程に組み込むため、検定後の授業と期末試験はありません。</p> <p>【 各回もしくは各単元で小テストを実施する 】</p> <p>1 回(講義) ガイダンス: 詳しい授業日程表を配布して説明する 検定申し込み手順についての説明</p> <p>2 回(講義) 第 1 章 体を育もう 1 3 回(講義) 第 1 章 体を育もう 2 4 回(講義) 第 1 章 体を育もう 3 5 回(講義) 第 1 章 体を育もう 4 6 回(講義) 第 2 章 知を育もう 1 7 回(講義) 第 2 章 知を育もう 2 8 回(講義) 第 2 章 知を育もう 3 9 回(講義) 第 3 章 徳を育もう 1 10 回(講義) 第 3 章 徳を育もう 2 11 回(講義) 第 3 章 徳を育もう 3 12 回(講義) 第 3 章 徳を育もう 4 13 回(講義) 第 4 章 才を育もう 1 14 回(講義) 第 4 章 才を育もう 2 15 回(模擬試験) 成績評価対象の試験です。欠席しないようにしてください。 模擬試験終了後 検定試験の出題傾向分析と解答の際の注意事項等</p> <p>16 回: 2026.6 月最終週(講義) 模擬試験の解説と重要ポイントの確認 検定日の諸注意等</p> <p>★創造大学内で団体受験の検定日は 6 月 27 日(土)です。 検定以外の予定を入れないようにしてください。</p> <p>★検定(6 月 27 日)以降は授業はありません。 従って、検定日までに 16 回の授業を終えるため、4 回分は補講日や平日の空き時間などに授業が入ることになります。 詳細は、初日に説明します。</p> <p>単元小テストは添削をしてフィードバックを行い、必要に応じて個別の質問に答えます。 また、受講生の習熟度により進行に変更が生じる場合がある</p>
--------------	---

ナンバリング	CPDM1015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41520
科目	4152 食と健康	授業種別	週間授業
科目責任者	西山 千穂子	単位数	2 単位
担当教員	西山 千穂子		

授業概要	人は何のために「食べる」のか。本来は「生きる」ためだったが、今では外食や食品加工産業が盛んとなり、「嗜好」が優先している。その結果食べる量や内容の選択を誤り、食べ過ぎや偏り等で様々な生活習慣病を発症する人が増えている。将来そうならないようにするために基本的な食教育科目として開講する。この科目では食事から摂り入れる五大栄養素の基礎知識と食べ物と身体の仕組みについて学び、栄養素の過不足がどんな健康障害をもたらすのか理解する。そして、自身の食事診断も行い、「バランスのよい食事を摂る」とはどういうことか、食品選択とも関連して考える。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の基本的な知識を食品と関連させて分類することができる。 ・食生活に関連する健康情報をもとに、「糖質ダイエットの仕組み」「脂質の正しい摂り方」を理解できる。 ・食生活が乱れると健康にどのように関係するのかを理解し、述べることができる。 ・食生活の実態を知ること、必要な食改善方法を考え実行することができる。 ・食生活の問題点を改善する力を身につけることができる。 						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	筆記試験とレポート(課題)の総合評価とする。 原則として毎回出席することとする。但し、(課題未提出など)受講態度によっては減点の対象となることがある。	
評価項目	割合	評価基準
筆記試験	60%	講義内容の理解度を確認する。
レポート(課題)	40%	課題を適切に理解しているかを確認する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学修(2時間/回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業範囲を示すので、内容を確認したり下調べをしておく。 <p>事後学修(2時間/回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後に出す課題についてレポートを作成する。

授業の実施方法と授業計画	<p>1回(講義) 食事バランスガイドで普段の食生活を振り返る 食品成分表の使い方</p> <p>2回(講義) 「良質なたんぱく質」とは?たんぱく質を効率よく摂るために</p> <p>3回(講義) 健康に影響を及ぼす油脂の選び方</p> <p>4回(講義) 力や体温になるためのエネルギー源となる糖質</p> <p>5回(講義) 様々な生理作用をもつ食物繊維の摂り方と摂取量の現状</p> <p>6回(講義) 水に溶けるビタミン</p> <p>7回(講義) 油に溶けるビタミン</p> <p>8回(講義) 過剰摂取になりがちなミネラル、摂取不足になりやすいミネラル</p> <p>9回(講義) ライフステージごとの食事摂取基準 BMI計算からみる肥満とやせ</p> <p>10回(講義) 1食分の栄養価計算に挑戦 市販食品のエネルギー量を確認</p> <p>11回(講義) 保健機能食品について</p> <p>12回(講義) 食中毒</p> <p>13回(講義) 食物アレルギー</p> <p>14回(講義) 食の選択 食品添加物・遺伝子組み換え食品・ゲノム食品</p> <p>15回(講義) 生活習慣病の理解と予防や改善のための食生活</p> <p>16回(筆記試験)</p> <p>試験や課題のフィードバックは、講義内で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答えます。 課題レポートは添削して返却します。 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPDM2018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41530
科目	4153 クッキングI	授業種別	週間授業
科目責任者	朝倉 由美子	単位数	2 単位
担当教員	朝倉 由美子		

授業概要	<p>現代の食事環境では、多くの調理加工食品が容易に手に入るため、自ら調理を行わずとも食事ができる時代になっている。包丁の扱いや献立の組み立て、調理の段取りなどの実践経験が不足して、いわゆる「食事が作れない」社会人が増加していると感じる。</p> <p>更には、SNS の普及により、海外の魅力的な料理に接する機会も増えている。しかし、近年では炭水化物や油脂の多い肉類に偏った食事が増え、野菜や魚の摂取が不足し、生活習慣病のリスクを高めている懸念がある。</p> <p>この科目では、基本的な調理技術を学びつつ、食材の取り扱い方も習得する。さらに、バランスの取れた食生活の重要性を理解し、実践的なスキルを身につけることを目指す。受講者は、料理教室に通う手間を省き、家庭での調理理解を深めることで、料理の楽しさと自信を育み、生活力を向上させることが期待できる。さらに、グループワークを通じた実習により、段取りやコミュニケーションの能力が高まることも期待される。</p> <p>加えて、秋から冬の季節に適した食材を用い、和洋中などから 3 品ほどの献立を組む。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる調理技術と食材の扱い方を習得する。 ・複数献立の調理にかかる時間と手順を考えて取り掛かることができる。 ・食品の衛生に気を配りながら進めることができる。 ・出来上がりに気を配り、料理の完成度を上げることができる。 						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	筆記及び実技試験、調理ノートの総合評価 ただし、実習による技術の習得が主目的なので、遅刻や早退、劣悪な受講態度は減点の対象となることがある	
評価項目	割合	評価基準
調理ノート(課題調べ含む)	50%	課題調べをまとめ、再現しやすい記録ノートに仕上げているかを評価します
筆記試験	30%	基本的な調理理論の理解度を評価します
実技試験	20%	技術向上の努力と成果を評価します

受講条件	<ul style="list-style-type: none"> ・料理技術を習得する意欲がある。 ・作って食べることが好きである。 ・実習は遅刻や無断欠席をしない。 ・忘れ物をしない。
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・配布されたプリント内の課題をやっておく。※予習(第2～14回/各1時間程度) ・配布された実習プリントを基に自分の調理ノートを完成させる。(実習の記憶が消えないうちに毎回まとめる習慣をつける) ※配布された実習プリントに調理のポイント、留意点等を分かりやすく整理する。 ※作ったとき食べたときの反省や感想を記入し、仕上げた料理の写真を貼付する。 ※復習(第2～14回/各0.5時間程度) ・実技試験練習とまとめ(3時間以上) ・料理の習得は経験を重ねることである。自宅等で再現する。 (15回の中から3回分以上/各2時間)

授業の実施方法と授業計画	<p>1回【講義】ガイダンス(講義) 実習の計画・テキスト・ノート提出・再現レポート・実習の持ち物の指示、特別教材費などについて</p> <p>“調理に取り掛かる時の注意点 身なりや食の安全など 調理実習の基本(切り方・包丁の持ち方・だしの取り方)について確認”</p> <p>2回【実習】実習室 B33 の使い方・道具の名前と位置確認 包丁の持ち方・使い方(基本切り) 野菜の切り方練習:大根の桂剥きと人参の千切り →すいとん、野菜のお好み焼き風”</p> <p>3回【実習】切り方練習:アッシュ(みじん切り)・ベイザンヌ(色紙切り) カレドリア・ホワイトソース、ミネストローネ、プラマンジェ”</p> <p>4回【実習】豆腐入りハンバーグ(みぞれ餡)、かきたま汁、卵ポーロ</p> <p>5回【実習】じゃが芋のニョッキ・トマトソース、シーザーサラダ、スノーボール</p> <p>6回【実習】野菜肉巻き、キャベツと柿のナムル、蓮根のすり流し汁</p> <p>7回【実習】ピザ、ポトフ、2色ゼリー</p> <p>8回【実習】手打ちうどん(豊橋にかけ)、だし巻き卵、くるみ柚餅子</p> <p>9回【実習】餃子、拌三絲 酸辣湯、杏仁酥</p> <p>10回【実習】混ぜご飯、魚のホイル焼き、鬼まんじゅう</p> <p>11回【実習】災害食バッククッキング(カレー、おから入りポトサラダ)、ラングドシャ</p> <p>12回【実習】ビビンバ、チヂミ、白菜漬の簡単スープ</p> <p>13回【実習】チキンピカタ(じゃが芋のガレット、人参ラペ ほか) 南瓜ポターージュ</p> <p>14回【実習】キンパ、豆腐チゲ、ホットク(韓国のおやき)</p> <p>15回【実習】実技試験 課題技術の取得の確認 薄焼き卵 胡瓜千切り(1/2本) のち 大掃除 災害食(バッククッキングの焼きそば)、胡瓜と薄焼き卵のサラダ</p> <p>◆調理ノートは実習回数ごとに提出して、翌週返却してフィードバックを行う ◆教材の入手状況や受講生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
--------------	---

ナンバリング	CPDM1013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41550
科目	4155 生活空間デザイン	授業種別	週間授業
科目責任者	松井 由紀美	単位数	2 単位
担当教員	松井 由紀美		
授業概要	<p>・食空間を中心として、インテリア、カラーコーディネート、テーブルコーディネート、フラワーアレンジなど、生活を豊かにできるような知識、スキルを学ぶ。</p> <p>・食卓で使う道具（和食器、洋食器、ガラス器、金属器、リネンなど）について、歴史や使用方法を学ぶ。</p> <p>・配色やカラーイメージを学び、インテリアやテーブルコーディネートに活かせるように実習を行う。</p> <p>・国内外の歳時記や行事、人生儀礼を学ぶ中で、一般教養を身に着ける。</p> <p>・簡単なビュッフェパーティー空間を作り、もてなされるときのマナー体験をする。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関するテーブルコーディネート・ディスプレイの実務経験を有する教員が経験を活かして講義などを行う授業です。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△
到達目標	<p>・社会人としての一般教養、マナーを身に着け、自分らしい暮らしの楽しみ方を発見して、生活に活かすことができる。</p> <p>・実習や体験を通して、食空間演出の知識を身に着ける。</p> <p>・おもてなしすることのホスピタリティー、招かれた時の楽しみ方を理解し、企画することができる。</p>		

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
食空間コーディネーターテキスト3級 改訂版	NPO 法人食空間コーディネート協会 3 級テキスト改訂委員会	株式会社 優しい食卓	定価：本体 2,500 円＋税	978-4-901359-85-6	
TEXT BOOK テーブルコーディネート 改訂版	丸山洋子	株式会社 優しい食卓	定価：本体 価格3, 000円＋ 税	978-4-901359-69-6	

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。チェックリスト（小テスト）、課題やレポートなどの提出物で評価します。 なお、遅刻・早退、劣悪な授業態度などは、減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
チェックリスト（小テスト）	40%	授業内容を理解しているかチェックリスト（小テスト）の点数で評価する。
課題、レポートなど（提出物）	60%	課題に対する適切な内容、記述になっているかを評価する。

受講条件	特にはありませんが、別途教材費が必要です。（3,000円）
------	-------------------------------

事前・事後学修（内容・時間）	<p>適宜指示します。</p> <p>事前・事後学習は基本 4 時間程度となります。</p> <p>授業内でやりきれなかったことが、課題になります。</p> <p>例えば、配色ワークやテーブルコーディネートのプランニングなど。</p> <p>授業内にやり残したこと、できなかったことが中心となります。</p> <p>第 5 回 配色ワーク 60分程度</p> <p>第 6 回 プランニングシート① 30分程度</p> <p>第 8 回 配色イメージ 60分程度</p> <p>第 9 回 プランニングシート② 30分程度</p> <p>第10回 プランニングシート③ 30分程度</p> <p>第11回 家庭の行事レポート① 30分程度</p> <p>第12回 家庭の行事レポート② 30分程度</p> <p>第13回 アレンジメントレポート 30分程度</p> <p>上記以外にも課題を出すことがあります。</p>
----------------	---

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 [講義] 生活空間デザイン概論 食空間コーディネートとは（自己紹介・授業についてのオリエンテーションも含む）</p> <p>第2回 [講義] アイテムⅠ-陶磁器（和食器・洋食器）</p> <p>第3回 [講義] アイテムⅡ-ガラス器・漆器・カトラリー</p> <p>第4回 [講義] アイテムⅢ-食卓装飾品・照明と卓布</p> <p>第5回 [講義] 色彩について①-カラーシステムについて 実習：配色ワーク</p> <p>第6回 [講義] おもてなし料理1-日本料理・西洋料理 実習：プランニングシートの書き方とプランニング①</p> <p>第7回 [講義] おもてなし料理2-中国料理、酒類、飲料類について 実習：ティーテーブルと紅茶について</p> <p>第8回 [講義] 色彩について②-リネンと配色イメージについて 実習：配色イメージ</p> <p>第9回 [講義] コーディネート1-和食卓（一汁三菜）・箸 実習：和のテーブルセッティングとマナー</p> <p>第10回 [講義] コーディネート2-食空間のあり方 実習：洋のテーブルセッティングとマナー</p> <p>第11回 [講義] コーディネート3-歳時記と年中行事（暦と五節句を中心に） 実習：グループワーク グループプランニング①、水引結び</p> <p>第12回 [講義] コーディネート4-歳時記と年中行事（クリスマスとお正月を中心に） 実習：グループワーク グループプランニング②</p> <p>第13回 [講義] コーディネート5-ビュッフェテーブル 実習：フラワーアレンジメント</p> <p>第14回 [講義] コーディネート6-パーティーについて 実習：ビュッフェパーティー体験、グループワーク グループプランニング③</p> <p>第15回 [実習] コーディネート7-テーブルコーディネート発表（グループワーク グループごとのテーブル作成とプレゼンテーション）</p> <p>ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p> <p>チェックリスト（小テスト）については、次の授業で全体の理解の薄かったところや疑問に対して、フィードバックを行います。 質問や疑問点がある場合は、授業内やメール等でフィードバックを行います。また、それらは授業内で共有していきます。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPDM1014
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	42340
科目	4234 手話入門	授業種別	週間授業
科目責任者	平松 靖一郎	単位数	2 単位
担当教員	平松 靖一郎、佐藤 亜子		
授業概要	<p>この授業では、一般社団法人全日本ろうあ連盟発行「はじめて出会う手話」(2018 年発行)を使用し、ろう者が普段使っている自然な手話を学習する。単語にこだわるのではなく、会話の中から学べるよう授業を進めていく。授業を通して、手話の基礎的な技能を習得し、自己表現や対話ができるようになることを目指す。そのため、授業ではまず、「聴覚障がい」についての理解を深め、聴覚障がい者の日常生活における課題や対応方法、コミュニケーション方法を学ぶ。また、日本における手話の歴史や特徴を理解したうえで、手話習得に必要な「観る力」や「表す力」等の基礎表現能力を習得する。さらに、簡単な手話表現の基礎技術を習得し、習得した手話語彙や表現技術を使って会話ができるようになるために、習熟度を高めていく。</p> <p>※この授業科目は当該授業内容に関する手話通訳の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義等を行う科目である。 平松靖一郎：手話通訳士、愛知県登録手話通訳者、豊橋市登録手話通訳者、豊川市登録手話通訳者、防災士、防災ボランティアコーディネーター</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	
ディプロマポリシーとの関連性		◎	
到達目標	<p>手話言語は、手の形、位置、動きに加えて表情や強弱などで表し、「目」で見えて理解することばです。ろう者と手話言語で日常会話ができるようになることを目標とする。</p> <p>①相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶、自己紹介程度の会話ができる。 ②耳の仕組みや聴覚障がいの原因を理解するとともに、聴覚障がい者のコミュニケーション方法を理解し、実践できる。 ③聴覚障がい者の日常生活における課題とその対応方法を理解し、説明できる。</p> <p>目標を達成することで、聴覚障がい者福祉の向上に積極的に貢献できるようになることを期待する。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
DVDで楽しく学べるはじめて出会う手話 これ は便利!役に立つ!	『入門対応テキスト』編 集委員会/編集	全日本聾唖連盟	1800	9784904639184	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	<p>参考書 手話奉仕員養成テキスト「手話で学ぼう手話で話そう」(全面改訂版) 発行：全国手話研修センター ISBN-13：978-4-902158-56-4 価格：3,300 円</p> <p>参考文献 全日本ろうあ連盟 HP URL https://www.jfd.or.jp/ 手話言語研究所 HP URL https://www.newsigns.jp/</p>
------------------------------	---

成績評価	<p>授業の到達目標がどの程度達成されているかを、定期試験と課題によって総合的に評価する。定期試験は、「日常会話を行うのに必要な手話語彙及び手話表現技術が身についているか。」「聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解できているか」という観点を中心に評価する。なお、劣悪な学習態度は、減点の対象とする場合がある。劣悪な学習態度とは、コミュニケーションをとりたくない態度や手話表現実技の際に、手話表現を積極的に行わない態度をさす。</p>	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	80%	手話言語による簡単な日常会話ができる手話表現技術及び聴覚障がいの基礎知識の習熟度。
課題レポート	20%	聴覚障がい者福祉制度に関する理解度。

受講条件	履修条件なし
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前・事後学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業前に指定箇所の教科書等に目を通しておくこと。(第1～15回/0.5時間程度) 2. 授業内で講義した内容について適宜調べておくこと。(第1～10回/1時間程度) 3. 第16回定期試験に向けて、授業内で配布した資料の復習を行うこと。(第11～15回/5時間) 4. 毎授業後に授業で学んだ範囲の付属DVDで手話の実技練習をしておくこと。(第1～10回/1時間程度) 5. 毎授業後に授業で紹介した動画サイトの手話の実技練習をしておくこと。(第11階～15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(シーン1) あいさつ実技:「あいさつ」に関する手話 目で見ることばを使ってみよう(参考書第1講座) 講義:ろう文化/ろう者に呼びかけるときの方法</p> <p>第2回(シーン2) 自己紹介実技:「自己紹介」に関する手話 名前を紹介しましょう(参考書第2講座) 好きなことについて話しましょう(参考書第6講座) 講義:名前の由来</p> <p>第3回(シーン3) 家族実技:「家族」に関する手話 家族を紹介しましょう(参考書第4講座) 講義:「聴覚障がい」とは</p> <p>第4回(シーン4) 趣味実技:「趣味」に関する手話 スポーツや趣味について話しましょう(参考書第12講座) 講義:テレビや映画の字幕、手話放送について</p> <p>第5回(シーン5) 料理・買い物実技:「料理・買い物」に関する手話 数を使って話しましょう(参考書第3講座) 冷蔵庫を買いに行きましょう(参考書第13講座) 講義:日常生活の不便/補装具など</p> <p>第6回(シーン6) 病院実技:病院に関する手話 病気やけがについて話しましょう(参考書第16講座) 講義:手話通訳派遣制度について/「電話リレーサービス」と「遠隔手話通訳」について</p> <p>第7回(シーン7) 交通実技:「交通」に関する手話 交通方法について話しましょう(参考書第5講座) 家の近くのことを話しましょう(参考書第14講座) 講義:手話施策推進法/「手話マーク」「筆談マーク」について</p> <p>第8回(シーン8) 学校実技:「学校」に関する手話 学校のことを話しましょう(参考書第18講座) 講義:ろう学校の歴史/聞こえない人の子育てについて</p> <p>第9回(シーン9) 仕事実技:「仕事」に関する手話 仕事を紹介しましょう(参考書第7講座) 講義:合理的配慮について</p> <p>第10回(シーン10) 天気・自然実技:「天気・自然」に関する手話講義:災害が起こったら(聴覚障害者の災害対策)</p> <p>第11回(シーン11) 1日のこと・1週間のこと 実技:「1日のこと」や「1週間のこと」に関する手話 1日のことを話しましょう(参考書第8講座) 1週間のことを話しましょう(参考書第11講座)</p> <p>第12回(シーン12) 1か月のこと・1年のこと実技:「1か月のこと」や「1年のこと」に関する手話 1年の思い出を話しましょう(参考書第20講座)</p> <p>第13回(シーン13) イベントのこと実技:「イベント」の計画を立てましょう イベントの計画を立てましょう(参考書第17講座)</p> <p>第14回(シーン14) 旅行実技:「旅行」に行きましょう 旅行に行きましょう(参考書第15講座)</p> <p>第15回(まとめ) 日常会話実技:シーン1～14までのまとめ まとめ2 自己紹介(参考書第10講座)</p> <p>今までに学んだことを活かして発表したり、ろう者と会話したりしましょう。第16回 定期試験 授業の第1回から第15回までのまとめとして、筆記試験と実技試験を実施する。</p> <p>※試験や課題については、授業時間内で総評を提示するとともに必要に応じて質問や疑問に回答し、フィードバックを行う。 ※学修効果を高めるため、適宜、ビデオ教材を使用する。 ※授業の進行状況及び受講生の理解度によっては、講義計画の変更又は追加補講を実施することがある。その場合は、その都度案内する。</p>
ナンバリング	CPDM2020

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41980
科目	4198 パフォーミング・アーツ	授業種別	週間授業
科目責任者	宮城嶋 遥加	単位数	1 単位
担当教員	宮城嶋 遥加		

授業概要	他の専門分野を学ぶ学生との交流を通じた学びや、新しい時代に適応した学びを通して、地域の未来を創造する新しい時代の担い手を育成することを目指す、地域未来創造プログラムの科目。身体と言葉を多角的に用いて、コミュニケーション能力の向上や即興力の向上を目指すシアターゲームを行なう。また、劇場への見学やパフォーミングアーツ作品の鑑賞を通して、異なる価値観を受容し、対話を可能にしていくための感性を身につける。授業の集大成としてミニパフォーマンスを創作し、発表を行う。主体的に授業に参加する意欲のある者の受講を求める。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分を見つめ、相対化できるようになる。 2. 自分の意見を適切な形で表出する力を身につける。 3. 多様な感性をもった人と関わることで、社会人として必要な教養を身につける 4. アクティブラーニングやグループワークなどを実践することで互いの表現を高め合い、他者と協働することへの経験を高める。 						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、資料を配布する ・Classroom などオンラインのミーティングツールの使用ができる ICT 機器(PC、タブレット、スマートホンなど)を用意すること
------------------------------	---

成績評価	課題提出、授業での取り組みを総合的に評価して判断する	
評価項目	割合	評価基準
課題提出(コメントペーパー)	60%	活動の振り返りを行う、記述内容から学びを自身の中で定着化できたか確認する。
各ワークへの取り組み	20%	授業で行うワークに対して主体的な取り組みができたかを評価する。
ミニパフォーマンスへの取り組み	20%	ミニパフォーマンスの創作、発表の段階でグループ活動に貢献し、主体的な取り組みができたかを評価する。

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	<p>予習・復習の内容(毎回2時間程度)</p> <p>毎回の授業計画にそって復習をすること。各授業で学んだ内容が実社会にどのように生かせるか日頃から考え、行動すること。</p> <p>ICTを活用した授業実施の場合も、予習・復習は対面での実施時と可能な限り同内容とする。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義・実技) ガイダンス・自己紹介①</p> <p>第2回 (実技) 自己紹介②</p> <p>第3回 (実技) 2人組のワーク</p> <p>第4回 (実習) 劇場見学</p> <p>第5回 (演習) 劇場見学の振り返り</p> <p>第6回 (実技) シアターゲーム①ビジネス編</p> <p>第7回 (実技) シアターゲーム②教育現場編</p> <p>第8回 (実技) シアターゲーム③コミュニケーション編</p> <p>第9回 (実技) シアターゲーム④総合</p> <p>第10回 (講義) パフォーミングアーツ作品の鑑賞①</p> <p>第11回 (講義) パフォーミングアーツ作品の鑑賞②</p> <p>第12回 (演習・実技) パフォーミングアーツ作品鑑賞の振り返り</p> <p>第13回 (実技) ミニパフォーマンスの創作①</p> <p>第14回 (実技) ミニパフォーマンスの創作②</p> <p>第15回 (実技) ミニパフォーマンスの発表</p> <p>※ただし、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。</p> <p>※対面での実施を原則とするが、講師及び受講生の状況に応じて ICT (Classroom などオンラインのミーティングツール) を活用した同時双方向型の授業に変更する可能性がある。その場合は講師から事前に告知をする。</p> <p>※第4回の「劇場見学」については受講生でスケジュールを合わせ、授業時間外での実施とする。人数によっては2グループに分かれての実施等も検討する。</p> <p>※課題や取り組みについては、授業内で都度コメントする。また必要に応じて Classroom でコメントすることでフィードバックを行う。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPDL1008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41950
科目	4195 ボランティア演習	授業種別	週間授業
科目責任者	葛谷 潔昭	単位数	1 単位
担当教員	葛谷 潔昭		

授業概要	ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つである。本講義では、福祉・医療・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等さまざまなボランティア活動とそれに関連した NPO (非営利組織) の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標に、講義だけではなく、実際にボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞き、諸施設を訪問し、実際にボランティア活動を行う。これらを通じて、総合的に受講者のボランティア論・ボランティア観の基礎を作り出すことを目的とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国のボランティア活動の現状を説明できる 2. 自ら意欲的にボランティア活動に参加することができる 3. 人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現力を高め、実践できる 4. 対人援助専門職としての「社会人基礎力」を身に付け、実践することができる 5. 組織の管理者として重要な要素、マネジメント能力、アントレプレナーシップ、ベンチャースピリットを理解し、説明することができる 						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	授業内課題の取り組み度、および授業後課題提出状況、学外での課題(学外における実習(ボランティア活動)の書類提出、レポート課題含む)で評価。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
授業レポート	50%	内容の適切性、分量、期限順守
学外実践活動レポート(事前・事後)	50%	活動の事実、内容の適切性、分量、期限順守

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキストおよび配布資料を事前・事後に予復習する(合計 15 時間程度) 2. 講義によっては、事前課題・事後課題(個人ワーク、外部講師感想文、活動計画など)を行う(合計 10 時間程度) 3. ボランティア先について、調べ、連絡する(合計 4 時間程度) 4. ボランティア活動を行う(合計 3 時間以上) 5. ボランティア活動についてまとめる(合計 6 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(講義)人間としての社会生活とボランティア活動(ボランティアをする側とされる側、当事者性とは)</p> <p>第2回(講義)ボランティア活動の範囲、機能、理念、組織、社会的意義</p> <p>第3回(演習・実技)分野別ボランティア活動(手話、防災、学習支援:学内講師)(講義)</p> <p>第4回(講義・演習)分野別ボランティア活動(地域福祉・ボランティアコーディネーター・青少年育成)(外部講師)</p> <p>第5回(講義・演習)分野別ボランティア活動(フードバンク、子ども食堂)(外部講師)</p> <p>第6回(講義・演習・実技)分野別ボランティア活動(レクリエーション)(外部講師)</p> <p>第7回(講義・演習)分野別ボランティア活動(医療的ケア・介護分野)(外部講師)</p> <p>第8回(講義・演習)分野別ボランティア活動(子育て支援、子育て支援)(外部講師)</p> <p>第9回(講義・演習)分野別ボランティア活動(災害・自然保護・環境・まちづくり)(外部講師)</p> <p>第10回(講義・演習)明るい社会づくり実践体験作文の案内(外部講師)、ボランティア実践活動の意義と計画・実際について</p> <p>第11回(実習)ボランティア実践活動</p> <p>第12回(実習)ボランティア実践活動</p> <p>第13回(講義・演習)分野別ボランティア活動(障害児向けイベント、ホスピタルクラウン等)(外部講師・映像)</p> <p>第14回(講義)近年の日本におけるボランティア活動・NPO 活動、地域活動の変遷と課題</p> <p>第15回(演習)今後のボランティア活動と NPO の活動、地域の活動のあり方、ボランティア実践活動報告会</p> <p>課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。</p> <p>外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPDL1009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41960
科目	4196 防災安全講座	授業種別	週間授業
科目責任者	岡本 雅子	単位数	1 単位
担当教員	岡本 雅子		

授業概要	昨今の豪雨災害の激甚化・頻発化は、大学周辺のエリアでも大きな被害をもたらしている。また南海トラフ地震の発生も懸念されている現在、緊急時に自分自身や家族の命を守り、就職先である園・施設・病院・行政機関・企業で役立つ知識・技術を身につけることは、地域防災の貢献につながると考える。授業では、防災の知識を身につけると同時に、実際の災害時にすべきこと、できることを実践的に学ぶ。また、日常生活を送る中で、防災や減災について考える契機とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
到達目標	1. 災害等の緊急事態を想定することができ、社会人としての対応を理解し、説明できる 2. 自分の命を守り、周りの人々、地域に貢献できる方法を理解し、実践できる 3. 他者との協働を通して、自助・共助の重要性を理解し、説明できる						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	適宜、指示する。
------------------------------	----------

成績評価	授業の到達目標を達成するために努力ができたか、どの程度達成されたか、他者との協働ができたかを、提出物やレポート、確認テスト、授業への取り組み方などで総合的に評価する。なお、劣悪な授業態度は減点の対象とすることがある。	
評価項目	割合	評価基準
授業への参加度、課題への取り組み方	40%	内容を理解して、能動的に取り組むことができたか。他者との協働ができたか。
リアクションペーパー	30%	講義内容を理解し、正しい日本語表現で丁寧に記述できたか。
確認テスト	10%	指定された内容の理解度の確認。
課題レポート	20%	講義内容を適切に理解し、具体的でわかりやすく記述できたか。

受講条件	なし。
事前・事後学修(内容・時間)	1. 災害、安全に関する新聞記事を読む(第2回～8回/1時間程度) 2. 授業内で提示された防災関連動画を視聴する(第1回～8回/1時間程度) 3. 国・県の関連機関の統計に目を通しておく(第2回～8回/1時間程度) 4. 被災時の行動計画を立て、自身の防災対策についてまとめる(第1回～8回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習) 防災クッキング(災害時に役立つ食のスキル) 第2回(講義・演習) 災害発生の仕組みと災害への備え(ハザードマップを利用したワーク) 第3回(講義・演習) 災害リスクと警戒レベル(マイタイムラインの作成) 第4回(講義) 防災講話(地域防災の「自助」「共助」「公助」)(関係機関との連携) 第5回(講義・演習) クロスロード(神戸市職員が経験した困難な状況判断のカードゲーム) 第6回(講義・演習) 身近なモノを利用した防災グッズの作成 第7回(講義・演習) 身近なモノを利用したシェルターの作成 第8回(講義・演習) HUG(静岡県が開発した避難所運営の図上訓練) ※確認テスト・リアクションペーパーについては、返却時に、必要に応じてコメントを記載することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。
--------------	---

ナンバリング	PEFL2017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41970
科目	4197 データサイエンス入門	授業種別	集中講義
科目責任者	今井 正文	単位数	2 単位
担当教員	今井 正文		

授業概要	<p>本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付ける。また、学修した数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志で AI 等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。なお、はじめて学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開を目指す。</p> <p>授業では、Classroom を活用して、教材（ビデオ、スライド）をもとにした小テストおよび課題提出を実施し、質疑応答やフィードバックなどは Classroom および双方向授業や対面授業の時間を設け併せて行う。</p> <p>※この科目は基本的にオンデマンド授業、一部を双方向授業や対面授業を併せて実施する。</p>						
------	---	--	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性			◎				

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI によって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・「数理 / データサイエンス / AI」が、今後の社会における「読み / 書き / そろばん」であることを理解できる ・データ・AI 活用領域の広がりを理解し、データ・AI を活用する価値を説明できる ・今の AI で出来ること、出来ないことを理解できる ・AI を活用した新しいビジネス / サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる ・データ・AI が日常生活や社会 / 組織でどのように使われているかを知り、モラル・倫理・リスク・脅威（リスク）の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できる ・帰納的推論と演繹的推論の違いと、それらの利点、欠点を理解できる 						
------	--	--	--	--	--	--	--

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	小テストおよび課題提出 (60% : 各章の講義内容の理解度を確認する) 定期試験 (40%) 定期試験内訳 : 講義内容の基礎的事項に関する問題、発展・応用問題	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	前回までの講義内容についての理解度を確認する。
定期試験	60%	筆記試験にて講義内容についての理解度を確認する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>次のような事前・事後学習を毎回 3 時間程度行うこと。() 内に目安の時間を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業範囲の内容について教科書や配付資料などの該当箇所を熟読する。(30 分程度) ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。(60 分程度) ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(90 分程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 章 [導入] 社会におけるデータ・AI 利活用</p> <p>第 01 回 (講義・演習) ガイダンス、1.1 社会でおきている変化</p> <p>第 02 回 (講義・演習) 1.2 社会で活用されているデータ</p> <p>第 03 回 (講義・演習) 1.3 データと AI の活用領域</p> <p>第 04 回 (講義・演習) 1.4 データ・AI 利活用のための技術</p> <p>第 05 回 (講義・演習) 1.4 データ・AI 利活用のための技術その 2</p> <p>第 06 回 (講義・演習) 1.5 データ・AI 活用の現場</p> <p>第 07 回 (講義・演習) 1.6 データ・AI 利活用の最新動向</p> <p>第 2 章 [基礎] データリテラシー</p> <p>第 08 回 (講義・演習) 2.1 データを読む</p> <p>第 09 回 (講義・演習) 2.1 データを読むその 2 (Excel 実習)</p> <p>第 10 回 (講義・演習) 2.2 データを説明する</p> <p>第 11 回 (講義・演習) 2.3 データを扱う (SSDSE データ実習)</p> <p>第 12 回 (講義・演習) 2.3 データを扱うその 2 (SSDSE データ実習)</p> <p>第 3 章 [心得] データ・AI 利活用における留意事項</p> <p>第 13 回 (講義・演習) 3.1 データ・AI を扱う上での留意事項</p> <p>第 14 回 (講義・演習) 3.2 データを守る上での留意事項</p> <p>第 15 回 (講義) まとめ</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあり得る。 課題(テストやレポート等)については、Classroom および双方向授業や対面授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPGM2015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	11110
科目	1111 心理学	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤 知佳子	単位数	2 単位
担当教員	加藤 知佳子		
授業概要	人間の精神を構成している様々な機能とその成り立ちについて学ぶ。日常とは違った視点で人間の「こころ」を探求する心理学という学問を学ぶことによって、自分や他者の「こころ」や気持ちを理解するための新しい視点を獲得することを目標とする。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のこころを支える基本的な機能について概略を説明できる。 2. 人間のこころには個人差や発達の差があることを例示できる。 3. こころの働きの不調およびその対応方法について例示できる。 		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
絶対役立つ教養の心理学 人生を有意義に過ごすために	藤田哲也	ミネルヴァ書房	2750	9784623053384	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
ミニレポート	30%	毎回の授業で、課題に適切に取り組んでいるかを評価する。
定期試験	70%	筆記試験によって、講義内容の最終的な理解度を評価する。

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>予習・復習の内容(4時間相当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。(各2時間) ・授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。(各2時間) ・学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) ガイダンス:授業の進め方と目的および試験について、心理学とは</p> <p>第2回 (講義) 感覚と知覚:知覚のハードウェア</p> <p>第3回 (講義・演習) 感覚と知覚:対象、奥行き知覚(Think-Pair-Share)</p> <p>第4回 (講義) 記憶:記憶の仕組み</p> <p>第5回 (講義) 記憶:記憶の諸相(Think-Pair-Share)</p> <p>第6回 (講義) 対人関係の心理学:他者を理解する(Think-Pair-Share)</p> <p>第7回 (講義・演習) 対人関係の心理学:他者を動かす(Think-Pair-Share)</p> <p>第8回 (講義) 動機づけのメカニズム:やる気とは</p> <p>第9回 (講義・演習) 動機づけのメカニズム:やる気を引き出す(Think-Pair-Share)</p> <p>第10回 (講義) 思考の仕組み</p> <p>第11回 (講義と演習) 青年期の心理学</p> <p>第12回 (講義) 発達心理学:思考の発達</p> <p>第13回 (講義) 発達心理学:ことば、人間関係の発達</p> <p>第14回 (講義・演習) 臨床心理学:こころの不調とは</p> <p>第15回 (講義と演習) 臨床心理学:ひとを支える(Think-Pair-Share)</p> <p>ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付して返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。また、各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroomの機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPDL1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41630
科目	4163 茶道 I	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 敦子	単位数	1 単位
担当教員	伊藤 敦子		
授業概要	<p>本授業では、茶道（本学は茶道南坊流）点前を学ぶことにより、学習過程で礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を養うことを目的とする。茶道学習のはじめの段階として、まず点前を学び、次の段階では主人と客が相互にもてなすことを実践する。茶道具・掛物・季節の花などと接することで、日本の伝統文化についての基礎知識を獲得する。</p> <p>※この科目は茶道南坊流教授職資格を有する教員が講義等を行う科目です。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	
到達目標	<p>1. 茶道を通して、礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を養うことができる。</p> <p>2. 茶道の基本を習得できる。</p> <p>3. 茶道を通して、日本の伝統文化の基礎知識を獲得できる。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを、実技テスト 50%・確認小テスト 50%で評価する。なお、劣悪な受講態度は、減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	50%	授業内容の習熟度を確認する
定期試験	50%	実技テストにて習熟度を確認する

受講条件	受講条件なし
事前・事後学修(内容・時間)	授業で学んだ内容について、毎回 1.5 時間程度の復習と次回授業前の 1.5 時間程度の予習で、確実に実施できるようにすること(第2回～第15回)。

授業の実施方法と授業計画	<p>※毎時間、点前の作法を繰り返し練習する。</p> <p>※毎時間、季節の室礼(しつらい)を提示し、配布プリントで日本文化・行事を解説する。</p> <p>※実技確認小テストを実施する。小テスト実施後、改善点を各自に伝え、全体に対しても解説する。</p> <p>第1回(講義・実習) 茶道(南坊流)について説明・お辞儀・挨拶・歩き方の学習 プリント配布(毎時)</p> <p>第2回(講義・実習) 座り方・襖(障子)の開閉・床の間の拝見 帛紗さばき実習</p> <p>第3回(講義・実習) 点前の基礎学習① 部分指導(茶器・茶杓・茶巾の扱い方)</p> <p>第4回(講義・実習) 点前の基礎学習② 部分指導(茶筌通し・茶碗のふき方)</p> <p>(実技) 実技確認小テスト① 帛紗さばきの確認</p> <p>第5回(講義・実習) 盆点薄茶点前① 盆点前前半① 客に茶を出すまでの実習</p> <p>第6回(講義・実習) 盆点薄茶点前② 盆点前前半② 菓子の取り方・茶の飲み方の実習</p> <p>(実技) 実技確認小テスト② 茶器・茶杓のあらため方確認</p> <p>第7回(講義・実習) 盆点薄茶点前③ 盆点前前半③ 前半の総復習</p> <p>第8回(講義・実習) 盆点薄茶点前④ 盆点前通し① 「盆点前」資料配布</p> <p>(実技) 実技確認小テスト③ 茶筌とうじの方法確認</p> <p>第9回(講義・実習) 盆点薄茶点前⑤ 盆点前通し② 点前の細部・注意事項の確認</p> <p>第10回(講義・実習) 盆点薄茶点前⑥ 盆点前通し③ 主客の心得を理解する</p> <p>(実技) 実技確認小テスト④ 茶碗の片付け方確認</p> <p>第11回(講義・実習) 風炉小板薄茶点前① 点前前半① 柄杓扱いの説明と実習</p> <p>第12回(講義・実習) 風炉小板薄茶点前② 点前前半③ 水指の扱い方実習</p> <p>(実技) 実技確認小テスト⑤ 柄杓の扱い方</p> <p>第13回(講義・実習) 風炉小板薄茶点前③ 点前通し① 点前全体の流れを把握</p> <p>第14回(講義・実習) 風炉小板薄茶点前④ 点前の細部・注意事項を確認</p> <p>第15回(講義・実習) 実技テスト練習 盆点前後半の復習</p> <p>※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。</p> <p>状況によりオンラインを使用する場合がある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPDL1007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41631
科目	4163 茶道 I	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 敦子	単位数	1 単位
担当教員	伊藤 敦子		
授業概要	<p>本授業では、茶道（本学は茶道南坊流）点前を学ぶことにより、学習過程で礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を養うことを目的とする。茶道学習のはじめの段階として、まず点前を学び、次の段階では主人と客が相互にもてなすことを実践する。茶道具・掛物・季節の花などと接することで、日本の伝統文化についての基礎知識を獲得する。</p> <p>※この科目は茶道南坊流教授職資格を有する教員が講義等を行う科目です。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茶道を通して、礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を養うことができる。 2. 茶道の基本を習得できる。 3. 茶道を通して、日本の伝統文化の基礎知識を獲得できる。 		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを、実技テスト 50%・確認小テスト 50%で評価する。なお、劣悪な受講態度は、減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	50%	授業内容の習熟度を確認する
定期試験	50%	実技テストにて習熟度を確認する

受講条件	受講条件なし
事前・事後学修(内容・時間)	授業で学んだ内容について、毎回 1.5 時間程度の復習と次回授業前の 1.5 時間程度の予習で、確実に実施できるようにすること(第2回～第15回)。

授業の実施方法と授業計画	<p>※毎時間、点前の作法を繰り返し練習する。</p> <p>※毎時間、季節の室礼(しつらい)を提示し、配布プリントで日本文化・行事を解説する。</p> <p>※実技確認小テストを実施する。小テスト実施後、改善点を各自に伝え、全体に対しても解説する。</p> <p>第1回(講義・実習) 茶道(南坊流)について説明・お辞儀・挨拶・歩き方の学習 プリント配布(毎時)</p> <p>第2回(講義・実習) 座り方・襖(障子)の開閉・床の間の拝見 帛紗さばき実習</p> <p>第3回(講義・実習) 点前の基礎学習① 部分指導(茶器・茶杓・茶巾の扱い方)</p> <p>第4回(講義・実習) 点前の基礎学習② 部分指導(茶筌通し・茶碗のふき方)</p> <p>(実技) 実技確認小テスト① 帛紗さばきの確認</p> <p>第5回(講義・実習) 盆点薄茶点前① 盆点前前半① 客に茶を出すまでの実習</p> <p>第6回(講義・実習) 盆点薄茶点前② 盆点前前半② 菓子の取り方・茶の飲み方の実習</p> <p>(実技) 実技確認小テスト② 茶器・茶杓のあらため方確認</p> <p>第7回(講義・実習) 盆点薄茶点前③ 盆点前前半③ 前半の総復習</p> <p>第8回(講義・実習) 盆点薄茶点前④ 盆点前通し① 「盆点前」資料配布</p> <p>(実技) 実技確認小テスト③ 茶筌とうじの方法確認</p> <p>第9回(講義・実習) 盆点薄茶点前⑤ 盆点前通し② 点前の細部・注意事項の確認</p> <p>第10回(講義・実習) 盆点薄茶点前⑥ 盆点前通し③ 主客の心得を理解する</p> <p>(実技) 実技確認小テスト④ 茶碗の片付け方確認</p> <p>第11回(講義・実習) 風炉小板薄茶点前① 点前前半① 柄杓扱いの説明と実習</p> <p>第12回(講義・実習) 風炉小板薄茶点前② 点前前半③ 水指の扱い方実習</p> <p>(実技) 実技確認小テスト⑤ 柄杓の扱い方</p> <p>第13回(講義・実習) 風炉小板薄茶点前③ 点前通し① 点前全体の流れを把握</p> <p>第14回(講義・実習) 風炉小板薄茶点前④ 点前の細部・注意事項を確認</p> <p>第15回(講義・実習) 実技テスト練習 盆点前後半の復習</p> <p>※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。</p> <p>状況によりオンラインを使用する場合がある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPDL1007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41640
科目	4164 茶道Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 敦子	単位数	1 単位
担当教員	伊藤 敦子		

授業概要	<p>本授業では、茶道(本学は茶道南坊流)点前を学ぶことにより、学習過程で礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を確実にすることを目的とする。「茶道Ⅰ」で学んだ点前の学習をさらに深め、より深い日本の伝統文化の知識を獲得する。グループ毎に簡単な茶会を企画し、相互にもてなす茶会実習をおこなう。茶道Ⅱを受講した者は「茶道南坊流 初伝」資格を取得することができる(希望者・別途費用が必要)。 ※この科目は茶道南坊流教授職資格を有する教員が講義等を行う科目です。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茶道Ⅰの講義を通して学んだ礼儀・作法を、確実に実践することができる。 2. 茶道点前の基本を、さらに深めて学び、習得できる。 3. 茶道を通して学んだ日本の伝統文化の基礎知識を、生活やもてなしに応用できる。 						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを、実技テスト 40%・確認小テスト 40%・レポート 20%で評価する。なお、劣悪な受講態度は、減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	授業内容の習熟度を確認する
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する
定期試験	40%	実技テストにて授業内容の習熟度を確認する

受講条件	「茶道Ⅰ」を履修済みであること。
事前・事後学修(内容・時間)	授業で学んだ内容について、毎回 1.5 時間程度の復習と次回授業前の 1.5 時間程度の予習で、確実に実施できるようにすること(第2回～第15回)。

授業の実施方法と授業計画	<p>※毎時間、点前の作法を繰り返し練習する。 ※毎時間、季節の室礼(しつらい)を提示し、配布プリントで日本文化・行事を解説する。 ※グループ毎に茶会を立案・企画し、他グループをもてなす茶会を実施する。 ※レポート課題を提出する。レポートは詳しく添削して返却するとともに講義内で解説する。 ※実技確認小テストを実施する。小テスト実施後、改善点を各自に伝える。</p> <p>第1回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前① 「茶道Ⅰ」の復習① プリント配布(毎時) 第2回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前② 「茶道Ⅰ」の復習② レポート資料配布 第3回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前③ 点前前半① 柄杓の扱い方実技実習 第4回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前④ 点前前半② 実技復習 (実技) 実技確認小テスト① 柄杓の扱い方 確認 第5回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前⑤ 点前通し① 水次の扱い方実習 第6回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前⑥ 点前通し② 水次の扱い方確認 (実技) 実技確認小テスト② 水次の扱い方 グループ茶会の説明 第7回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前① 色紙箱の扱い方実習 (演習) グループ茶会企画①(グループワーク) 第8回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前② 道具の出し方実習 (演習) グループ茶会企画②(グループワーク) 第9回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前③ 点前通し① (演習) グループ茶会企画③(グループワーク) 第10回(演習) グループ茶会① グループ毎に茶会を実施 他のグループをもてなす 第11回(演習) グループ茶会② グループ毎に茶会を実施 他のグループをもてなす 第12回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前③ 点前通し② 第13回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前③ 点前通し② (実技) 確認小テスト③ 色紙箱点前確認 第14回(講義・実習) 実技テスト練習 風炉小坂点前 後半 第15回(講義・実習) 実技テスト練習 風炉小坂点前 後半</p> <p>※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。 状況により、オンラインを使用する場合がある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPDL1008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41641
科目	4164 茶道Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 敦子	単位数	1 単位
担当教員	伊藤 敦子		

授業概要	<p>本授業では、茶道(本学は茶道南坊流)点前を学ぶことにより、学習過程で礼儀・作法を体得し、もてなしの精神を確実にすることを目的とする。「茶道Ⅰ」で学んだ点前の学習をさらに深め、より深い日本の伝統文化の知識を獲得する。グループ毎に簡単な茶会を企画し、相互にもてなす茶会実習をおこなう。茶道Ⅱを受講した者は「茶道南坊流 初伝」資格を取得することができる(希望者・別途費用が必要)。 ※この科目は茶道南坊流教授職資格を有する教員が講義等を行う科目です。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茶道Ⅰの講義を通して学んだ礼儀・作法を、確実に実践することができる。 2. 茶道点前の基本を、さらに深めて学び、習得できる。 3. 茶道を通して学んだ日本の伝統文化の基礎知識を、生活やもてなしに応用できる。 						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを、実技テスト 40%・確認小テスト 40%・レポート 20%で評価する。なお、劣悪な受講態度は、減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	授業内容の習熟度を確認する
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する
定期試験	40%	実技テストにて授業内容の習熟度を確認する

受講条件	「茶道Ⅰ」を履修済みであること。
事前・事後学修(内容・時間)	授業で学んだ内容について、毎回 1.5 時間程度の復習と次回授業前の 1.5 時間程度の予習で、確実に実施できるようにすること(第2回～第15回)。

授業の実施方法と授業計画	<p>※毎時間、点前の作法を繰り返し練習する。 ※毎時間、季節の室礼(しつらい)を提示し、配布プリントで日本文化・行事を解説する。 ※グループ毎に茶会を立案・企画し、他グループをもてなす茶会を実施する。 ※レポート課題を提出する。レポートは詳しく添削して返却するとともに講義内で解説する。 ※実技確認小テストを実施する。小テスト実施後、改善点を各自に伝える。</p> <p>第1回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前① 「茶道Ⅰ」の復習① プリント配布(毎時) 第2回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前② 「茶道Ⅰ」の復習② レポート資料配布 第3回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前③ 点前前半① 柄杓の扱い方実技実習 第4回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前④ 点前前半② 実技復習 (実技) 実技確認小テスト① 柄杓の扱い方 確認 第5回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前⑤ 点前通し① 水次の扱い方実習 第6回(講義・実習) 風炉小坂薄茶点前⑥ 点前通し② 水次の扱い方確認 (実技) 実技確認小テスト② 水次の扱い方 グループ茶会の説明 第7回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前① 色紙箱の扱い方実習 (演習) グループ茶会企画①(グループワーク) 第8回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前② 道具の出し方実習 (演習) グループ茶会企画②(グループワーク) 第9回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前③ 点前通し① (演習) グループ茶会企画③(グループワーク) 第10回(演習) グループ茶会① グループ毎に茶会を実施 他のグループをもてなす 第11回(演習) グループ茶会② グループ毎に茶会を実施 他のグループをもてなす 第12回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前③ 点前通し② 第13回(講義・実習) 色紙箱薄茶点前③ 点前通し② (実技) 確認小テスト③ 色紙箱点前確認 第14回(講義・実習) 実技テスト練習 風炉小坂点前 後半 第15回(講義・実習) 実技テスト練習 風炉小坂点前 後半</p> <p>※ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することがある。 状況により、オンラインを使用する場合がある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPDL1008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41680
科目	4168 基礎教養 I	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		

授業概要	<p>基礎教養では 3 つのことを身につけることを目指します。</p> <p>1 つ目は履歴書やエントリーシートなど、手で書くことを求められる書類についての基礎知識を学びます。そのために読みやすい文字を書くことが要求されます。硬筆書写技能検定を学びながら、文字を誠実に書くことを身につけましょう。誠実な文字は相手に誠意を伝えることができます。誠実な文字を身につけることが社会人基礎力につながります。</p> <p>2 つ目はコミュニケーション能力を理解し面接対策の基本を身に付けます。実践を行う前にコミュニケーションとは何か? を論理的に理解します。面接の基本はコミュニケーションです。</p> <p>この講座は硬筆書写技能検定 2 級に対応しています。</p> <p>硬筆書写技能検定 2 級の 6 月受験を目指します。</p> <p>書くことで自分をアピールしコミュニケーションを学ぶことで相手との関係を良好にすることを学びます。</p> <p>3 つ目は時事問題についての理解を深めます。</p> <p>早くから時事問題に触れることで社会への理解を深めます。</p>						
------	--	--	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎					

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文字の書き方など表現技術を身につけ表現に活かすことができる 2. 履歴書などの書類作成をすることができる 3. 基礎的なコミュニケーション方法を実践することができる 4. 時事問題についてその背景まで理解することができる 						
------	--	--	--	--	--	--	--

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
					2026 年 3 月刊行 予定

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
-------------------------------	--

成績評価	<p>講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。</p> <p>1 回の講義で一つのテーマが終わる。すべてのテーマについて評価の対象にするので注意すること。</p> <p>検定は受験の結果だけではなく受験をすること自体についても評価する。</p>	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	30%	提出された内容を評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する (基本問題 80% 応用問題 20%)

受講条件	<p>検定に前向きに取り組むこと</p> <p>課題をまじめに取り組むこと</p>
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと (2 回 ~ 15 回 0.5 時間程度 × 14 回分)</p> <p>課題に取り組む (2 回 ~ 15 回 0.5 時間程度 × 14 回分)</p> <p>練習問題に取り組む (2 回 ~ 15 回 0.5 時間程度 × 14 回分)</p> <p>毎授業に実施する「小テスト」の対策のための復習をする (2 回から 15 回 1 時間程度 × 14 回分)</p> <p>第 16 回定期試験「毎回の小テスト」を参考に 15 回分の講義を振り返る (1 回 ~ 15 回 2 時間程度)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 回 【講義】 ガイダンス</p> <p>第 2 回 【講義】 時間制限内で正しく書く 漢字の筆順 (グループワーク)</p> <p>第 3 回 【講義】 楷書と行書 旧字体を読む 書写体を読む (グループワーク)</p> <p>第 4 回 【講義】 漢字仮名交じり文 (縦書) 草書を読む 平仮名のもとの漢字 (グループワーク)</p> <p>第 5 回 【講義】 漢字仮名交じり文 (横書) 漢字の字体 (間違いさがし) (グループワーク)</p> <p>第 6 回 【講義】 ハガキの通信文 掲示 (横書き) (グループワーク)</p> <p>第 7 回 【講義】 実技・理論のまとめ (グループワーク)</p> <p>第 8 回 【講義】 理論のまとめ (グループワーク)</p> <p>第 9 回 【講義】 総合的な練習をする (グループワーク)</p> <p>第 10 回 【講義】 模擬試験</p> <p>第 11 回 【講義】 コミュニケーションの意味と価値 (グループワーク)</p> <p>第 12 回 【講義】 話すためのスキル (グループワーク)</p> <p>第 13 回 【講義】 聞くための基礎力 (グループワーク)</p> <p>第 14 回 【講義】 良好な人間関係を保つ (グループワーク)</p> <p>第 15 回 【講義】 コミュニケーションの展開 (グループワーク)</p> <p>※試験や課題のフィードバックは、講義内または Google Classroom で総評を提示し、必要に応じて個別の質問に答える</p> <p>※ 12 回以降は教材を準備する</p> <p>※ 第 11 回までに検定対策補講を実施する</p> <p>※ 進捗状況により予定の講義予定ならびに対策講義に変更がある</p> <p>※ 提出課題は、次回に返却し解説を行う。</p> <p>※ Googleclassroom を使用して資料や課題を提供する。</p> <p>※ 社会情勢により遠隔授業に切り替えることがある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPEL1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41690
科目	4169 基礎教養Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		
授業概要	<p>この講座では世の中の仕組みの基本となる法について学びます。法と言うと難しく感じるかもしれませんが、すべての制度の柱になっているのが法ですので、実は身近な存在です。身近な存在の法について「実際に起こった出来事」を通して、具体的に学んでいきます。楽しく法について学べる講座です。</p> <p>この講座は、公務員試験、就職試験に役立つのみならず、将来の生活にも役立つ知識を身につけることができます。</p> <p>課題については web の課題提出機能を使用します。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	
到達目標	<p>社会の問題点を学ぶことで幅広い知識を得ることを目標とします。その解決方法を探ることで深い専門的な知識の存在を知り専門的な分野の学びへの基礎を身につけることも目標とします。加えて、採用面接の時事的な口頭試問についても余裕を持って回答できる知識を身につけることも目標とします。</p>		

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	<p>予習をし質問を用意して講義に出席するのが望ましい。予習と質問は評価の参考とする。講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。すべてのテーマについて評価する。1回の講義で1つのテーマが終わるので、欠席分のフォローも行うことが望ましい。</p>	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	30%	提出された内容を評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する(基本問題 80% 応用問題 20%)

受講条件	『履修条件はありません』 数的処理Ⅰ・Ⅱも合わせて受講すると望ましいです。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと(2回～15回 1時間程度×14回分)</p> <p>課題を取り組む(2回～15回 1時間程度×14回分) ※ web 課題提出機能を使用します</p> <p>毎授業に実施する「小テスト」の対策のための復習をする(2回～15回 0.5時間程度×14回分)</p> <p>第16回定期試験「毎回の小テスト」を参考に15回分の講義を振り返る(1回～15回 2時間程度)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 【講義】 ガイダンス</p> <p>第2回 【講義】 日本国憲法とは—その成立と特徴、基本原理(グループワーク)</p> <p>第3回 【講義】 人として生まれながらにもちうる権利—(グループワーク)</p> <p>第4回 【講義】 個人の尊重と幸せに生きる権利(幸福追求権)—(グループワーク)</p> <p>第5回 【講義】 法の下での平等—(グループワーク)</p> <p>第6回 【講義】 自由に考え、信仰する自由(思想・良心の自由、信教の自由)—(グループワーク)</p> <p>第7回 【講義】 自由に学び表現する権利—(グループワーク)</p> <p>第8回 【講義】 自由に職業や住む場所を選べる権利(経済的自由権)—(グループワーク)</p> <p>第9回 【講義】 不安なく生きる権利—(グループワーク)</p> <p>第10回 【講義】 教育を受ける権利と義務—(グループワーク)</p> <p>第11回 【講義】 労働者の権利—(グループワーク)</p> <p>第12回 【講義】 国を治める仕組み(象徴天皇・国民主権、国会・内閣・行政・地方自治)—(グループワーク)</p> <p>第13回 【講義】 裁判所の役割と仕組み(司法権、憲法の保障:違憲審査制)—(グループワーク)</p> <p>第14回 【講義】 平和主義と国を守ること—安全保障、自衛隊の存在—(グループワーク)</p> <p>第15回 【講義】 憲法的な人権尊重と福祉的な思いやり・優しさとの調和—(グループワーク)</p> <p>※ディスカッションを行う回もあります</p> <p>※クリッカーを使う講義があります</p> <p>※講義の順序は変更することがあります</p> <p>※授業内で実施した小テストなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。</p> <p>※ Googleclassroom を使用して資料提供し Google フォームで課題を提供します</p> <p>※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります</p>
--------------	---

ナンバリング	CPEL1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期		授業コード	41810			
科目	4181 数的処理 I		授業種別	週間授業			
科目責任者	田原 数哲		単位数	2 単位			
担当教員	田原 数哲						
授業概要	<p>公務員試験や就職試験 (SPI 試験) の中でも共通している科目が数的処理です。数的処理は「判断推理 (課題処理)」と「数的推理」に分かれます。文字通り「判断」することで問題を解くか「計算」することで問題を解くかで分野が分かれます。この「数的処理 I」では、「判断推理 (課題処理)」を中心に学び、習熟度によっては「数的推理」の内容の一部を取り入れます。</p> <p>皆さんに注目していただきたいのは「推理」という言葉です。「推理する」わけですからじっくり考えれば「正解」を導くことができるのです。90 分じっくり問題に取り組んで楽しくさを身につけましょう。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2					
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎				
到達目標	<p>問題文から何を問われているかを理解し、それから方程式を導き出し計算ができる。</p> <p>基本的な解法を学び習得することで応用問題へとつなげる力を身につけることができる。</p>						

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
公務員試験 [高卒程度・社会人] 初級スーパー過去問ゼミ判断推理	資格試験研究会 編	実務教育出版	1500	9784788972650	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	<p>授業の後半では、習熟度によって、「数的処理」のテーマの一部を取り組む場合があります。</p> <p>その内容についての必要な資料は準備します。</p>
-------------------------------	--

成績評価	各講義ごとに行う確認テストと定期試験で評価します。ただし遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・確認テスト、課題レポートで判定します。	
評価項目	割合	評価基準
各回の確認テスト	60%	各回で取り上げたテーマの理解度を確認します。
定期試験	40%	全回の基礎的な理解度と応用力を確認します。

受講条件	『履修条件はありません』
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>基本的に講義内で理解できます。</p> <p>ただし、理解しただけでは学習としては足りません。</p> <p>課題を出しますので演習をしてください。</p> <p>事前・事後学修</p> <ol style="list-style-type: none"> 各回で学んだテーマの授業資料と講義で学んだ解法パターンの再確認をする。(第 2 回～第 15 回 /1 時間程度) 特に演習で間違えた設問と解説をノートなどにまとめる。(第 2 回～第 15 回 /1 時間程度) 演習で学んだ内容などが確実に次回解けるように繰り返し解き直す。(第 2 回～第 15 回 /1.5 時間程度) <p>空き時間に公務員スタディールーム (D 棟 3 階) を使って学習してください。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 回 (講義) ガイダンス、魔方陣 (判断推理)</p> <p>第 2 回 (講義・演習) 暗号 (判断推理)</p> <p>第 3 回 (講義・演習) 集合 (判断推理)</p> <p>第 4 回 (講義・演習) 論理命題 (判断推理)</p> <p>第 5 回 (講義・演習) 対応関係 (判断推理)</p> <p>第 6 回 (講義・演習) 順序関係 (判断推理)</p> <p>第 7 回 (講義・演習) 試合と勝敗 (判断推理)</p> <p>第 8 回 (講義・演習) 発言の真偽 (判断推理)</p> <p>第 9 回 (講義・演習) 数量 (判断推理)</p> <p>第 10 回 (講義・演習) 方位位置 (判断推理)</p> <p>第 11 回 (講義・演習) 平面図形① (判断推理)</p> <p>第 12 回 (講義・演習) 平面図形② (判断推理)</p> <p>第 13 回 (講義・演習) 空間把握 (判断推理)</p> <p>第 14 回 (講義・演習) 時間距離速さ① (数的処理)</p> <p>第 15 回 (講義・演習) 時間距離速さ② (数的処理)</p> <p>※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p> <p>※演習の際は、グループディスカッションを通じて、各個人の理解をより深めます。</p> <p>※授業内で実施した確認テストは採点后、返却します。また、課題やレポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。</p> <p>※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPFM1009
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41820
科目	4182 数的処理Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		

授業概要	この講座では、計算を使って推理をする文章問題を研究していきます。一般的に数的推理と呼ばれる分野になります。出題文章さえきちんと読解できれば、あとの計算は易しいです。いま、民間企業で導入が盛んな「SPI 3」や web テストにも非言語分野として、この講義の内容は出題されています。問題を推理していく過程をディスカッションを用いて学生同士、協力しながら楽しくすすめていきます。公務員試験・SPI 3・web テスト対策、就職試験と幅広く役立つ講座です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		○	○				
到達目標	1 文章を読み自分に求められていることを理解することができる 2 文章を読みわからない点を分析し解決することができる 3 課題を推理していく過程でお互い協力することができる 4 身につけた知識を用いて問題を作ることができる						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2026 年 4 月刊行予定のため未定の部分があります					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	予習をし質問を用意して講義に出席するのが望ましい。予習と質問は評価の参考とします。講義の目標達成がどの程度成されているかで評価します。すべてのテーマについて評価します。1 回の講義で 1 つのテーマが終わるので、欠席分のフォローも行うことが望ましい。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	30%	提出された内容を評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する(基本問題 80% 応用問題 20%)

受講条件	『履修条件はありません』 数的処理Ⅰ・Ⅱも合わせて受講すると望ましいです。
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと(2 回～15 回 1 時間程度×14 回分) 課題を取り組む(2 回～15 回 1 時間程度×14 回分) ※課題は web の課題提出機能を使います 毎授業に実施する「小テスト」の対策のための復習をする(2 回～15 回 0.5 時間程度×14 回分) 第 16 回定期試験「毎回の小テスト」を参考に 15 回分の講義を振り返る(1 回～15 回 2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 【講義】 ガイダンス 第 2 回 【講義】 数と式の基本 方程式の応用—(グループワーク) 第 3 回 【講義】 連立方程式—(グループワーク) 第 4 回 【講義】 不等式—(グループワーク) 第 5 回 【講義】 速度・距離計算①—(グループワーク) 第 6 回 【講義】 速度・距離計算②—(グループワーク) 第 7 回 【講義】 割合・能力—(グループワーク) 第 8 回 【講義】 数の並びと規則—(グループワーク) 第 9 回 【講義】 平面図形—(グループワーク) 第 10 回 【講義】 円—(グループワーク) 第 11 回 【講義】 面積・角度—(グループワーク) 第 12 回 【講義】 立体図形—(グループワーク) 第 13 回 【講義】 順列・組み合わせ—(グループワーク) 第 14 回 【講義】 特別な順列・組み合わせ—(グループワーク) 第 15 回 【講義】 確率—(グループワーク)
	※グループワークを行う回もあります ※履修状況により変更する場合があります ※クリッカーを使用する講義があります ※授業内で実施した小テストなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※ Googleclassroom を使用して資料提供し Google フォームで課題を提供します ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります

ナンバリング	CPFM1010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41830
科目	4183 社会科学基礎	授業種別	週間授業
科目責任者	田原 数哲	単位数	2 単位
担当教員	田原 数哲		
授業概要	社会科学の分野は就職試験、公務員試験を問わず、採用試験の筆記には必ずと言ってよいほど出題されます。一般常識とも言われるこの分野を完成させることで社会人の基礎知識を身につけるとともに、公務員試験を代表とする就職試験対策を盤石なものにします。 ただ、暗記をするのではなく、ただ、暗記をするのではなく、なぜ?と言う理由に踏み込んで考え理解していきます。また、授業内容によってはディスカッションを実施し、学生同士の意見交換を通じて、より深く理解する機会を設けます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性		◎	
到達目標	政治経済の仕組みや関連する数字を理解でき、この分野の基礎を把握することができる。 仕組みだけでなく、情報を自ら得、整理することで、自分の意見や考えを持つことができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	その他、必要な資料は配布します。
------------------------------	------------------

成績評価	中間テスト、各講義ごとに行う確認テスト、確認試験の3項目で評価する。 ただし遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・確認テスト・課題(レポート)で判定します。 遅刻・早退・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
中間テスト	30%	1回～8回までの理解度を確認します。応用も含む
各回の確認テスト	40%	各テーマごとの理解度を確認します。
確認試験	30%	10回～11回の内容を中心とした総合的な理解度を確認します。

受講条件	『履修条件はありません』
事前・事後学修(内容・時間)	講義内で理解できる内容になっていますが、完全に身につけるためには課題を出しますので演習をしてください。 事前・事後学修 1: 各回で学んだテーマの授業資料を再確認する。(第2回～第15回/1時間程度) 2: 事前に講義テーマに該当する分野を熟読する。(第2回～第15回/1時間程度) 3: 知識の定着を必要とするため講義で学んだ知識の整理をテキストを使用して行う。 (第2回～第15回/1.5時間程度) 4: 毎回行う確認問題の演習を行い、中間テスト・確認試験範囲の復習を行う。 (第14回～15回/2時間程度) 空き時間に公務員スタディールーム(D棟3階)を使って学習してください。

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) ガイダンス 第2回(講義・演習) 民主政治の成立 第3回(講義・演習) 日本国憲法 第4回(講義・演習) 基本的人権の尊重 第5回(講義・演習) 日本の政治機構(1) 第6回(講義・演習) 日本の政治機構(2) 第7回(講義・演習) 現代政治の諸問題 第8回(講義・演習) 国際政治の現状と課題 第9回(まとめ) まとめ/中間テスト 第10回(講義・演習) 経済社会の仕組みと経済学 第11回(講義・演習) 国民経済の構造と経済成長 第12回(講義・演習) の本経済の現状と諸問題 第13回(講義・演習) 国際経済と経済協力 第14回(講義・演習) 倫理・社会 第15回(まとめ) まとめ/確認試験 ※授業内容によって、ディスカッションを行い、学生の活発な意見交換を実施する。 ※受講学生の習熟度によって授業計画を変更することもあります。 ※授業内で実施した確認テストは採点后、返却します。また、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。
--------------	--

ナンバリング	CPEM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41840
科目	4184 知識分野基礎	授業種別	週間授業
科目責任者	田原 数哲	単位数	2 単位
担当教員	田原 数哲		
授業概要	この講座では人文科学と自然科学と呼ばれる分野を学びます。各分野とも必須分野(2テーマ)を中心に学びます。 人文科学では、日本史・世界史・地理の必須2テーマを、自然科学では、化学・生物・物理・地学の必須の2テーマを学びます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性		◎	
到達目標	人文科学・自然科学の各科目の基礎を理解し応用できる力を身につけることができる。 歴史、地理、社会について理解を深め、社会事情について総合的に考え、理解できる力を身につけることができる。 公務員採用試験の問題にも対応しているため、試験で解答できる力を身につけることができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特にテキストに指定はありません。 各テーマごとに、必要な資料は配布します。
------------------------------	--

成績評価	成績評価は、確認テスト・中間テスト・確認試験で評価します。 グループディスカッションを取り入れた授業を実施しますので、積極的な参加(姿勢)も評価対象とします。 ただし遠隔授業に伴い定期試験が実施できない場合は、定期試験分について、平常点・確認テスト・課題レポートで判定します。 遅刻・早退・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
各テーマの確認テスト	40%	授業内容の理解度を確認します。
中間テスト	30%	1回～8回までの理解度と応用力を確認します。
確認試験	30%	9回～14回までの理解度と応用力を確認します。

受講条件	『履修条件はありません』
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修・事後学修 1. 毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと(第2回～15回/1時間程度) 2. 課題に取り組む(第2回～15回/1.5時間程度) 3. 毎授業に実施する「確認テスト」の復習をする(2回～15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(講義・演習) ガイダンス 第2回(講義・演習) 日本史:鎌倉・室町時代(ディスカッション) 第3回(講義・演習) 日本史:江戸時代(ディスカッション) 第4回(講義・演習) 世界史:市民革命(ディスカッション) 第5回(講義・演習) 世界史:第2次世界大戦と戦後(ディスカッション) 第6回(講義・演習) 地理:日本地誌(ディスカッション) 第7回(講義・演習) 地理:東南アジア(ディスカッション) 第8回(演習) まとめ/中間テスト 第9回(講義・演習) 化学:物質の構造(ディスカッション) 第10回(講義・演習) 化学:化学反応(ディスカッション) 第11回(講義・演習) 生物:刺激と反応(ディスカッション) 第12回(講義・演習) 生物:遺伝(ディスカッション) 第13回(講義・演習) 物理:物体の運動(ディスカッション) 第14回(講義・演習) 物理:電気(ディスカッション) 第15回(演習) まとめ/確認試験</p> <p>※進捗状況により予定が異なる場合があります ※理解を深めるために2回～14回の授業でグループディスカッション(意見交換)を実施する場合があります、意見交換をすることで各自の理解をより深めます。 ※授業内で実施した確認テストは採点后、返却します。また、課題やレポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。 授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPEM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41870
科目	4187 公務員知能分野応用	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		
授業概要	公務員試験合格、難易度の高い教養試験の鍵になる知能分野のポイントをおさえます。ポイントを丁寧に解説しながら問題演習も行い、確実に試験に使える知識を身につけます。難易度の高い問題にチャレンジします。問題を解くという取り組みから考える力を、相談しながら問題を解くことによって教え合う、伝える力を身につけます。課題の提出は Google フォームの課題提出機能を使用します。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	
到達目標	文章を読み解き、推理することを通じて、考えて結論を出す力を身につけることができる 問題を推理する際に学生同士のディスカッションを通じて表現力を身につけることができる 問題を作るという作業を通じて身につけた知識を実践に活かすことができる		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
公務員知識分野応用と同じテキストです					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	予習をし質問を用意して講義に出席するのが望ましい。予習と質問は評価の参考とする。講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。すべてのテーマについて評価する。1回の講義で1つのテーマが終わるので、欠席分のフォローも行うことが望ましい。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	15%	提出された内容を評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する(基本問題 80% 応用問題 20%)
自宅学習ノート	15%	自宅学習ノートを準備し指定されたテキストの範囲を事前に学習したかを確認する

受講条件	公務員試験、もしくはそれに準ずる難易度の高い教養試験合格を目指す者 必ず予習をして出席してください 公務員総合ゼミナールを受講するのが望ましい
事前・事後学修(内容・時間)	講義までに指定範囲の問題を解く(2時間程度×15回分) 講義後に要点をまとめるためにテキストを復習する(2時間程度×15回分) 講義を踏まえて課題を行う(2回～15回 0.5時間程度×15回分) ※webにて提出 第16回定期試験の前に15回分の講義を振り返る(1回～15回 2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 【講義】 ガイダンス</p> <p>第2回 【講義】 論理命題 対応関係(グループワーク)</p> <p>第3回 【講義】 数量関係 順序 手順(グループワーク)</p> <p>第4回 【講義】 位置 平面図形 折り紙(グループワーク)</p> <p>第5回 【講義】 軌跡 サイコロ 空間図形(グループワーク)</p> <p>第6回 【講義】 方程式 整数 覆面算(グループワーク)</p> <p>第7回 【講義】 比 割合 数量関係(グループワーク)</p> <p>第8回 【講義】 速さと時間 年齢算(グループワーク)</p> <p>第9回 【講義】 平面図形 空間図形(グループワーク)</p> <p>第10回 【講義】 空間図形 場合の数(グループワーク)</p> <p>第11回 【講義】 資料解釈(グループワーク)</p> <p>第12回 【講義】 課題処理分野のまとめ(グループワーク)</p> <p>第13回 【講義】 数的推理分野のまとめ(グループワーク)</p> <p>第14回 【講義】 資料解釈のまとめ(グループワーク)</p> <p>第15回 【講義】 総合的に振り返る(グループワーク)</p> <p>※第2回から15回まで理解度チェックにクリッカーを使用する場合があります。 ※理解度によって進捗状況が変化します。 ※授業内で実施した小テストなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※ Googleclassroom を使用して資料提供し Google フォームで課題を提供します。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPFM2020
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41880
科目	4188 公務員知識分野応用	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		
授業概要	公務員試験合格、難易度の高い教養試験の鍵になる知識分野のポイントをおさえます。ポイントを丁寧に解説しながら問題演習も行い、確実に試験に使える知識を身につけます。 Google フォームでの課題提出を通じてより教養分野の知識を深めることにも取り組みます。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	
到達目標	知識分野の問題研究を通じて幅広い教養を身につけ、それを活かすことができる 知識を通じて、職業に対するより深い専門的な考え方を身につけることができる		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	予習をし質問を用意して講義に出席するのが望ましい。予習と質問は評価の参考とする。 講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。 すべてのテーマについて評価する。1回の講義で1つのテーマが終わるので、欠席分のフォローも行うことが望ましい。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	15%	提出された内容を評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する(基本問題 80% 応用問題 20%)
自宅学習ノート	15%	自宅学習ノートを準備して指定されたテキストの範囲を予習していることを確認する

受講条件	公務員試験・筆記試験の難易度が高い就職試験を受験しようと考えている学生 必ず予習をして参加してください 公務員総合ゼミナールを合わせて受講するのが望ましい
事前・事後学修(内容・時間)	講義までに指定範囲の問題を解く(2時間程度×14回分) 講義後に要点をまとめ、それをベースに問題を作成する(2時間程度×14回分) web で提出 第16回定期試験の前に15回分の講義を振り返る(1回～15回 2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回【講義】ガイダンス</p> <p>第2回【講義】社会科学政治分野(法律分野)(グループワーク)</p> <p>第3回【講義】社会科学政治分野(政治分野)(グループワーク)</p> <p>第4回【講義】社会科学経済分野(グループワーク)</p> <p>第5回【講義】社会科学社会分野(グループワーク)</p> <p>第6回【講義】人文科学日本史(グループワーク)</p> <p>第7回【講義】人文科学世界史(グループワーク)</p> <p>第8回【講義】人文科学地理(グループワーク)</p> <p>第9回【講義】人文科学文学・芸術・国語(グループワーク)</p> <p>第10回【講義】自然科学 数学</p> <p>第11回【講義】自然科学 物理 化学(グループワーク)</p> <p>第12回【講義】自然科学 生物 地学(グループワーク)</p> <p>第13回【講義】社会科学のまとめ(グループワーク)</p> <p>第14回【講義】人文科学のまとめ(グループワーク)</p> <p>第15回【講義】知識分野のまとめ(グループワーク)</p> <p>※第1回から第15回まで、前回の講義の理解度をクリッカーで回答をする場合があります</p> <p>※進捗状況により講義内容を変更します</p> <p>※授業内で実施した小テストなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。</p> <p>※Googleclassroom を使用して資料提供し Google フォームで課題を提供します。</p> <p>※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPFM2021
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41890
科目	4189 公務員総合ゼミナール	授業種別	週間授業
科目責任者	田原 数哲	単位数	2 単位
担当教員	田原 数哲		
授業概要	公務員試験合格を目指す講座です。全講座を通じて 800 問の過去問題に触れ理解をすることと、近年 SPI や集団討論を採用試験の内容に入れてくる市町村や民間企業も多くみられることから、SPI の問題や集団討論 (グループディスカッション) についても取り上げ、SPI 問題を解く力や集団の中でも自分の意見をまとめ発言する力を養うことも目標としています。また、表現力を養うために論文対策も実施します。得意分野だけに終わらず不得意分野もしっかりと網羅できるような内容になっています。また、民間就職の筆記試験対策にもなります。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	
到達目標	1. 各分野の必須テーマの内容を理解することができる。 2. 合格レベルまで得点できる学力を身につけることができる。 3. 集団の中で自分の意見をしっかりと伝える力を養うことができる。 4. 文章力を養うことができる。		

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストはありません。 毎回こちらで資料等は準備します。
-------------------------------	---------------------------------

成績評価	毎回行う模擬問題の成績と確認試験で評価を行います。 遠隔授業の際は、実施した模擬問題の解答用紙 (正答総数) をデータとして送ってまいります。	
評価項目	割合	評価基準
毎回実施する模擬試験	50%	各項目の理解度を確認する
確認試験	50%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	真面目にしっかりと勉強に取り組めること。 こちらが受講に不向きと判断をした場合にはお断りすることがあります。
事前・事後学修 (内容・時間)	事後学修を中心に行ってください。 事後学修 1. 講義した問題の再確認をする。(各回の問題 /1.5 時間程度) 2. 誤答した問題を中心に再び解き直す。(解説をみて解き直してもかまいません。なぜこの解法となるのかを理解することが重要。)(誤答問題 /0.5 時間程度) 3. 毎回出題する各科目のテーマについて、教科書に戻り理解を深める。(各回の問題 /1.5 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (講義・演習) ガイダンスと入門模擬問題 第 2 回 (講義) 入門模擬問題の解説 第 3 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 2 回 (国家・市町村対策) 第 4 回 (講義) 校内模擬問題第 2 回の解説・論文の書き方 第 5 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 3 回 (国家・市町村対策) 第 6 回 (講義) 校内模擬問題第 3 回の解説 第 7 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 4 回 (SPI 対策) 第 8 回 (講義) 校内模擬問題第 4 回の解説・集団討論演習 (グループディスカッション) 第 9 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 5 回 (国家・市町村対策) 第 10 回 (講義) 校内模擬問題第 5 回の解説 第 11 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 6 回 (SPI 対策) 第 12 回 (講義) 校内模擬問題第 6 回の解説・論文対策 第 13 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 7 回 (国家・市町村対策) 第 14 回 (講義) 校内模擬問題第 7 回の解説 第 15 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 8 回 (SPI 対策) 第 16 回 (講義) 校内模擬問題第 8 回の解説・集団討論 (グループディスカッション) 第 17 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 9 回 (国家・市町村対策) 第 18 回 (講義) 校内模擬問題第 9 回の解説 第 19 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 10 回 (国家・市町村対策) 第 20 回 (講義) 校内模擬問題第 10 回解説・論文対策 第 21 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 11 回 (国家・市町村対策) 第 22 回 (講義) 校内模擬問題第 11 回解説 第 23 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 12 回 (SPI 対策) 第 24 回 (講義) 校内模擬問題第 12 回解説 第 25 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 13 回 (国家・市町村対策) 第 26 回 (講義) 校内模擬問題第 13 回解説 第 27 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 14 回 (国家・市町村対策) 第 28 回 (講義) 校内模擬問題第 14 回解説 第 29 回 (講義・演習) 校内模擬問題第 15 回 (国家・市町村対策)・解説 第 30 回 (確認試験) 確認試験 ※この講義は 2 コマの連続実施です。始めの時間は演習、後の時間は講義になります。問題が時間内に解けない場合には休み時間を使って解いてください。また、集団討論演習を行う回は、解説する問題が少なくなりますので、復習をしっかりとこなしてください。 ※ディスカッションを通じて、重要問題を中心に学生全員が「わかった」から「理解する」へと変化を促します。 ※授業内で実施した小テストなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※授業やアンケート等での質問については、適宜、授業内や個別に回答します。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。
--------------	--

ナンバリング	CPGM2008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41920
科目	4192 ニュース解説	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		

授業概要	<p>世の中に起こる出来事を分析することによって、社会人として求められている知識や教養を身につけていく講義です。世の中に起きている出来事＝ニュースの本質をとらえていくと、今、行わなければならない準備が見えてきます。世の中を知り、自分の未来を考える講座でもあります。</p> <p>こうした取り組みを通してニュース時事能力検定の 2 級を目指します。</p> <p>知識を身につけ、知識を使って問題を解くことで、完全にニュースやそれに関わる背景を理解したと言えます。講義と検定を有意義に活用して行きますので、就職試験（公務員試験を含む）の対策にもつながります。課題の提出は Google フォームの課題提出機能を使用します。</p>				
ディプロマポリシー	DP1	DP2			
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○			
到達目標	<p>この講義は、日本のみならず世界に起きているニュースについて 1 年間に範囲を限定して学びます。一つ一つのニュースから自分に関係のあることを見つけ出し、自分がこの話題（＝問題）にどう関わっていけるかを考えます。世界中で起きていることが自分の身近な問題にも関係あることを理解することを目標としています。</p> <p>①ニュース検定 2 級程度のニュースについての知識を持つことができる</p> <p>②多彩な分野から関心のあるニュースを 3 つ選ぶことができる</p> <p>③選んだニュースについてその背景を詳しく調べることができる</p> <p>④そのニュースについてまとめて発表やレポートをすることができる</p>				

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
2026 年 ニュース検定公式問題集時事力(1 級 2 級準 2 級編)	日本ニュース時事能力検定協会	毎日新聞社出版	1,540	9784620907710	

成績評価	<p>講義の目標達成がどの程度成されているかで評価する。</p> <p>なお遅刻や注意の対象となる受講態度は減点の対象とします。</p> <p>予習も評価の対象とする</p> <p>ニュース時事能力検定に前向きに取り組めることも重要である</p>	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	30%	提出された内容を評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する(基本問題 80% 応用問題 20%)

受講条件	<p>時事問題について興味のある学生に限る</p> <p>ニュース時事能力検定に前向きに取り組めること</p>
事前・事後学修(内容・時間)	<p>毎授業前に指定するテキストの範囲を読んでおくこと(2 回～15 回 1 時間程度×14 回分)</p> <p>課題に取り組む(2 回～15 回 1 時間程度×14 回分) ※提出は web 課題提出システムを利用します</p> <p>毎授業に実施する「小テスト」の対策のための復習をする(2 回～15 回 0.5 時間程度×14 回分)</p> <p>第 16 回定期試験「毎回の小テスト」を参考に 15 回分の講義を振り返る(1 回～15 回 2 時間程度)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 回 【講義】 ガイダンス</p> <p>第 2 回 【講義】 政治分野 重要課題(グループワーク)</p> <p>第 3 回 【講義】 政治分野 地方の自立(グループワーク)</p> <p>第 4 回 【講義】 経済分野 揺らぐ自由経済(グループワーク)</p> <p>第 5 回 【講義】 経済分野 日本産業の現状(グループワーク)</p> <p>第 6 回 【講義】 暮らしの時事(グループワーク)</p> <p>第 7 回 【講義】 社会 司法制度(グループワーク)</p> <p>第 8 回 【講義】 環境 地球温暖化 国際分野の時事(グループワーク)</p> <p>第 9 回 【講義】 8 回までの振り返り(グループワーク)</p> <p>第 10 回 【講義】 総合的な振り返り(グループワーク)</p> <p>第 11 回 【講義】 ニュースのことば(グループワーク)</p> <p>第 12 回 【講義】 2023 年の重大ニュース(グループワーク)</p> <p>第 13 回 【講義】 時事を論ずる(グループワーク)</p> <p>第 14 回 【講義】 気になるニュースの選び方(グループワーク)</p> <p>第 15 回 【講義】 時事の振り返り(グループワーク)</p> <p>※時事的な変化によりテーマは変わることがあります</p> <p>※クリッカーを使用する講義があります</p> <p>※検定受験前(第 8 回)までに対策補習を行います</p> <p>※理解度などにより講義・対策補習の変更があります</p> <p>※授業内で実施した小テストなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。</p> <p>※ Googleclassroom を使用して資料提供し Google フォームで課題を提供します。</p> <p>※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM2022
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41930
科目	4193 生活と法	授業種別	週間授業
科目責任者	田原 数哲	単位数	2 単位
担当教員	田原 数哲		
授業概要	みなさんは、「法」と聞くとどのようなことを思い浮かべますか?難しそう、私たちには関係ないなどマイナスのイメージが先行してしまうかもしれません。しかし、私たちの生活には、法が密接に関係しています。普段、何気ない行動にも法が関わっていることが多いのです。「行動のルール」といっても過言ではありません。身の回りの何かトラブルが起こると、「法」の知識でトラブルの悪化を防いだり、法に頼ってトラブルを解決する必要があるのです。この授業では、これから、みなさんが社会人としてのスタートをきるにあたり、日常生活の中で起こりうるトラブルを4つのテーマに分け、事例を基に関連する法を学んでいきます。今後、みなさんが社会へ出た際、学んだ知識を活かすことができる一助となれば幸いです。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎
到達目標	関連する法律の条文が理解できる 日常生活の中で起こりうるトラブルを法律の知識で読み解くことができる		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	その他、必要な資料は授業内で配布します。
------------------------------	----------------------

成績評価	課題レポート・中間テスト・確認試験で評価します。 遅刻・早退・欠席・劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	30%	テーマに沿った内容であり、理解度を確認します。
中間テスト	30%	暮らしの中のトラブル・仕事のトラブルの内容の理解度を確認します。
確認試験	40%	SNSのトラブル・結婚のトラブルの内容を中心とした理解度を確認します。

受講条件	履修条件はありません。 ただし、春学期 科目「社会科学基礎」を履修していれば、なお良し。
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修・事後学修 1. 事前に講義テーマに該当する分野を熟読する。(第2回～第15回/1時間程度) 2. 各回で学んだテーマの授業資料を再確認する。(第2回～第15回/1時間程度) 3. 知識の定着を必要とするため講義で学んだ知識の整理をテキストを使用して行う。 (第2回～第15回/1.5時間程度) 4. 確認試験に向け毎回行う確認問題の演習を行い、確認試験範囲の復習を行う。 (第14回～15回/2時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(講義) ガイダンス</p> <p>第2回(講義・演習) 暮らしの中のトラブルと法律 民事裁判と刑事裁判</p> <p>第3回(講義・演習) 暮らしの中のトラブルと法律 売買契約について</p> <p>第4回(講義・演習) 暮らしの中のトラブルと法律 賃貸借契約について</p> <p>第5回(講義・演習) 暮らしの中のトラブルと法律 痴漢等の迷惑行為について</p> <p>第6回(講義・演習) 仕事のトラブルと法律 社会保障について</p> <p>第7回(講義・演習) 仕事のトラブルと法律 職場でのセクハラ・パワハラについて</p> <p>第8回(講義・演習) 仕事のトラブルと法律 妊娠・出産について</p> <p>第9回(講義・演習) 仕事のトラブルと法律 転勤などの移動について/中間テスト</p> <p>第10回(講義・演習) SNS・インターネットのトラブルと法律 インターネットは自由なのか</p> <p>第11回(講義・演習) SNS・インターネットのトラブルと法律 SNS等を利用した詐欺</p> <p>第12回(講義・演習) SNS・インターネットのトラブルと法律 出会い系サイト等の怖さ</p> <p>第13回(講義・演習) 結婚のトラブルと法律 結婚詐欺のトラブル</p> <p>第14回(講義・演習) 結婚のトラブルと法律 配偶者からのDV</p> <p>第15回(講義・演習) 結婚のトラブルと法律 子育て支援制度/確認試験</p> <p>※授業内容によって、ディスカッションを行い、学生の活発な意見交換を実施します。 ※受講学生の習熟度によって授業計画を変更することもあります。 ※授業内で実施した課題やレポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPFM2024
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41940
科目	4194 現代社会が抱える課題	授業種別	週間授業
科目責任者	伊藤 圭一	単位数	2 単位
担当教員	伊藤 圭一		

授業概要	<p>私たちは過去二度の世界大戦やイデオロギー対立、核戦争の危機、またいくつかの新型病原体の発生等、前世紀までの幾多の課題を何とか乗り切ってきた。現在においても地球温暖化や人口爆発等、今後の社会の発展を決定的に阻害する可能性のある様々な問題が、正に山積み状態に存在している。</p> <p>課題の中に、これからの社会の発展につながるヒントが隠されている。その隠された発展のヒントを見つけるための知識を身に付け、課題解決のためには何が必要かという知恵を、みんなで出し合い、未来を模索していくことを柱にしている。</p> <p>まずは自分を知ること、自分に興味を持ち、周りの人間にも興味を持つことから始める。心理学を通じて自分を知ることから始め、周囲を見つめる目を身に付けていく。そして周囲として一番の広がりである世界に目を向ける。</p> <p>その一つとして、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs 〈エスディーゼーズ〉) から題材をとることでより幅広い視点で考えることができるように配慮している。公務員採用試験・民間就職試験の対策にも役立つ内容になっている。</p>						
------	---	--	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2					
ディプロマポリシーとの関連性		◎					

到達目標	<p>心理学を通じて自分を知ることから始め、持続可能な開発目標 (じぞくかのうなかいはずもくひょう、英語: Sustainable Development Goals: SDGs 〈エスディーゼーズ〉) とは国連の持続可能な開発のための国際目標について考えていきます。これを通じて社会人基礎力を養い未来を見据えて行動できる人材に成長することを目標としています。</p> <p>①自分を知ることでき、周囲を知ることができる。 ②現代社会の課題について問題意識を持ち調べることができる ③課題を解決に導く方法を考えレポートすることができる ④自分の意見、他人の意見を交えて現代社会の課題について解決案を提示することができることを目標とします。</p> <p>自分の意見をきちんと伝え他者から学ぶ能力を身に付けることも目標とします</p>						
------	---	--	--	--	--	--	--

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	授業の到達目標がどの程度、達成できているかどうか課題等で確認をする。毎回テーマが異なり、すべてのテーマが評価の対象となる。予習や質問も評価の参考とする。	
評価項目	割合	評価基準
課題提出	30%	提出された内容を評価します
小テスト	30%	講義の理解度を点数化し評価します
定期テスト	40%	全講義を振り返り理解度を点数化し評価する (基本問題 80% 応用問題 20%)

受講条件	積極的な姿勢で現代の課題について考えられる学生
事前・事後学修 (内容・時間)	授業前に指定個所の教科書を読んでおくこと (第 2 回から 15 回 0.5 時間程度) 授業ごとの課題を取り組むこと (第 1 回から 15 回 1 時間程度) 授業についての事前調査 (第 2 回から第 15 回 0.7 時間程度) レポート作成 (第 14 回・15 回 2 時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 回 【講義】 ガイダンス 貧困をなくす —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 2 回 【講義+グループワーク】 飢餓をゼロに —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 3 回 【講義+グループワーク】 人々に保健と福祉を —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 4 回 【講義+グループワーク】 質の高い教育をみんなに —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 5 回 【講義+グループワーク】 ジェンダー平等を実現しよう —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 6 回 【講義+グループワーク】 安全な水とトイレを世界中に—(講義+ディスカッション)</p> <p>第 7 回 【講義+グループワーク】 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに—(講義+ディスカッション)</p> <p>第 8 回 【講義+グループワーク】 働きがいも経済成長も —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 9 回 【講義+グループワーク】 業と技術革新の基盤をつくらう —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 10 回 【講義+グループワーク】 住み続けられるまちづくりを—(講義+ディスカッション)</p> <p>第 11 回 【講義+グループワーク】 つくる責任つかう責任 —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 12 回 【講義+グループワーク】 気候変動に具体的な対策を —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 13 回 【講義+グループワーク】 海の豊かさを守ろう —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 14 回 【講義+グループワーク】 陸の豊かさを守ろう —(講義+ディスカッション)</p> <p>第 15 回 【講義+グループワーク】 平和と公正をすべての人に —(講義+ディスカッション)</p> <p>※ゲストの先生を迎えて講義、実習をすることがあります ※授業の進捗、社会状況により実習ができない場合があります ※集団討論を使う回があります ※講義の順序は変更することがあります ※授業内で実施した小テストなどは採点后返却します。課題、レポート等については必要に応じてコメントを加えてフィードバックします。試験についても必要であればフィードバックします。 ※ Googleclassroom を使用して資料提供し Google フォームで課題を提供します ※社会情勢により遠隔授業に切り替えることがあります</p>						
--------------	--	--	--	--	--	--	--

ナンバリング	CPFM1011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40510
科目	4051 プレゼンテーション	授業種別	週間授業
科目責任者	瀧崎 優佳	単位数	2 単位
担当教員	瀧崎 優佳		
授業概要	<p>プレゼンテーションの目的は、情報を伝達したことで聴衆が行動をおこすことにある。そのため聴衆が知らないこと、誤解していることについて、正確な情報を伝達することが必要である。また、プレゼンテーションとは、聞き手の立場を考え、聞き手を納得させるために行うため、ビジネスでは重要な行動となる。</p> <p>この講義では、ワークショップを用いて、簡単な自己紹介からパワーポイント等のプレゼンテーションツールを使った技術取得までを幅広く学ぶ。パワーポイント作成に対しての情報モラル（著作権等）や情報の探索についても学ぶ。またプレゼンテーションに必要なコミュニケーション能力を身につけ社会で活かせるようにする。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する企業研修などでプレゼンテーションを指導する実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等行う科目です。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○
到達目標	<p>1. 自己分析、自己表現を通して相手に伝わる自己紹介ができること</p> <p>2. 個人として発表ができること</p> <p>3. 自分の意見を伝え、まとめ、グループとして発表ができること</p> <p>の3つのプレゼンテーションができることを目標とする。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
学生のためのプレゼンテーション・トレーニング	藤田直也ほか	実教出版	1100	9784407337433	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	<p>①発表力・表現力</p> <p>②実技</p> <p>③グループワーク、グループディスカッションでの積極的な取り組み態度</p> <p>①②③で総合評価する</p> <p>プレゼンテーションの技術、集団討論での発言力等で評価、課題への取り組み等で総合的に評価する。</p>	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーションの技術、討議での発言力、積極性、発言議論への貢献度など	50%	授業内で行う実技にて理解度を確認する。
課題・授業中のへの取り組み状況・発表	50%	課題に対して適切な内容になっているか提出物、発表により確認する。

受講条件	『履修に条件はありません』
------	---------------

事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学習</p> <p>①毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと(1時間程度×14回)</p> <p>②次の授業に必要な課題を行うこと(1時間程度×14回)</p> <p>事後学習</p> <p>①毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること(2時間程度×14回)</p> <p>②パソコン操作について自習する(4時間程度)</p>
----------------	---

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1回 【講義・演習】 ガイダンス、ワークショップで学ぶためのルール、自己紹介(ペアワーク・グループワーク)</p> <p>第 2回 【講義】 コミュニケーションの基礎知識</p> <p>第 3回 【講義・演習】 コミュニケーションの中の言語・非言語の重要性</p> <p>第 4回 【講義・演習】 アイデアを生み出す技術・効果的な話し方(グループワーク)</p> <p>第 5回 【講義・演習】 プレゼンテーションの構造・主張の裏付け方(グループディスカッション)</p> <p>第 6回 【講義・演習】 主張の裏付け方・文章とプレゼンテーションについて</p> <p>第 7回 【講義】 レジュームの書き方</p> <p>第 8回 【講義・演習】 意見の形成と主張(グループディスカッション・ディベート)</p> <p>第 9回 【講義・演習】 時系列の叙述・ものごとの説明(グループワーク)</p> <p>第10回 【講義・演習】 ビジネストークにおける説得の論理(グループワーク)</p> <p>第11回 【講義・演習】 ディスカッション・ディベートの基礎知識と実践(グループディスカッション・ディベート)</p> <p>第12回 【講義】 パワーポイント作成に関する情報モラルの知識(著作権等)と情報探索について</p> <p>第13回 【講義・演習】 プレゼンテーションツールの技術※パワーポイントで作成</p> <p>第14回 【講義・演習】 プレゼンテーションツールの技術(プレゼンテーション)</p> <p>第15回 【講義・演習】 プレゼンテーションツールの技術(プレゼンテーション)</p> <p>課題・レポート等については必要に応じてコメントを加え、フィードバックして返却します。授業やアンケート等での質問についても、適宜授業内や個別に回答します。グループディスカッション等では各自に対してコメントを加えたフィードバックを行います。</p> <p>※ classroom を使用する場合があります。</p> <p>★授業内容は、授業の進行状況により変更される場合があります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40560
科目	4056 IT 入門	授業種別	週間授業
科目責任者	辰巳 智行	単位数	2 単位
担当教員	辰巳 智行		
授業概要	<p>この講義は、情報通信技術 (ICT) に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>企業で働く際に求められる情報通信技術に関する基礎知識を測る国家試験として、がある。本試験は、出題範囲が広く、情報処理技術の分野だけでなく、情報に関連したビジネス知識まで必要となる知識を網羅的に扱っている。</p> <p>本講義は、この IT パスポート試験合格レベルの知識習得を目指したカリキュラムである。講義では、まず必要な知識の全体像を掴み、さらに IT パスポート試験の区分にあわせて「ストラテジ」、「マネジメント」、「テクノロジー」の 3 分野に分けて学習を進めていく。</p> <p>また、ICT を深く理解するため NFC (Near Field Communication) タグやパソコンの分解・組み立ての実践を行う。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎
到達目標	<p>(1) ビジネスと情報通信技術の関連を理解し、検定水準の問題を解答できる</p> <p>(2) ビジネスにおける情報通信技術を利用したマネジメントを理解し、検定水準の問題を解答できる</p> <p>(3) 情報通信技術の基礎を理解し、検定水準の問題を解答できる</p> <p>(4) 社会におけるデータ・AI 活用について、その重要性と活用方法を理解することができる。</p> <p>(5) (1) ~ (4) をもって IT パスポート試験合格レベルの知識を習得する</p>		

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
令和 7-8 年度版 知識ゼロからめざす IT パスポート一発合格	FOM	FOM	1760	978-4-86775-134-3	必要に応じて準備

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	<p>講義時に実施する小試験・小レポートと定期試験で評価する。</p> <p>定期試験までに IT パスポート試験に合格した者は、その成績をもって定期試験の成績に代替できる (事前に申し出ること)。</p> <p>小試験・小レポート： 情報通信技術に関する個別分野の理解度を確認する</p> <p>定期試験： 情報通信技術に関する基礎知識の全体的な理解度を確認する</p>	
評価項目	割合	評価基準
小試験・小レポート	40%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
定期試験	60%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)

受講条件	IT パスポートの取得を目指す者。あるいは、情報通信技術 (ICT) に関する基礎知識の修得を目指す者。
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>各回の講義範囲について、予習復習のため、各講義回について 1 時間の予習と、2 時間の授業の復習をおこなうこと。(1 時間× 15 回、2 時間× 15 回) 予習は、次回講義内容の範囲の解説と問題を読み、何が「わからない」ことなのかを確認すること。講義は予習を前提とする。復習は、反復学習や類似問題の練習を行うこと。</p> <p>定期試験のために 15 時間程度の反復学習や類似問題の練習を行うこと。</p> <p>学習に必要なプリント等を配布する場合がある。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 回 ガイダンス (IT パスポート試験について)</p> <p>第 2 回 社会におけるデータ・AI 活用</p> <p>第 3 回 テクノロジ系分野 (1) ハードウェア</p> <p>第 4 回 テクノロジ系分野 (2) ソフトウェア</p> <p>第 5 回 テクノロジ系分野 (3) コンピュータで扱うデータ</p> <p>第 6 回 テクノロジ系分野 (4) データベース / 情報探索</p> <p>第 7 回 テクノロジ系分野 (5) ネットワーク (NFC タグの利用)</p> <p>第 8 回 テクノロジ系分野 (6) セキュリティ / 情報モラル</p> <p>第 9 回 マネジメント系分野 (1) システムの導入</p> <p>第 10 回 マネジメント系分野 (2) システム開発とプロジェクトマネジメント</p> <p>第 11 回 ストラテジ系分野 (1) 企業活動と IT の活用</p> <p>第 12 回 ストラテジ系分野 (2) 法務と財務</p> <p>第 13 回 演習 コンピュータの分解・組み立て</p> <p>第 14 回 模擬問題 (1)</p> <p>第 15 回 模擬問題 (2)</p> <p>・受講者の習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある。また、NFC タグ利用やコンピュータの分解などの演習を行う。</p> <p>・本科目は、主に講義と問題演習の形式で実施する</p> <p>・講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること。小テストや小レポートを実施した場合、採点し返却する。また、解説や解法などを個別もしくは全体に提示する。</p> <p>・受講者によっては、IT パスポート試験の合格に必要な学習時間が、講義および事前・事後学修だけでは不十分な場合がある。講義内容について不明な点は、講義前後の時間を利用して解消すること。一般に、IT パスポート試験の合格には、基礎知識がある者で 120 ~ 150 時間、初学者で 180 ~ 200 時間程度の学習時間が要するとされている。</p> <p>・他の受講生の学習を妨げる行為は禁止する。受講・定期試験への参加資格を取り消す。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40570
科目	4057 パソコン演習Ⅲ	授業種別	週間授業
科目責任者	辰巳 智行	単位数	2 単位
担当教員	辰巳 智行		

授業概要	この講義は、情報通信技術 (ICT) に関する知識やパソコン操作を修得し、特に学習成果の発表やビジネスの場面で必要な文書作成能力やデータ分析・表現能力を身につけること目的とする。 短大でのレポート作成やビジネスの場面では、パソコンを使ってデータの分析をして、それをまとめて表現する能力が求められる。本講義では、それに対応できるように、受講者に具体的な場面を想定した課題に取り組んでもらう。課題へ取り組みを通じて、Excel でデータを集計と分析を行い、PowerPoint で報告できることを目標とする。講義は、提示した課題に取り組み、その成果を受講者間でお互いに評価する。そして、指摘された箇所を修正して、よりよいものを完成させるという流れで進める。			
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	
到達目標	(1) データを収集・集計して、「アクセス」や「Excel」で分析を行うことができる (2) 分析したデータなどを Word や PowerPoint で報告できる (3) オフィスを統合して活用できる (4) 完成した成果物を互いに評価して、それを適切にフィードバックできる (5) 実現したい機能や分からない操作方法をインターネットなどで検索して、解決できる			

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は指定しない。1 年次のパソコン演習Ⅰおよびパソコン演習Ⅱのテキストを参考書として一部利用する。
-------------------------------	---

成績評価	講義時に実施する課題とレポートで評価する 課題： 講義中の課題への取り組み状況やフィードバックを評価する レポート： パソコンで作成したレポートで、パソコンの操作やアプリの機能についての理解度を評価する	
評価項目	割合	評価基準
課題	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
レポート	50%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)

受講条件	特になし
事前・事後学修 (内容・時間)	予習として、あらかじめのテキストを読み、予めテキストを熟読して内容を把握するとともに、分からない用語などは事前に調べておくこと (1.5 時間 / 回)。復習は、講義中に説明した操作を自力できるように練習して、分からなかった箇所を質問できるようにしておくこと。(1 時間 / 回)、講義前後の時間などを利用してタイピングの練習を各自で行うこと (方法は講義ガイダンスで説明する) (0.5 時間 / 回)。復習は、講義中に説明した操作を自力できるように練習して、分からなかった箇所を質問できるようにしておくこと。講義時間で課題が終わらなかった場合、別途作業を求めることがある。 本講義で修得した知識・技術を、他の講義で活用すること。 学習に必要なプリント等を配布する場合がある。

授業の実施方法と授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、主にパソコン操作演習の形式で実施する ・ 講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること ・ 受講者の人数や関心、習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある ・ 各講義回ごとの進捗および疑問点等は、講義回ごとに Google Classroom もしくは Forms で報告・質問すること。この報告・質問の提出により講義への参加とみなす。提出された課題や疑問点、質問については、講義全体で説明するか、もしくは個別に回答・フォロー、フィードバックを行う。 <p>第 1 回【講義】ガイダンス 第 2 回【講義・演習】メールの送受信、ルールとマナー、リテラシ 第 3 回【講義・演習】インターネット上での検索方法 第 4 回【演習】PowerPoint の基礎知識 第 5 回【演習】基本的なプレゼンテーションの作成 1 第 6 回【演習】基本的なプレゼンテーションの作成 2 第 7 回【演習】表の作成 / グラフの作成 第 8 回【演習】図形や SmartArt グラフィックの作成 第 9 回【演習】画像やワードアートの挿入 第 10 回【演習】プレゼンテーションをサポートする機能 第 11 回【演習】プレゼンテーション・デザイン 1 第 12 回【演習】プレゼンテーション・デザイン 2 第 13 回【演習】プレゼンテーション・デザイン 3 第 14 回【演習】総合問題 第 15 回【演習】総合問題 第 16 回【演習】オンライン共有作業 ファイルの共有 第 17 回【演習】オンライン共有作業 コミュニケーションツール 第 18 回【演習】オンライン共有作業 総合演習 第 19 回【講義・演習】中間まとめ 第 20 回【演習】アンケート調査 (1) 調査の設計 第 21 回【演習】アンケート調査 (2) 調査項目の検討 第 22 回【演習】アンケート調査の集計 (1) 調査フォームの解説 第 23 回【演習】アンケート調査の集計 (2) 調査フォームの作成 第 24 回【演習】アンケート調査の集計 (3) 動作確認・アンケート調査実施 第 25 回【演習】アンケート調査レポート作成 (1) 調査結果の集計・グラフの作成 第 26 回【演習】アンケート調査レポート作成 (2) 調査結果の集計・PowerPoint との連携 第 27 回【演習】アンケート調査レポート作成 (3) 集計のレポート作成 第 28 回【演習】アンケート調査レポート作成 (3) 集計のレポート作成 第 29 回【演習】アンケート調査レポート報告 (1) レポートの報告 第 30 回【演習】アンケート調査レポート報告 (2) レポートの報告</p>
--------------	---

ナンバリング	CPGM2006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40580
科目	4058 パソコン演習Ⅳ	授業種別	週間授業
科目責任者	辰巳 智行	単位数	2 単位
担当教員	辰巳 智行		
授業概要	<p>この講義は、情報通信技術 (ICT) に関する知識やパソコン操作技術を修得し、特に調査報告やビジネスの場面で必要な文書作成能力やデータ分析・表現能力を身につけることとする。</p> <p>企業活動や社会活動の場面では、情報通信技術を駆使して情報を集め、パソコンを使ってデータの分析し、まとめて報告する能力が求められる。本講義では、現実の場面で活かすことができる能力を育むため、具体的な場面を想定した課題を提示する。</p> <p>受講者が課題への取り組みを通じて、インターネットで情報を収集して、主に Excel を用いてデータを管理、加工、処理、分析を行い、Word や PowerPoint で報告できることを目標とする。</p> <p>また、簡単なプログラミングの演習を実施する。</p> <p>講義は、提示した課題に取り組み、その成果を受講者間でお互いに評価する。そして、指摘された箇所を修正して、よりよいものを完成させるという流れで進める。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎
到達目標	<p>(1) データを収集して、Excel で集計・分析を自ら行うことができる</p> <p>(2) 分析したデータなどを Word や PowerPoint でわかりやすく報告できる</p> <p>(3) 完成した成果物を情報発信して、互いに評価し、それを適切にフィードバックできる</p> <p>(4) 簡単なホームページをつくることできる</p> <p>(5) 実現したい機能や分からない操作方法をインターネットなどで検索して、解決する</p>		
テキスト (教科書)			
書籍名	著者	発売元出版社	価格
			ISBN
			媒体種別 / 備考
テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は指定しない。資格目標などにあわせて、1 年次のテキストを利用する。		
成績評価	講義時に実施する課題とレポートで評価する。		
評価項目	割合	評価基準	
受講条件	特になし。「パソコン演習Ⅲ」の受講を前提としない(「パソコン演習Ⅳ」のみの受講を認める)。		
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>予習として、あらかじめのテキストを読み、予めテキストを熟読して内容を把握するとともに、分からない用語などは事前に調べておくこと (1.5 時間 / 回)。復習は、講義中に説明した操作を自力できるように練習して、分からなかった箇所を質問できるようにしておくこと。(1 時間 / 回)、講義前後の時間などを利用してタイピングの練習を各自で行うこと (方法は講義ガイダンスで説明する) (0.5 時間 / 回)。復習は、講義中に説明した操作を自力できるように練習して、分からなかった箇所を質問できるようにしておくこと。講義時間で課題が終わらなかった場合、別途作業を求めることがある。</p>		
授業の実施方法と授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、主にパソコン操作演習の形式で実施する ・ 講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること ・ 受講者の人数や関心、習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある ・ 各講義回ごとの進捗および疑問点等は、講義回ごとに Google Classroom もしくは Forms で報告・質問すること。この報告・質問の提出により講義への参加とみなす。提出された課題や疑問点、質問については、講義全体で説明するか、もしくは個別に回答・フォロー、フィードバックを行う。 <p>第 1 回【講義】ガイダンス (講義概要・評価方法・ICT の重要性)</p> <p>第 2 回【講義・演習】メールの送受信、ルールとマナー、情報リテラシ</p> <p>第 3 回【演習】情報発信 (1) HTML 基礎で自己紹介ページ作成</p> <p>第 4 回【演習】情報発信 (2) CSS でデザイン調整</p> <p>第 5 回【演習】Excel 基礎 (表作成・セル書式設定)</p> <p>第 6 回【演習】Excel 基礎 (簡単な計算・オートフィル)</p> <p>第 7 回【演習】Excel 関数 (SUM、AVERAGE)</p> <p>第 8 回【演習】Excel 関数 (IF、条件分岐)</p> <p>第 9 回【演習】Excel 関数 (VLOOKUP、検索系)</p> <p>第 10 回【演習】Excel 入力規則 (データ検証)</p> <p>第 11 回【演習】Excel 複数シート連携</p> <p>第 12 回【演習】Excel 条件付き書式</p> <p>第 13 回【演習】Excel グラフ (棒グラフ・折れ線)</p> <p>第 14 回【演習】Excel グラフ (円グラフ・複合グラフ)</p> <p>第 15 回【演習】Excel 図形・グラフィック機能</p> <p>第 16 回【演習】Excel 総合問題 (売上分析)</p> <p>第 17 回【演習】統計データ分析 (1) オープンデータ活用</p> <p>第 18 回【演習】統計データ分析 (2) データ前処理</p> <p>第 19 回【演習】統計データ分析 (3) ピボットテーブル集計</p> <p>第 20 回【演習】統計データ分析 (4) 関数+ピボットで分析</p> <p>第 21 回【演習】統計データ分析 (5) グラフで可視化</p> <p>第 22 回【演習】プレゼン資料作成 (PowerPoint 基礎)</p> <p>第 23 回【演習】プレゼン資料作成 (デザイン・構成)</p> <p>第 24 回【演習】プレゼン資料作成 (発表準備)</p> <p>第 25 回【演習】Python 基礎 (環境設定・print 文)</p> <p>第 26 回【演習】Python 基礎 (変数・条件分岐)</p> <p>第 27 回【演習】Python 基礎 (繰り返し・リスト)</p> <p>第 28 回【演習】Python 基礎 (関数・辞書)</p> <p>第 29 回【演習】Pyxel で簡単なゲーム作成 (キャラクター移動)</p> <p>第 30 回【演習】Pyxel ゲーム完成・発表 (プレゼン+ディスカッション)</p>		
ナンバリング	CPGM2007		

開講年度・開講学期	2026 年度春学期		授業コード	40730			
科目	4073 商業簿記I		授業種別	週間授業			
科目責任者	花岡 幹明		単位数	4 単位			
担当教員	花岡 幹明						
授業概要	<p>簿記とは、企業（非営利目的の組織も含まれる）の毎日の活動等を帳簿に記録し、利害関係者に役立つ情報を提供することである。</p> <p>この授業では、『業種・職種にかかわらずビジネスパーソンが身に付けておくべき「必須の基本知識」として、多くの企業から評価される（日本商工会議所検定試験サイトより引用：https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping/class3）日商簿記検定3級の内容（期中取引、決算時の処理）について学修する。内容は、小規模な商品売買業を題材に、その具体的な企業活動を知り、仕訳や帳簿への転記などの会計実務を学ぶことであり、経理関連書類の適切な処理を行うための基礎知識を取得することを目的とする。受講生の大半は、実務経験が無く、初学者であることが想定されるため、具体的な取引（企業活動）を覚えることから始め、仕訳や記帳が各自で行えるよう、演習（練習）にウェイトを置いた授業を行っている。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎				
到達目標	<p>本科目は商品売買業を営む小規模企業の簿記をテーマにしている。会社の数字、特にお金の流れに関する簿記の知識は、営利、非営利を問わず、企業体の経営を理解する上では必須の知識と言える。まさにディプロマポリシーで掲げる「社会人」として習得すべき「基礎的な（専門的）知識」である。また、企業を取り巻く様々な法律に則り、事業取引を正確に処理ができるということは、「汎用的な事務処理能力」を証明するものとも言える。このような学問の習得に向けて、本科目では、以下のような具体的な目標を設定する。</p> <p>①日商簿記3級レベルの期中取引に関する仕訳ができる。 ②各勘定口座への記帳や補助簿を作成できる。 ③決算の手続きにおける一連の処理（主に決算整理仕訳）が行える。</p>						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
※ 2026 年 4 月時点で最新版を使用します。					
よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.15.0	TAC株式会社 (簿記検定講座) 編著	TAC 出版	1,650 円	9784300115831	※ 2026 年 4 月時点で最新版を使用します。

成績評価	評価は期末定期試験（期末試験 60%）と各単元で実施する確認テスト及び中間試験（確認 20%、中間 20%）を総合しておこなう。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準

受講条件	履修条件はありません。
事前・事後学修（内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前に指定箇所までテキストを読み、基本例題を解くこと。（第2回～30回／1.5時間程度） ・毎授業後、以下の内容で復習を行うこと。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の確認、理解度、質問点など、振り返りシートを作成する。 2. 問題集（合格トレーニング）の該当（指示）部分を解答する。 3. 配布された本試験対策問題等を解答する（配布時）。 4. 返却された試験の間違ひ等を修正する（返却時）（第2～30回／2時間程度） ※振り返りシート・アンケートは学内 LAN の共有フォルダ内に配置する。 また、遠隔用に、Google フォームを使用することもある。 ※講義資料、練習（確認）問題と解答、検定試験対策問題は、基本的に学内 LAN の共有フォルダ内に配布する。 ・定期試験（中間・期末）に備えて、確認テストや検定試験過去問題などの自習を行う。（第15回、30回、／2～3時間程度） ・資格取得を目指す受講生には、授業以外に一定時間の学修が必要である。授業は基礎的レベルでの知識修得に大半を割いているため、資格取得に向けては、それなりの対策が必要である。従って、授業外のエクステンション（学外講座など）の活用やグループでの学修方法などを推奨する。具体的には、ガイダンス時に説明する。

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回（講義）ガイダンス ～簿記の意義～ 第2回（講義）財務諸表と簿記の5要素 第3回（講義）記帳のルール 仕訳と転記 第4回（講義）商品売買取引 三分法 掛取引 第5回（講義）手付金や内金の処理 商品券 第6回（講義）クレジット売掛金、手形取引 第7回（講義）返品 諸掛り 第8回（講義）売掛金元帳・買掛金元帳 商品有高帳 第9回（講義）現金 当座預金 第10回（講義）当座借越契約 各種預金口座に関する処理 第11回（講義）小口現金 第12回（講義）手形取引 第13回（講義）電子記録債権・債務 第14回（講義）貸付金・借入金 利息計算 第15回（講義）有形固定資産の取得・売却・賃借 第16回（テスト・演習）中間試験 第17回（講義）修繕と改良 仮払金・仮受金 第18回（講義）給与 第19回（講義）様々な帳簿の関係 第20回（講義）試算表 第21回（講義）決算とは 第22回（講義）決算整理Ⅰ 売上原価 第23回（講義）決算整理Ⅱ 現金過不足 第24回（講義）決算整理Ⅲ 貸倒れ 第25回（講義）決算整理Ⅳ 減価償却 第26回（講義）決算整理Ⅴ 貯蔵品 第27回（講義）決算整理Ⅵ 当座借越 Ⅶ 経過勘定項目① 第28回（講義）決算整理Ⅶ 経過勘定項目② 第29回（講義）決算整理後残高試算表 第30回（講義・演習）問題演習 決算整理（グループ学習）</p> <p>※課題（テストやレポート等）については、授業内あるいは Classroom を通じて質問や疑問等に対するフィードバックを行います。また、振り返りシートは、提出後にコメント等を記入してから返却します。</p> <p>※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
--------------	--

ナンバリング	CPFM1003
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	40740		
科目	4074 商業簿記Ⅱ			授業種別	週間授業		
科目責任者	花岡 幹明			単位数	4 単位		
担当教員	花岡 幹明						
授業概要	『商業簿記Ⅰ』に引き続き、日商簿記検定 3 級の内容（決算処理、株式会社会計、証ひょうや伝票処理）について学修するとともに、検定試験の合格に向けた対策を通じて、より一層の実践的な理解を目指す。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎				
到達目標	<p>本科目は株式会社形態の商品売買業に関する各種の取引の処理が正確にできることを目的とする。まさにディプロマポリシーで掲げる「汎用性のある事務処理能力」の習得を目的としている。また、簿記は会計分野の「専門的な基礎知識」とすると同時に、企業の経営全般を理解する上でも欠かせない重要な知識である。従って、授業においては、会計分野からの視点のみではなく、経営学の「体系的な」各分野との関係性にも着目しながら、その意義を学修することを目的とする。具体的には以下のような目標を設定する。</p> <p>①日商簿記 3 級レベルの商業簿記（決算処理や帳簿作成）に関する問題を解くことができる。 ②試算表データから財務諸表の作成が行える。 ③株式会社の仕組みや税金の処理（日商 3 級程度）の問題を解くことができる。</p>						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項 ※ テキストは『商業簿記Ⅰ』と同じです。

成績評価	評価は定期試験（期末試験 70%）と各単元で実施する確認テスト及び中間試験（確認 10%、中間 20%）を総合しておこなう。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する
確認テスト	10%	単元毎の理解度を確認する
中間テスト	20%	体系的な理解度を確認する

受講条件	商業簿記Ⅰを履修していること。もしくは、日商簿記検定3級以上の資格を有していること。
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前に指定箇所までテキストを読み、基本例題を解くこと。(第 2~30 回/1 時間程度) ・毎授業後、以下の内容で復習を行うこと。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の確認、理解度、質問点など、振り返りシートを作成する 2. 問題集(合格トレーニング)の該当(指示)部分を解答する。 3. 配布された本試験対策問題等を解答する(配布時)。 4. 返却された試験の間違え等を修正する(返却時) (第 2 ~ 30 回/2 時間程度) ※振り返りシート・アンケートは学内 LAN の共有フォルダ内に配置する。 また、遠隔用に、Google フォームを使用することもある。 ※講義資料、練習(確認)問題と解答、検定試験対策問題は、基本的に学内 LAN の共有フォルダ内にて配布する。 ・定期試験(中間・期末)に備えて、確認テストや検定試験過去問題などの自習を行う。 (第 17 回、第 30 回/6 時間程度) ・資格取得を目指す受講生には、授業以外に一定時間の学修が必要である。授業は基礎的レベルでの知識修得に大半を割いているため、資格取得に向けては、それなりの対策が必要である。従って、授業外のエクステンション(学外講座など)の活用やグループでの学修方法などを推奨する。具体的には、ガイダンス時に説明する。

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) ガイダンス ~日商 3 級の受験について~ 第2回 (講義・演習) 決算処理に関する復習(グループ学習) 第3回 (講義) 決算整理後残高試算表 第4回 (講義) 精算表 第5回 (講義) 帳簿の締め切り 第6回 (講義) 財務諸表の作成 第7回 (講義・演習) 簿記一巡の手続き(グループ学習) 第8回 (講義) 株式の発行 第9回 (講義) 剰余金の配当と処分 第10回 (講義) 税金 法人税等 第11回 (講義) 消費税 第12回 (講義) 検定問題から学ぶ 決算整理 仕訳問題 第13回 (講義) 検定問題から学ぶ 経過勘定 仕訳問題 第14回 (講義) 検定問題から学ぶ 決算関連 仕訳問題 第15回 (講義) 検定問題から学ぶ 消費税 仕訳問題 第16回 (講義) 検定問題から学ぶ 決算関連 精算表問題(グループ学習) 第17回 (講義・演習) 検定問題から学ぶ 決算関連 財務諸表作成問題(グループ学習) 第18回 (テスト・演習) 中間試験 決算関連問題 第19回 (講義) 証ひょう 第20回 (講義・演習) 伝票 (グループ学習) 第21回 (講義・演習) 検定問題から学ぶ 5 証ひょう・伝票問題(グループ学習) 第22回 (講義・演習) 検定対策 仕訳問題 商品売買 第23回 (講義・演習) 検定対策 仕訳問題 現金 小口現金 クレジット売掛金 第24回 (講義・演習) 検定対策 仕訳問題 手形取引 電子記録債権・債務 その他取引Ⅰ 第25回 (講義・演習) 検定対策 仕訳問題 その他取引Ⅱ・Ⅲ 第26回 (講義・演習) 検定対策 記帳問題 第27回 (講義・演習) 検定対策 帳簿問題 商品有高帳 第28回 (講義・演習) 検定対策 帳簿問題 その他 第29回 (講義・演習) 検定対策 証ひょう問題 第30回 (講義・演習) 検定対策 伝票問題</p> <p>※課題(テストやレポート等)については、授業内あるいは Classroom を通じて質問や疑問等に対するフィードバックを行います。また、振り返りシートは、提出後、コメント等を記入してから、返却します。(Google フォームを使用する) ※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
--------------	--

ナンバリング	CPGM1001
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	40760
科目	4076 工業簿記	授業種別	週間授業
科目責任者	花岡 幹明	単位数	2 単位
担当教員	花岡 幹明		

授業概要	<p>商品売買業における企業の経営活動の主たるものは、商品などの仕入活動と販売活動である。これに対して、製造業（メーカー）における主たる経営活動は原材料の仕入などを行う購買活動と工場などで製品に仕上げる製造活動及びできあがった製品の販売活動といえる。本講義では、工場内での製品製造活動の事務処理を中心とする工業簿記の学習をテーマとしている。これらの経営活動は、商業簿記と同じように複式簿記によって記録・計算・整理される。本講義では、原価計算と密接に結合した製造業で行われている工業簿記について学習し、日商簿記2級工業簿記レベルの知識の修得を目標とする。とくに原価計算は、企業経営にとって有用な情報の作成と利用に活用され、製造業を超えて商業など他の企業にも広がっており、製造業（メーカー）をはじめ企業の事務職や金融機関を進路目標とする学生には、役に立つ授業科目である。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	○	△	◎				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 製造業（メーカー）の製造に関する内部取引を正確に計算処理をして記帳し、決算時に整理・集計を行なって損益計算書と貸借対照表を作成できる。 2. 個別受注生産（個別原価計算）と見込生産（総合原価計算）の製造形態の区別に対応した製品製造原価を算出するための原価計算ができる。 3. 標準原価計算を利用することによって、原価管理を行わない製造活動の無駄を排除したり、直接原価計算を利用することによって、企業経営上の短期利益計画を立て、将来の経営活動の改善に役立てる。 						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
※ 2026 年 9 月時点で最新版を使用します。					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	評価は定期試験（期末試験 70%）と各単元で実施する確認テスト及び 2 回の中間試験（確認 10%、中間 20%）を総合しておこなう。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する
確認テスト	10%	単元毎の理解度を確認する
中間テスト	20%	体系的な理解度を確認する

受講条件	商業簿記 I の履修が望ましい。もしくは同レベルの内容を修得済みであるか、3 級以上の簿記検定に合格していることが望ましい。
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと。(第 2 回～ 15 回 / 1.5 時間程度) ・毎授業後、以下の内容で復習を行うこと。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の確認、理解度、質問点など、振り返りおこなう。 2. 配布された問題を解答する(配布時)。 3. 返却された試験の間違え等を修正する(返却時) (第 2～ 15 回 / 2 時間程度) ※振り返り用のシート・アンケートは学内 LAN の共有フォルダ内に配置する。 また、遠隔用に、Google フォームを使用することもある。 ※講義資料、練習(確認)問題と解答、検定試験対策問題は、基本的に学内 LAN の共有フォルダ内に配布する。 ・定期試験(中間・期末)に備えて、確認テストや検定試験過去問題などの自習を行う。 (第 4 回・第 9 回・第 15 回 / 6 時間程度) ・資格取得を目指す受講生には、授業以外に一定時間の学修が必要である。授業は基礎的レベルでの知識修得に大半を割いているため、資格取得に向けては、それなりの対策が必要である。従って、授業外のエクステンション(学外講座など)の活用やグループでの学修方法などを推奨する。具体的には、ガイダンス時に説明する。

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 [講義] 工業簿記の基礎 第2回 [講義] 材料費 第3回 [講義] 労務費 第4回 [講義] 経費 第5回 [演習・テスト] まとめ(グループ学習)と中間試験 第6回 [講義] 総合原価計算 1 第7回 [講義] 総合原価計算 2 第8回 [講義] 個別原価計算 第9回 [演習・テスト] まとめ(グループ学習)と中間試験 第10回 [講義] 標準原価計算 1 標準原価の計算 第11回 [講義] 標準原価計算 2 原価差異 第12回 [講義] 直接原価計算 第13回 [講義] 損益分岐点分析 第14回 [講義] 製造業の財務諸表 第15回 [講義] 本社工場会計</p> <p>※課題(テストやレポート等)については、授業内あるいは Classroom を通じて質問や疑問等に対するフィードバックを行います。また、振り返りシートは、提出後、コメント等を記入してから、返却します。(Google フォームを使用する) ※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
--------------	---

ナンバリング	CPGM1002
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41750
科目	4175 マーケティング	授業種別	週間授業
科目責任者	花岡 幹明	単位数	2 単位
担当教員	花岡 幹明		

授業概要	マーケティングとは、変化する市場に働きかける企業の諸活動、すなわち市場の創造を意味している。この授業では、小売業の視点からのマーケティングに焦点をあて、売れるお店を作るための販売活動などを学ぶ。最終的には2月に行われる販売士検定3級の合格を目指す。尚、この授業は、日本商工会議所リテールマーケティング（販売士）検定3級試験科目を対象とするものである。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性			◎				
到達目標	<p>当科目は、日本商工会議所リテールマーケティング（販売士）検定3級試験科目『マーケティング』分野を対象としている。ディプロマポリシーに掲げる販売士ユニットの専門科目として、小売業の視点からのマーケティング（販売士検定の対象とする内容）の諸理論や知識の「体系的な修得」を目的としており、具体的には以下のような目標を設定する。</p> <p>①メーカーと小売業の4Pの違いを説明できる。 ②マーケティングリサーチの基本的な知識や手法について説明できる。 ③消費者行動に影響を与える要因と市場調査に関する基本を説明できる。</p>						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	『販売士ハンドブック基礎編 下巻』第4編マーケティングp 106～170 (日本商工会議所・全国商工会連合会編 株式会社カリアック 2024年7月 ISBN なし) をテキストとして使用します。 ※テキストの購入については、受講者確定後に授業内にて説明します。
------------------------------	---

成績評価	評価は期末試験(筆記試験)、授業内での小テスト(確認テスト)や課題レポートを総合して行う。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。
小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	履修条件はありません (本講義は日本商工会議所販売士検定3級の合格を目指すものである。販売士3級を取得するためには「マーケティング」以外に、「流通論(春開講)」、「ショップマネジメント(春開講)」、「店舗・販売戦略(秋開講)」を履修することが望ましい。)
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前に指定箇所までテキストを読んでおくこと。(第2～15回/1時間程度) ・毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること。(第2～15回/1時間程度) ・グループワークに際しては、事前に指示された内容について準備すること。 (第1,4,7,9,11,14回/2時間程度) ・単元毎に実施する課題及び過去問研究のレポートを作成する。 (第2,5,8,10,12,15回/2時間程度) ・定期試験に備えて小テストや検定試験の過去問など、試験範囲の復習を行う。 (第14～15回/2時間程度) <p>※講義資料、レポート課題及び提出シート、過去問研究資料等は、基本的に学内LANの共有フォルダ内に配布する。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) マーケティングの基本 第2回 (講義・演習) 外部環境・内部環境を理解する(グループワーク) 第3回 (講義) メーカーと小売業の4P分析と統合的なマーケティング 第4回 (講義) 商品政策の基本 第5回 (講義・演習) ブランド・ブランディングについて考えよう(グループワーク) 第6回 (講義) 価格政策の基本 第7回 (講義) 立地条件の基本 第8回 (講義・演習) 出店の基本知識と過去問研究(グループワーク) 第9回 (講義) プロモーション政策の基本 第10回 (講義・演習) マーケティング・コミュニケーションについて考えよう(グループワーク) 第11回 (講義) 観光マーケティングの基本 第12回 (講義・演習) 観光問題についてマーケティングの観点から考えよう(グループワーク) 第13回 (講義) 消費者行動の基本 第14回 (講義) 市場調査の基本 第15回 (講義・演習) 具体的な市場調査のケーススタディ(グループワーク)</p> <p>※課題(テストやレポート等)については、授業内あるいは Classroom を通じて質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※小テストやグループワーク等の質問・アンケートは Google フォームを使用する。</p> <p>※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
--------------	--

ナンバリング	CPGM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41760
科目	4176 ショップマネジメント	授業種別	週間授業
科目責任者	花岡 幹明	単位数	2 単位
担当教員	花岡 幹明		

授業概要	小売店の店舗経営について学びます。お店を開くには何が必要か。また、店舗運営するために心掛けることは何か。この授業では、店舗運営の基礎、売り場づくり、作業や人の割り当てなど、効率的な店舗運営の方法を学ぶ。尚、この授業は、日本商工会議所リテールマーケティング（販売士）検定3級試験科目を対象とするものである。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性			◎				
到達目標	<p>当科目は、日本商工会議所リテールマーケティング（販売士）検定3級試験科目『ストアオペレーション』分野を対象としている。ディプロマポリシーに掲げる販売士ユニットの専門科目として、小売店の店舗経営に関する業務内容と関連する諸理論や「体系的な知識の修得」を目的としており、具体的には以下のような目標を設定する。</p> <p>①ストアオペレーション（店舗運営）に関する一連の業務とそれぞれの留意点について説明できる。 ②包装の意義と種類が説明でき、且つ、基本的な商品包装が行える。 ③ディスプレイの基本的性格と評価基準の概要が説明できる。 ④陳列器具の形状別、また販売方法別の基本的なディスプレイパターンを説明できる。 ⑤販売員の役割や法令知識に関する諸課題について説明できる。</p>						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	『販売士ハンドブック基礎編 下巻』第3編ストアオペレーション p3～105(日本商工会議所・全国商工会連合会編 株式会社カリアック 2024年7月 ISBN なし) をテキストとして使用します。 ※テキストの購入については、受講者確定後に授業内にて説明します。
------------------------------	---

成績評価	評価は期末試験（筆記試験）、授業内での小テスト（確認テスト）や課題レポートを総合して行う。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。
小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	履修条件はありません (本講義は日本商工会議所販売士検定3級の合格を目指すものである。販売士3級を取得するために「ショップマネジメント」以外に、「流通論（春開講）」、「マーケティング（秋開講）」、「店舗・販売戦略（秋開講）」を履修されることが望ましい。)
事前・事後学修（内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前に指定箇所までテキストを読んでおくこと。(第2～15回／1時間程度) ・毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること。(第2～15回／1時間程度) ・グループワークに際しては、事前に指示された内容について準備すること。 (第3,6,8,10,12,13回／2時間程度) ・単元毎に実施する課題及び過去問研究のレポートを作成する。 (第4,7,9,11,13,14回／2時間程度) ・定期試験に備えて小テストや検定試験の過去問など、試験範囲の復習を行う。 (第14～15回／2時間程度) <p>※講義資料、レポート課題及び提出シート、過去問研究資料等は、基本的に学内 LAN の共有フォルダ内にて配布する。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回（講義）ストアオペレーション・サイクル、開店準備の業務 第2回（講義）日常の営業業務、メンテナンス業務 第3回（講義）チェックアウト業務とミーティング 第4回（講義・演習）ストアオペレーションの重要性と過去問研究（グループワーク） 第5回（講義）包装技術の基本知識 第6回（講義）ひものかけ方、リボンの作り方、和式進物包装 第7回（演習）包装技術の実践と過去問研究（グループワーク） 第8回（講義）ディスプレイの目的と基本的役割 第9回（講義・演習）ディスプレイの基本的パターン（グループワーク） 第10回（講義）衣料品業界のディスプレイ技術 第11回（講義・演習）ディスプレイの重要性と過去問研究（グループワーク） 第12回（講義）店舗照明と色彩の活用 第13回（講義・演習）店舗照明の基本（グループワーク） 第14回（講義・演習）色彩の活用（グループワーク） 第15回（講義）販売員の法令知識</p> <p>※課題（テストやレポート等）については、授業内あるいは Classroom を通じて質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※小テストやグループワーク等の質問・アンケートは Google フォームを使用する。</p> <p>※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM1007
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41770
科目	4177 流通論	授業種別	週間授業
科目責任者	花岡 幹明	単位数	2 単位
担当教員	花岡 幹明		

授業概要	近年、日本の流通業は大きく変化してきている。この授業では、日本の小売業、卸売業といった流通業の現状と将来の方向性について学ぶ。具体的には、小売業、卸売業の果たす役割、流通経路や様々な展開する店舗形態、また中でもその発展に大きく寄与するチェーンストアの仕組みなどを学習する。尚、この授業は、日本商工会議所リテールマーケティング（販売士）検定3級試験科目を対象とするものである。						
------	---	--	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
-----------	-----	-----	-----	--	--	--	--

ディプロマポリシーとの関連性			◎				
到達目標	<p>当科目は、日本商工会議所リテールマーケティング（販売士）検定3級試験科目『小売業の類型』分野を対象としている。ディプロマポリシーに掲げる販売士ユニットの専門科目として、日本の流通業における現状と課題、またその背景にあえる諸理論や知識の「体系的な修得」を目的としており、具体的には以下のような目標を設定する。</p> <p>①小売業の定義と流通の役割について説明できる。 ②店舗販売・無店舗販売の業態や特徴を説明できる。 ③チェーンオペレーションの定義と分類について説明できる。</p>						

テキスト（教科書）					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

テキスト（教科書）、参考書および参考文献に関する特記事項	『販売士ハンドブック基礎編 上巻』第1編小売業の類型 p3～77（日本商工会議所・全国商工会連合会編 株式会社キャリアック 2024年7月 ISBN なし）をテキストとして使用します。 ※テキストの購入については、受講者確定後に授業内にて説明します。
------------------------------	--

成績評価	評価は期末試験（筆記試験）、授業内での小テスト（確認テスト）や課題レポートを総合して行う。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。
小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	履修条件はありません （本講義は日本商工会議所販売士検定3級の合格を目指すものである。販売士3級を取得するためには「流通論」以外に、「ショップマネジメント（春開講）」、「マーケティング（秋開講）」、「店舗・販売戦略（秋開講）」を履修することが望ましい。）
事前・事後学修（内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前に指定箇所までテキストを読んでおくこと。（第2～15回／1時間程度） ・毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること。（第2～15回／1時間程度） ・グループワークに際しては、事前に指示された内容について準備すること。（第2,5,7,9,12,14回／2時間程度） ・単元毎に実施する課題及び過去問研究のレポートを作成する。（第3,6,8,10,13,15回／2時間程度） ・定期試験に備えて小テストや検定試験の過去問など、試験範囲の復習を行う。（第14～15回／2時間程度） <p>※講義資料、レポート課題及び提出シート、過去問研究資料等は、基本的に学内 LAN の共有フォルダ内に配布する。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回（講義）小売業・卸売業の基本 第2回（講義）流通の役割 第3回（講義・演習）流通における小売業の基本、過去問研究（グループワーク） 第4回（講義）商品のとらえ方 第5回（講義）商品の流通経路 第6回（講義・演習）情報化と流通（グループワーク） 第7回（講義）現代の流通の特徴 第8回（講義・演習）店舗販売と無店舗販売（グループワーク） 第9回（講義）店舗販売の業態 第10回（講義・演習）商業集積（グループワーク） 第11回（講義）チェーンオペレーション 第12回（講義）無店舗販売 第13回（講義・演習）店舗販売と無店舗販売の融合（グループワーク） 第14回（講義）電子商取引 第15回（講義・演習）流通論（小売業の類型）過去問研究（グループワーク）</p> <p>※課題（テストやレポート等）については、授業内あるいは Classroom を通じて質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※小テストやグループワーク等の質問・アンケートは Google フォームを使用する。</p> <p>※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM1008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41780
科目	4178 店舗・販売戦略	授業種別	週間授業
科目責任者	花岡 幹明	単位数	2 単位
担当教員	花岡 幹明		

授業概要	この授業では、店舗運営における効率的な商品管理に関わる側面としてのマーチャンダイジング(発注、仕入、在庫、販売といった商品の流れ)と店舗運営に必要な法令や計数について学ぶ。尚、この授業は、日本商工会議所リテールマーケティング(販売士)検定3級試験科目を対象とするものである。						
------	---	--	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性			◎				

到達目標	<p>当科目は、日本商工会議所リテールマーケティング(販売士)検定3級試験科目『マーチャンダイジング』分野を対象としている。ディプロマポリシーに掲げる販売士ユニットの専門科目として、マーチャンダイジング(発注、仕入、在庫、販売といった商品の流れ)と店舗運営に必要な法令や計数に関する知識の「体系的な修得」を目的としており、具体的には以下のような目標を設定する。</p> <p>①マーチャンダイジングの基本と販売・仕入計画の概要を説明できる。 ②商品管理及び基礎的な価格設定の手法を説明できる。 ③物流の基本とその効率化に向けた現代の取り組みについて説明できる。 ④情報通信技術の活用について POS システムやバーコード、EDI などの役割を説明できる。</p>
------	--

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	『販売士ハンドブック基礎編 上巻』第2編マーチャンダイジング p81～160 (日本商工会議所・全国商工会連合会編 株式会社カリアック 2024年7月 ISBN なし)をテキストとして使用します。 ※テキストの購入については、受講者確定後に授業内にて説明します。
------------------------------	--

成績評価	評価は期末試験(筆記試験)、授業内での小テスト(確認テスト)や課題レポートを総合して行う。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	60%	筆記試験にて理解度を確認する
課題レポート	40%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する
小テスト	20%	講義内容の理解度を確認する

受講条件	履修条件はありません (本講義は日本商工会議所販売士検定3級の合格を目指すものである。販売士3級を取得するためには「店舗販売戦略」以外に、「流通論(春開講)」、「ショップマネジメント(春開講)」、「マーケティング(秋開講)」を履修することが望ましい。)
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業前に指定箇所までテキストを読んでおくこと。(第2～15回/1時間程度) ・毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成すること。(第2～15回/1時間程度) ・グループワークに際しては、事前に指示された内容について準備すること。 (第2,4,7,10,12,14回/2時間程度) ・単元毎に実施する課題及び過去問研究のレポートを作成する。 (第3,5,8,11,13,15回/2時間程度) ・定期試験に備えて小テストや検定試験の過去問など、試験範囲の復習を行う。 (第14～15回/2時間程度) <p>※講義資料、レポート課題及び提出シート、過去問研究資料等は、基本的に学内 LAN の共有フォルダ内に配布する。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) マーチャンダイジングの基本 第2回 (講義) 販売計画・仕入計画の基本 第3回 (講義・演習) マーチャンダイジングの主な機能と過去問研究(グループワーク) 第4回 (講義) 商品管理 第5回 (講義・演習) ABC 分析、売れ筋・死に筋の分析(財務指標から)(グループワーク) 第6回 (講義) 在庫管理 第7回 (講義) 価格設定の基本 第8回 (講義・演習) 平均値入額の計算(グループワーク) 第9回 (講義) 価格の設定要因と価格政策 第10回 (講義) 物流の基本 第11回 (講義・演習) 物流の効率化と過去問研究(グループワーク) 第12回 (講義) POS システム 第13回 (講義・演習) バーコードとRFID(グループワーク) 第14回 (講義) EDI とサプライチェーンマネジメント 第15回 (講義・演習) 販売管理の基本と過去問研究(グループワーク)</p> <p>※課題(テストやレポート等)については、授業内あるいは Classroom を通じて質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※小テストやグループワーク等の質問・アンケートは Google フォームを使用する。</p> <p>※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>
--------------	--

ナンバリング	CPGM1005
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41030
科目	4103 韓国入門	授業種別	週間授業
科目責任者	韓 銀暎	単位数	2 単位
担当教員	韓 銀暎		
授業概要	韓国について、いろいろな方面（文字や発音、基本的な文法、文化、社会など）から理解を深める事を目標とする。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性		◎	
到達目標	①ハングルの読み書きができる②韓国の文化などを知る③簡単な挨拶や会話ができる、の三点を身につけ、幅広い教養と理解を深めることを目標とする。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
マル韓国語	韓必南	朝日出版社	2200	9784255556703	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	「課題レポートと復習小テストで評価する」 授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合があります。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	30%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する。
復習小テスト	70%	数回、筆記試験にて理解度を確認する。

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に指定箇所まで教科書やプリントを読んでおくこと(第2～14回/1時間程度) 授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること(第2～14回/1.5時間程度) 毎授業後に授業で得た学びについて必ず目を通し復習を行うこと(第1～15回/2.5時間程度) 小テストの復習を行うこと(第5,8,11,13,15回/1時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) ガイダンス、ハングル文字について</p> <p>第2回 (講義) 基本母音、基本子音</p> <p>第3回 (講義) 合成母音、濃音</p> <p>第4回 (講義) バッチム</p> <p>第5回 (講義) 発音のルール</p> <p>第6回 (講義) 挨拶表現</p> <p>第7回 (講義) 韓国の年中行事</p> <p>第8回 (講義) 基本助詞、～です・ます形</p> <p>第9回 (講義) 儀礼(1歳の誕生日のお祝い、結婚式)</p> <p>第10回 (講義) 漢数字</p> <p>第11回 (講義) 韓国の民族遊び</p> <p>第12回 (講義) 韓国の食文化</p> <p>第13回 (講義) 固有数詞</p> <p>第14回 (講義) 韓国の教育制度</p> <p>第15回 (講義) 韓国の宮殿、世界文化遺産</p> <p>課題およびテスト等については、授業内で質問や疑問等に対するフィードバックを行い、必要に応じて個別にコメントの入ったレポート用紙を返却することでフィードバックを行う。 ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPFM2018
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	41040
科目	4104 ドイツ入門	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤 皓士	単位数	2 単位
担当教員	加藤 皓士		

授業概要	<p>西洋と東洋の違いはありますが、敗戦後、ドイツと日本は同じように経済的な発展をとげ、それぞれの地域を政治的にも経済的にもリードする国となりました。日本の一流企業やアーティストたちもドイツに注目しています。ドイツの童話や音楽がいま再び注目されはじめてもいます。ドイツは親日派が多いことでも有名です。日本の伝統文化だけではなく、アニメや食文化なども、ドイツ人はとても興味を持っています。</p> <p>この授業では、ドイツを通して日本とは異なった新しいものの見方や考え方に触れていきます。それにより、日本のよい面やおかしな面が見えてくることでしょう。この授業が、皆さんの国際人としての感覚を少しでも育てるものであるようにと思っています。</p> <p>具体的には、ドイツの歴史と文化について勉強します。文化というのは、哲学や文学などいわゆるお高いもののみならず、現代のより身近なもの、漫画や芸能や政治などについても扱う予定です。またみなさんの興味をお聞きして、そのつど自由に話題を変えるつもりです。決して固く考えずに気軽にきて下さい。</p>		
------	---	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎					

到達目標	<p>①社会人として常識的なマナーのなかで授業に参加できる ②ドイツの食や音楽、祭礼などの文化を映像を見ながら学ぶ ③ドイツの自然遺産を知り、その地理的特徴を知る ④ドイツ人らしさ、ドイツ人気質を文化や歴史と関連付けて考えられる ⑤ドイツと日本を比較しながら考察する</p>		
------	---	--	--

テキスト (教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
現代ドイツの社会・文化を知る為の 48 章	田村光彰 他	明石書店	1,800 円 + 税	4-7503-1712-8 C0336	あくまでも参考書です。購入の必要はなし。

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	毎回、プリントを配布します。
-------------------------------	----------------

成績評価	授業の最後にレポートを提出してもらいます。	
評価項目	割合	評価基準
講義ノート	70%	授業で話されたことを適切に理解しているかどうか。
感想・質問	30%	授業内容の理解を踏まえて、その内容を深め、さらに新たな関心を持っているかどうか。

受講条件	特になし。ドイツをはじめヨーロッパに関心のある方は特に歓迎します。
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>事前学習：前の週に配布されたプリントの確認、講義ノートの整理、最確認。わからないところやさらに関心を持ったところを書籍やネットで調べる。(1 回につき 2 時間)</p> <p>事後学習：授業中に説明したトピックについて配布資料をよく読んで、内容を整理をするためにノートを確認する (1 回につき 1 時間程度)。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>1 回 [講義] ガイダンス 2 回 [講義] ドイツってどんな国？ 3 回 [講義] ドイツの歴史 (1) 4 回 [講義] ドイツの歴史 (2) 5 回 [講義] ドイツの歴史 (3) 6 回 [講義] ドイツの哲学・文学 (1) 7 回 [講義] ドイツの哲学・文学 (2) 8 回 [講義] ドイツの哲学・文学 (3) 9 回 [講義] ドイツの哲学・文学 (4) 10 回 [講義] ドイツの現代 (1) 11 回 [講義] ドイツの現代 (2) 12 回 [講義] ドイツの現代 (3) 13 回 [講義] ドイツの現代 (4) 14 回 [講義] ドイツと宗教 1 15 回 [講義] ドイツと宗教 2</p> <p>※講義ノートに書かれた質問は授業で取り上げ、お応えします。また、メールによる授業内容への質問も受け付けます。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM2019
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41080
科目	4108 観光英会話I	授業種別	週間授業
科目責任者	Stewart Gale	単位数	1 単位
担当教員	Stewart Gale、船井 純平		
授業概要	Travel English course. All classes are taught in English.		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎	
到達目標	Students will learn how to confidently deal with a number of situations they may come across while travelling in foreign countries.		

テキスト (教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

テキスト (教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	Students should bring an English dictionary.
-------------------------------	--

成績評価	Classwork 30% Final exam 70%	
評価項目	割合	評価基準
Classwork	30%	Pronunciation, Attendance, Participation
Final exam	70%	Paper test

受講条件	
事前・事後学修 (内容・時間)	Students should review the English grammar they learned at Junior High School and High School, such as how to form questions and the appropriate usage of tenses (present / past / future etc.). Students should spend 1 hour at home reviewing each class and preparing for the next week' s class.

授業の実施方法と授業計画	<p>Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 - (Lecture, drill and pairwork) On an aeroplane and at airport immigration. 2 - (Lecture, drill and pairwork) Talking about family and asking permission to do things. 3 - (Lecture, drill and pairwork) Ordering food and at a bank. 4 - (Lecture, drill and pairwork) Asking for street directions. 5 - Travel documentary video and discussion. 6 - (Lecture, drill and pairwork) At a hospital and reserving a hotel room. 7 - (Lecture, drill and pairwork) Talking about your hometown and asking about tourist attractions. 8 - (Lecture, drill and pairwork) Talking about places you have been and talking about your interests. 9 - (Lecture, drill and pairwork) Making plans to meet. 10 - Travel documentary video and discussion. 11 - (Lecture, drill and pairwork) Shopping and bargaining. 12 - (Lecture, drill and pairwork) At the Post Office and retrieving lost property. 13 - (Lecture, drill and pairwork) Suggesting things to do and going to the airport. 14 - (Lecture, drill and pairwork) Talking about holiday experiences. 15 - Review.
--------------	---

ナンバリング	CPFM1004
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	41110
科目	4111 観光ビジネス	授業種別	週間授業
科目責任者	辰巳 智行	単位数	2 単位
担当教員	辰巳 智行		

授業概要	<p>この講義は、日本国内の地理を学び、旅行の基礎知識として習得することを目的とする。</p> <p>全国各地の景勝地、名産品、行事、祭などを地図と結びつけながら、理解することを目標とする。まず、地図や教科書を利用して、全国の地形や観光地の位置関係を把握する。後半では、自ら旅行計画を立て、それをプレゼンテーションを行う。さらに、プレゼンテーションを受講者間でお互いに評価とディスカッションを実施する。そして、よりよいものを完成させるという流れで進める。また、適宜、理解を深めるために受講者間で地理や観光に関するゲームをおこなう。</p> <p>「旅行地理検定試験」に対応する講座である。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎				
到達目標	<p>(1) 日本地理の基本について理解すること</p> <p>(2) 日本国内の観光地を把握すること</p> <p>(3) 日本国内の観光地を紹介できること</p>						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストは指定しない。
------------------------------	-------------

成績評価	<p>講義中の取組・課題、プレゼンテーション報告、定期試験を合わせて評価する</p> <p>講義中の取組・課題： 講義内での課題・事前事後学修でのプリント課題・講義への参加貢献を評価する</p> <p>プレゼンテーション報告： 観光地の旅行計画を作成し、プレゼンテーションを評価する</p> <p>定期試験・最終レポート： 地理や観光に関する知識の理解度を評価する</p>	
評価項目	割合	評価基準
講義中の取組・課題	30%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
プレゼンテーション報告	30%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)
定期試験・最終レポート	40%	(成績評価の項を参照：文字数の制限のため)

受講条件	特にありません。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>予習は、次回講義内容の範囲で、テキストの問題を解き、何が「わからない」ことなのかを確認すること(2時間×9回)。</p> <p>講義は予習を前提とする。復習は、反復学習や類似問題の練習を行うこと(3時間×9回)。</p> <p>学習に必要なプリント等を配布する場合がある。</p> <p>このほか、プレゼンテーションの準備および修正(4時間×2回)、定期試験の用意(7時間)が最低限もめらる。</p>

授業の実施方法と授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の人数や関心、習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある ・本科目は、主に講義形式と反転授業を併用する ・講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること。試験や課題については、採点してフィードバックを全体あるいは個別に行う。 <p>第1回【講義】 ガイダンス 第2回【講義】 中部地方(1) 第3回【講義】 中部地方(2) 第4回【講義】 近畿地方 第5回【講義】 中国地方 第6回【講義】 四国地方 第7回【講義】 九州地方 第8回【講義】 関東地方 第9回【講義】 東北地方 第10回【講義】 北海道地方 第11回【講義】 観光地紹介プレゼンテーション(1) 第12回【講義】 観光地紹介プレゼンテーション(2) 第13回【講義】 観光地紹介プレゼンテーション(3) 第14回【講義】 プレゼンテーションについてのディスカッション 第15回【講義】 まとめ</p>
--------------	--

ナンバリング	CPFM1006
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	42090
科目	4209 医療保険制度	授業種別	週間授業
科目責任者	矢島 明彦	単位数	2 単位
担当教員	矢島 明彦		
授業概要	<p>超高齢社会に向かう日本の現状や少子化・医療的ケア児への対応・医療技術の進歩・国民の価値観の変化・保険財源の悪化等により、日本の医療（保険）制度は改革が行われています。社会保障と税の一体改革でも、産科医療・小児医療・救急医療・後期高齢者医療の問題をはじめとして様々な改革が予定されており、2021 年 10 月よりオンライン資格確認の本格運用が開始されました。本講座では、最新の医療保険制度を中心に、診療報酬や時事問題、今後の制度改革の方向性などについて取り上げて学習予定です。</p> <p>「★この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。」</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎
到達目標	医療事務員として現場で求められる最低限の医療保険に関する基礎知識を習得する。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
特になし					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	定期試験 40% 小テスト 60% により評価します。 (諸般の情勢で定期試験が実施できない場合は小テストで評価します)	
評価項目	割合	評価基準
定期試験	40%	筆記試験により理解度を確認します
小テスト	60%	課題を適切に理解しているかを確認します

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	<p>本講義では、現場で役に立つ医療保険制度を初め、日本で生活するうえで必要な医療に関する知識など、テーマごとに解説していきます。</p> <p>今後、後期高齢者一部負担金の変更を始め、医療を取り巻く環境は大きく変わっています。毎回の受講準備及び復習として、厚生労働省の医療保険制度ガイド(最下行参照、概ね毎回予習2時間程度、復習2時間程度)を行うこと。</p> <p>また、医療に係るニュースなどは日々報道されておりますので、新聞(何新聞でもよい)やニュース、各省庁の情報などに目を通す習慣をつけてください。医療に関わる記事が無い日は殆どありません。基本的な参照資料として、厚生労働省の報道発表資料から現在の医療(保険)制度の方向性を掴んでみてください。</p> <p>厚生労働省 医療保険制度ガイド 最新の改定情報などが掲載されます。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第 1 回(講義) ガイダンス(保険とは?)</p> <p>第 2 回(講義) 医療保険制度体系</p> <p>第 3 回(講義) 医療保険の種類Ⅰ</p> <p>第 4 回(講義) 医療保険の種類Ⅱ</p> <p>第 5 回(講義) 保険給付</p> <p>第 6 回(講義) 給付率と患者負担及び高額療養費制度(講義)</p> <p>第 7 回(講義) 保険外併用療養費制度、入院時食事療養費、入院時生活療養費(講義)</p> <p>第 8 回(講義) 退職した後の医療保険</p> <p>第 9 回(講義) 高齢者の医療制度</p> <p>第 10 回(講義) 公費負担医療制度</p> <p>第 11 回(講義) 労災保険制度の概要</p> <p>第 12 回(講義) 交通事故と自動車保</p> <p>第 13 回(講義) 地方自治体の公費負担医療</p> <p>第 14 回(講義・演習) 制度の要点の復習Ⅰ</p> <p>第 15 回(講義) 制度の要点の復習Ⅱ</p> <p>※各講義での質問については、講義終了時に講師に直接質問又は、専用のアンケート等により受付、次回講義開始時に回答予定です。本講義で実施した小テストなどについては、次回以降の講義で採点結果を配布予定です。</p> <p>*医療保険に関わる金融教育をあわせて行います。</p> <p>※受講についての注意事項 ・授業計画は、受講学生の習熟度等で講義方法変更などにより、講義内容や実施方法が変更になることがあります。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM1012
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	42110
科目	4211 医療法規	授業種別	週間授業
科目責任者	矢島 明彦	単位数	2 単位
担当教員	矢島 明彦		
授業概要	<p>医療行為は様々な法律の規制を受けます。それは「人の命を預かる」という極めて崇高な使命に基づくからに他なりません。</p> <p>特にここ数年、「医療崩壊」や「医療事故」、「医療ミス」などが新聞等で報道されております。医療従事者として勤務を目指す以上、その使命の重大さに今一度立ち返り、医療人としての自覚を持つ必要があります。</p> <p>本講座では保険請求時に必要な知識として、「医療法」「健康保険法」を中心に医療現場で日常的に起こる法律問題の事例を学びます。</p> <p>医療関係に入職する、しない問わず、日本で暮らす以上、日本の法律を無視することはできず、一般企業などでも顧客情報や企業の機密事項などを取り扱いに制限があることを認識する必要があります。</p> <p>特に医療機関では患者さんのデリケートな情報を扱うため、守るべき情報が何か、正しく情報を守るために「個人情報保護法」についても学び、社会人としての常識も身につけます。</p> <p>「★この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。」</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性			◎
到達目標	医療事務員としての最低限の医療関連法規の基礎知識を習得する。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
医療関連法規の完全知識 2026 年版	望月稔之、並木洋、小笠原一志	医学通信社	3200 円 + 税	9784868400233	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項					
------------------------------	--	--	--	--	--

成績評価	定期試験 4 割、小テスト 6 割を目安に評価します。諸般の情勢等で定期試験が実施できない場合は小テストで評価する。				
評価項目	割合	評価基準			
定期試験	40%	筆記試験によって理解度を確認します			
小テスト	60%	課題を適切に理解しているかを確認します			

受講条件	診療報酬請求論Ⅱ A またはⅡ B と同時履修				
事前・事後学修(内容・時間)	<p>法律に関する知識を、実際の医療現場で備えて欲しい部分を抜粋して解説します。</p> <p>毎回の講義事前学習として、日々の新聞(どの新聞でもよい、1日2時間以上)に目を通す習慣をつけてください。又、授業内容の復習を毎回2時間行うこと。</p> <p>特に近年の感染症関連の情報を初め、医療過誤や診療報酬の不正請求、情報漏洩などの記事が多いので、果たして何が問題なのかを講義を通じて自分なりに考察するようにしましょう。</p>				

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(講義) ガイダンス(医療機関と法律)</p> <p>第2回(講義) 医療事務と法規(総論)</p> <p>第3回(講義) 医療法1(総論)</p> <p>第4回(講義) 医療法2(人員基準等)</p> <p>第5回(講義) 医療保険に関する法規(総論)</p> <p>第6回(講義) 健康保険法1(目的・法の概要)</p> <p>第7回(講義) 健康保険法2(給付の内容)</p> <p>第8回(講義) 健康保険法3(患者負担等)</p> <p>第9回(講義) 高齢者医療確保法(後期高齢者医療保険関係)</p> <p>第10回(講義) 診療報酬に関する法規</p> <p>第11回(講義) 療養担当規則</p> <p>第12回(講義) その他の医事関連法規</p> <p>第13回(講義) 個人情報保護法</p> <p>第14回(講義) 医療関連法規のまとめ</p> <p>第15回(講義) 医療関連法規の要点の復習</p> <p>※各講義での質問については、講義終了時に講師に直接質問又は、専用のアンケート等により受付、次回講義開始時に回答を、本講義で実施した小テストなどについては、次回以降の講義で採点結果の配布を、それぞれ予定しております。</p> <p>※注意事項 ・授業計画は、受講学生の習熟度又は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う講義方法変更などにより、講義内容や実施方法が変更になることがあります。</p>				
--------------	---	--	--	--	--

ナンバリング	CPFM1013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	42180
科目	4218 介護事務総論	授業種別	週間授業
科目責任者	水野 真理	単位数	4 単位
担当教員	水野 真理、矢島 明彦		
授業概要	<p>【介護】現在の日本は過去に例をみないほどの高齢化が進んでいます。平均寿命は男女共に 80 歳を超えています。健康寿命は男女共に 70 歳を超えています。ただこの平均寿命と健康寿命の差が大きくなればなるほど介護が必要な期間が長くなり、介護に係る事項の重要性が高まります。介護を必要とする人々は医療保険もあわせて利用する人が多くなり、医療との関連性においても理解を深める必要があります。</p> <p>医療機関における医療と介護事業所における介護サービスの連携を地域の中で行う地域包括ケアにも力が注ぎ込まれています。</p> <p>本講座では、介護保険制度、介護報酬の算定の知識の他、提供されるサービスの内容、医療保険との関わり等、介護事務全般に必要な知識を学習します。</p> <p>医療と介護は将来我々が直面する事柄です。すでに直面している人もいるでしょう。</p> <p>介護請求事務は介護保険を正しく理解し、運用できる縁の下の力持ちです。</p> <p>資格試験にチャレンジし、資格取得することも視野にいれて学習を進めます。</p> <p>この機会にさらなる知識の習得を目指しましょう。</p>		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	<p>介護保険の必要性と重要性を理解する。</p> <p>サービスの種類とその内容を理解し、介護報酬の算定ができる。</p> <p>介護報酬明細書の点検ができ、誤りを指摘することができる。</p> <p>医療保険等、他制度と介護保険の違いを理解することができる。</p> <p>技能認定振興協会主催の介護事務管理士の資格取得を目指す。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	<p>テキスト1介護保険のしくみとサービス</p> <p>テキスト2介護報酬の算定のしかた</p> <p>資料ブック</p> <p>レセプト記載ルール</p> <p>※ソラストオリジナルテキスト</p>
------------------------------	---

成績評価	<p>小テスト(40%)</p> <p>定期試験(60%)</p> <p>なお、学校規定による出席率が確保できていない場合や、授業内課題をすべて提出していない場合は、定期試験は受験できません。</p>	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	介護保険制度・介護報酬の算定について理解しているかを評価
定期試験	60%	資格試験に沿った筆記試験にて介護保険制度・介護報酬の算定とレセプト作成ルールの理解度を評価

受講条件	特にありません。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>実施した講義内容についてテキストを再読すること。(第 01 回～第 30 回/1 時間)</p> <p>(欠席した回については自己学習を行うこと)</p> <p>確認問題とテキスト、資料ブックの該当箇所を再確認を行い、復習と未実施の部分は各自実施をし、不明な点は次回、質問し理解すること。(第 03 回～第 28 回/1.5 時間)</p> <p>講師側から出題された課題を実施し、提出すること。(第 01 回～第 28 回/2.5 時間)</p> <p>定期試験に向けて小テストの復習を行うこと。(第 03 回～第 28 回/1.5 時間)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第 01 回 【講義】制度のしくみ(介護保険の特徴と目的、制度のしくみ、サービス提供の流れ、利用者との契約)</p> <p>第 02 回 【講義】制度のしくみ(支給限度基準額、給付管理業務)</p> <p>第 03 回 【講義・演習】制度のしくみ(給付管理業務、テキスト内再確認) 小テスト(小テストは実施後、解答・解説を行う)</p> <p>第 04 回 【講義】テキスト1再確認(介護保険制度とサービスの種類総復習)</p> <p>第 05 回 【講義】居宅サービス:訪問介護費①</p> <p>第 06 回 【講義・演習】居宅サービス:訪問介護費②、小テスト(小テストは実施後、解答・解説を行う)</p> <p>第 07 回 【講義】居宅サービス:訪問入浴介護費、訪問看護費①</p> <p>第 08 回 【講義・演習】居宅サービス:訪問看護費②、確認問題、小テスト(小テストは実施後、解答・解説を行う)</p> <p>第 09 回 【講義】居宅サービス:訪問リハビリテーション費、居宅療養管理指導費、確認問題</p> <p>第 10 回 【講義】居宅サービス:通所介護費、通所リハビリテーション費、確認問題</p> <p>第 11 回 【演習】小テスト(訪問介護費～通所リハビリテーション費) 試験問題形式(学科と算定)(小テストは実施後、解答・解説を行う)</p> <p>第 12 回 【講義】居宅サービス:短期入所サービス①</p> <p>第 13 回 【講義】居宅サービス:短期入所サービス②</p> <p>第 14 回 【講義】居宅サービス:短期入所サービス③</p> <p>第 15 回 【演習】小テスト(短期入所サービス費) 試験問題形式(学科と算定)(小テストは実施後、解答・解説を行う)</p> <p>第 16 回 【講義・演習】小テスト(居宅サービス費算定)、レセプト作成方法(試験問題形式にて実施)①</p> <p>第 17 回 【講義・演習】小テスト(居宅サービス費算定)、レセプト作成方法(試験問題形式にて実施)②</p> <p>第 18 回 【講義・演習】小テスト(居宅サービス費算定)、レセプト作成方法(試験問題形式にて実施)③</p> <p>第 19 回 【講義】施設サービス:介護福祉施設</p> <p>第 20 回 【演習】施設サービス:介護福祉施設、小テスト(小テストは実施後、解答・解説を行う)</p> <p>第 21 回 【講義】施設サービス:介護保健施設①</p> <p>第 22 回 【講義・演習】施設サービス:介護保健施設②、確認問題</p> <p>第 23 回 【演習・講義】小テスト(小テストは実施後、解答・解説を行う)、施設サービス:介護医療院</p> <p>第 24 回 【講義】施設サービス費総復習と質疑応答</p> <p>第 25 回 【講義・演習】小テスト(福祉施設)、レセプト作成方法(試験問題形式にて実施)</p> <p>第 26 回 【講義・演習】小テスト(保健施設)、レセプト作成方法(試験問題形式にて実施)</p> <p>第 27 回 【講義・演習】小テスト(介護医療院)、レセプト作成方法(試験問題形式にて実施)</p> <p>第 28 回 【講義】請求のしくみ、低所得者の対策、他制度との関係①</p> <p>第 29 回 【講義】請求のしくみ、低所得者の対策、他制度との関係②</p> <p>第 30 回 【講義・演習】定期試験と資格試験に向けた総合問題を実施(解答・解説を行う)</p> <p>※受講生の習熟度や進行状況により学習計画を変更することもあります。</p> <p>※講義内で実施した小テスト、提出された課題は、採点后、コメントを入れて返却すると同時に解説を全体にフィードバックします。</p> <p>※質問等は講義の開始前、終了後、講義中に随時受付し、回答をすると同時に全体にフィードバックします。</p>
ナンバリング	CPFM1013

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	42170
科目	4217 介護事務Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	水野 真理	単位数	2 単位
担当教員	水野 真理、矢島 明彦		
授業概要	<p>【介護】現在の日本は過去に例をみないほどの超高齢化が進んでいます。平均寿命は男女共に 80 歳を超えています。健康寿命についても男女共に 70 歳を超えています。ただ、この平均寿命と健康寿命の差が大きくなればなるほど介護が必要な期間が長くなり、介護に係る事項が重要性を増してくることが考えられます。介護を必要とする人々は医療保険もあわせて利用している人が多くなり、医療との関連性においても理解を深める必要があります。</p> <p>本講座では、介護事務Ⅰで学んだことを実際にレセプトを作成することで正しい請求につなげていく方法を学びます。</p> <p>介護請求事務は介護保険を正しく運用する縁の下の力持ちです。</p> <p>資格試験にチャレンジし、資格を取得することも視野に置いて学習を進めます。</p> <p>この機会にさらなる知識の習得を目指しましょう。</p>		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性			◎
到達目標	<p>介護報酬の算定ができる。</p> <p>介護報酬明細書（介護レセプト）の作成と点検ができる。</p> <p>介護保険と医療保険の違いを理解することができる。</p> <p>技能認定振興協会主催の介護事務管理士の資格取得を目指す。</p>		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	<p>テキスト1介護保険のしくみとサービス(2024年度版)</p> <p>テキスト2介護報酬の算定のしかた(2024年度版)</p> <p>資料ブック(2024年度版)</p> <p>レセプト記載ルール(2024年度版)</p> <p>(上記はすべて「介護事務Ⅰ」使用分)</p> <p>※ソラストオリジナルテキスト</p>
------------------------------	---

成績評価	<p>1. 小テスト(40%)</p> <p>2. 定期試験(60%)</p> <p>なお、学校規定による出席率が確保できていない場合や、授業内課題をすべて提出していない場合は、定期試験を受験できません。</p>	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	保険制度、介護報酬の算定を理解しているかを評価
定期試験	60%	保険制度・介護報酬算定とレセプト作成ルールを理解しているかを評価

受講条件	<p>原則：1年秋学期に介護事務Ⅰを受講していること</p> <p>ただし、受講していない場合も自主学習が必要ですが、可能とします。 (介護事務Ⅰを受講していない場合は、介護事務Ⅰで使用したテキスト代が別途必要となります。)</p>
事前・事後学修(内容・時間)	<p>実施した講義・実践内容についてテキストを再読すること。(第01回～第15回/1.0時間) (欠席した回については自己学習を行うこと)</p> <p>確認問題とテキストの該当箇所を復習し、実施できなかった部分について実施をすること。 (第03～14回/1.5時間)</p> <p>講師側から出題された課題を実施し、提出すること。(第01～第14回/2.5時間)</p> <p>定期試験に向けて小テストの復習を行うこと。(第01,02,08～11回/1.5時間)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第01回【演習】介護保険制度に関する総復習と小テスト(テキスト1使用)テキストの該当箇所を確認しながら解答、解説を行う。</p> <p>第02回【演習】居宅サービス算定に関する総復習と小テスト(テキスト2と資料ブックを使用)テキストの該当箇所を再確認しながら解答、解説を行う。</p> <p>第03回【演習】居宅サービス算定とレセプトの記載ルールを知る。テキスト2と資料ブック、レセプト記載ルールを使用しながら介護レセプトの作成ポイントを学習する。</p> <p>第04回【講義】施設サービス(介護福祉施設)テキスト2と資料ブック使用のうえ算定のしくみと資料ブックの使用方法を学習する。</p> <p>第05回【演習】施設サービス(介護福祉施設)テキスト2と資料ブック使用のうえ、小テストを実施し、解答・解説を行う</p> <p>第06回【講義・演習】施設サービス(介護保健施設)テキスト2と資料ブック使用のうえ算定のしくみと資料ブックの使用方法を学習し、確認問題を行う。テキストを振り返りながら解答・解説を行う。</p> <p>第07回【演習】施設サービス(介護保健施設)小テストを実施。テキスト2と資料ブックを使用し解答・解説を行う。</p> <p>第08回【講義・演習】施設サービス(介護医療院)テキスト2と資料ブックを使用して算定のしくみを学習し小テストを行う。テキストを振り返りながら解答・解説を行う。</p> <p>第09回【講義・演習】施設サービス(介護医療院)テキスト2と資料ブックを使用して算定のしくみを学習し小テストを行う。テキストを振り返りながら解答・解説を行う。</p> <p>第10回【講義】施設サービスのレセプト記載ルールを使用してレセプト作成のポイントを学習する。</p> <p>第11回【演習】試験対策として居宅サービス全般の学科問題を実施し、テキスト等を使用して解答・解説を行う。</p> <p>第12回【演習】試験対策として居宅サービス全般の実技問題を実施し、テキスト等を使用して解答・解説を行う。</p> <p>第13回【演習】試験対策として施設サービス全般の学科問題を実施し、テキスト等を使用して解答・解説を行う。</p> <p>第14回【演習】試験対策として施設サービス全般の実技問題を実施し、テキスト等を使用して解答・解説を行う。</p> <p>第15回【講義・演習】定期試験と資格試験に向けた総合問題を実施、解答・解説を行う。</p> <p>※介護事務Ⅰで学習した内容の復習を行うと同時に集中的に演習をこなうことにより実践力を身につけます。</p> <p>※受講生の習熟度や進行状況により学習計画を変更することもあります。</p> <p>※講義内で実施した小テスト、提出された課題は、採点后、コメントを入れて返却すると同時に解説を全体にフィードバックします。</p> <p>※質問等は講義の開始前、終了後、講義中に随時受付し、回答をすると同時に全体にフィードバックします。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPGM2010
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	42250
科目	4225 診療報酬請求論I	授業種別	週間授業
科目責任者	矢島 明彦	単位数	4 単位
担当教員	矢島 明彦		
授業概要	医療事務の内容を大きくとらえ、診療報酬点数の算定について基礎を理解し身につけることが目標です。 [*この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。]		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性			◎
到達目標	保険医療機関・医療保険制度の概要と、診療報酬点数の基本を説明することができる。		

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
プリント配布					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	小テスト(60%)・定期試験(40%)によって評価します。 諸般の情勢等で定期試験が実施できない場合は小テストで評価します。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	60%	課題を適切に理解しているかを確認します
定期試験	40%	筆記試験によって理解度を確認します

受講条件	医療保険制度と同時受講。
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に指定箇所のテキストを読んで概要を理解しておくこと(毎回2時間) 毎授業後に授業時間内に行なった問題等を再度復習しておくこと(毎回2時間)

授業の実施方法と授業計画	<p>第01回(講義) ガイダンス、保険請求事務概論 第02回(講義・演習) 点数表の構成について 第03回(講義・演習) 点数算定と演習(初診料) 1 第04回(講義・演習) 点数算定と演習(初診料) 2 第05回(講義・演習) 点数算定と演習(初診料) 3 第06回(講義・演習) 点数算定と演習(再診料) 1 第07回(講義・演習) 点数算定と演習(再診料) 2 第08回(講義・演習) 点数算定と演習(再診料) 3 第09回(講義・演習) 点数算定と演習(再診料) 4 第10回(講義・演習) 点数算定と演習(投薬料) 1 第11回(講義・演習) 点数算定と演習(投薬料) 2 第12回(講義・演習) 点数算定と演習(投薬料) 3 第13回(講義・演習) 点数算定と演習(投薬料) 4 第14回(講義・演習) 点数算定と演習(投薬料) 5 第15回(講義・演習) 点数算定と演習(注射料) 1 第16回(講義・演習) 点数算定と演習(注射料) 2 第17回(講義・演習) 点数算定と演習(注射料) 3 第18回(講義・演習) 点数算定と演習(注射料) 4 第19回(講義・演習) 点数算定と演習(注射料) 5 第20回(講義・演習) 点数算定と演習(注射料) 6 第21回(講義・演習) 点数算定と演習(医学管理料) 1 第22回(講義・演習) 点数算定と演習(医学管理料) 2 第23回(講義・演習) 点数算定と演習(医学管理料) 3 第24回(講義・演習) 点数算定と演習(処置料) 1 第25回(講義・演習) 点数算定と演習(処置料) 2 第26回(講義・演習) 点数算定と演習(処置料) 3 第27回(講義・演習) 点数算定と演習(処置料) 4 第28回(講義・演習) 点数算定と演習(処置料) 5 第29回(講義・演習) 点数算定と演習(処置料) 6 第30回(講義・演習) 総合演習</p> <p>*原則毎回小テストを実施します。 *小テストは採点の上、次回の授業で解説をします。</p> <p>*授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等の質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。</p> <p>※) 但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM1015
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期			授業コード	42260		
科目	4226 診療報酬請求論Ⅱ B			授業種別	週間授業		
科目責任者	矢島 明彦			単位数	4 単位		
担当教員	矢島 明彦						
授業概要	診療報酬請求論Ⅰの授業内容の続きを学習します。さらに医療機関における医療事務の立場と保険請求の重要性を理解しながら、レセプト作成・点検業務を行なえるようにします。 [*この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。]						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性			◎				
到達目標	診療報酬点数の各項目を確実に理解し、レセプト(診療報酬明細書)の記載要領についての基本を説明することができる。						

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
プリント等配布					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	小テスト(60%)・定期試験(40%)にて評価します。 諸般の情勢等で定期試験が実施できない場合は小テストで評価します。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	60%	課題を適切に理解しているかを確認します
定期試験	40%	筆記試験によって理解度を確認します

受講条件	診療報酬請求論Ⅰ単位修得済みであること。 診療報酬請求論ⅡAとの同時履修不可。 医療法規と同時受講。
事前・事後学修(内容・時間)	・毎回の授業前に指定箇所のテキストを読んで概要を理解しておくこと(毎回2時間) ・毎回の授業後に授業時間内で行なった問題等を再度復習しておくこと(毎回2時間)

授業の実施方法と授業計画	<p>第01回(講義) ガイダンス(定期試験解説)</p> <p>第02回(講義・演習) 点数算定と演習(手術料) 1</p> <p>第03回(講義・演習) 点数算定と演習(手術料) 2</p> <p>第04回(講義・演習) 点数算定と演習(手術料) 3</p> <p>第05回(講義・演習) 点数算定と演習(手術料) 4</p> <p>第06回(講義・演習) 点数算定と演習(手術料) 5</p> <p>第07回(講義・演習) 点数算定と演習(検査料) 1</p> <p>第08回(講義・演習) 点数算定と演習(検査料) 2</p> <p>第09回(講義・演習) 点数算定と演習(検査料) 3</p> <p>第10回(講義・演習) 点数算定と演習(検査料) 4</p> <p>第11回(講義・演習) 点数算定と演習(画像診断料) 1</p> <p>第12回(講義・演習) 点数算定と演習(画像診断料) 2</p> <p>第13回(講義・演習) 点数算定と演習(画像診断料) 3</p> <p>第14回(講義・演習) 点数算定と演習(画像診断料) 4</p> <p>第15回(講義・演習) 点数算定と演習(精神科専門療法)</p> <p>第16回(講義・演習) 点数算定と演習(リハビリテーション料) 1</p> <p>第17回(講義・演習) 点数算定と演習(リハビリテーション料) 2</p> <p>第18回(講義・演習) 点数算定と演習(リハビリテーション料) 3</p> <p>第19回(講義・演習) 点数算定と演習(リハビリテーション料) 4</p> <p>第20回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料) 1</p> <p>第21回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料) 2</p> <p>第22回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料) 3</p> <p>第23回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料) 4</p> <p>第24回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料) 5</p> <p>第25回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料等加算等) 1</p> <p>第26回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料等加算等) 2</p> <p>第27回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料等加算等) 3</p> <p>第28回(講義・演習) 点数算定と演習(入院基本料等加算等) 4</p> <p>第29回(講義・演習) 総合問題 1</p> <p>第30回(講義・演習) 総合問題 2</p> <p>*原則毎回小テストを実施します。 *小テストは採点の上、次回の授業で解説をします。 *第1回授業で診療報酬請求論Ⅰ定期試験の解説をします。</p> <p>*授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等の質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。</p> <p>※) 但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPFM1016
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期			授業コード	42270		
科目	4227 診療報酬請求論Ⅲ B			授業種別	週間授業		
科目責任者	矢島 明彦			単位数	4 単位		
担当教員	矢島 明彦						
授業概要	診療報酬請求事務に関するレセプト作成技能(医療事務管理士)を学習する。また、カルテと作成されたレセプトを照らし合わせて、算定に誤りがないか点検し、修正する。 [*この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。]						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性			◎				
到達目標	診療報酬明細書の応用的な記載が出来る。 「医療事務管理士」合格を目指す。						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	小テスト(60%)・定期試験(40%)にて判定します。 諸般の情勢等で定期試験が実施できない場合は小テストで評価します。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	60%	課題を適切に理解しているかを確認します
定期試験	40%	筆記試験によって理解度を確認します

受講条件	診療報酬請求論Ⅰ単位習得済み。診療報酬請求論Ⅱ A 又は診療報酬請求論Ⅱ B の単位修得済みであること。 診療報酬請求論Ⅲ A との同時履修不可。
------	--

事前・事後学修(内容・時間)	1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。(毎回2時間) 2. 復習として、課題にする練習問題を必ず解くこと。(毎回2時間)
----------------	--

授業の実施方法と授業計画	<p>第01回(講義)ガイダンス(定期試験解説)</p> <p>第02回(講義・演習)学科演習1 医療事務管理士例題1</p> <p>第03回(講義・演習)学科講義1 医療事務管理士例題1</p> <p>第04回(講義・演習)レセプト点検演習1 医療事務管理士例題1</p> <p>第05回(講義・演習)レセプト点検講義1 医療事務管理士例題1</p> <p>第06回(講義・演習)外来レセプト演習1 医療事務管理士例題1</p> <p>第07回(講義・演習)外来レセプト講義1 医療事務管理士例題1</p> <p>第08回(講義・演習)入院レセプト演習1 医療事務管理士例題1</p> <p>第09回(講義・演習)入院レセプト講義1 医療事務管理士例題1</p> <p>第10回(講義・演習)学科演習2 医療事務管理士例題2</p> <p>第11回(講義・演習)学科講義2 医療事務管理士例題2</p> <p>第12回(講義・演習)レセプト点検演習2 医療事務管理士例題2</p> <p>第13回(講義・演習)レセプト点検講義2 医療事務管理士例題2</p> <p>第14回(講義・演習)外来レセプト演習2 医療事務管理士例題2</p> <p>第15回(講義・演習)外来レセプト講義2 医療事務管理士例題2</p> <p>第16回(講義・演習)入院レセプト演習2 医療事務管理士例題2</p> <p>第17回(講義・演習)入院レセプト講義2 医療事務管理士例題2</p> <p>第18回(講義・演習)学科演習3 医療事務管理士例題3</p> <p>第19回(講義・演習)学科講義3 医療事務管理士例題3</p> <p>第20回(講義・演習)レセプト点検演習3 医療事務管理士例題3</p> <p>第21回(講義・演習)レセプト点検講義3 医療事務管理士例題3</p> <p>第22回(講義・演習)外来レセプト演習3 医療事務管理士例題3</p> <p>第23回(講義・演習)外来レセプト講義3 医療事務管理士例題3</p> <p>第24回(講義・演習)入院レセプト演習3 医療事務管理士例題3</p> <p>第25回(講義・演習)入院レセプト講義3 医療事務管理士例題3</p> <p>第26回(講義・演習)学科総復習</p> <p>第27回(講義・演習)レセプト点検総復習</p> <p>第28回(講義・演習)外来レセプト総復習</p> <p>第29回(講義・演習)入院レセプト総復習</p> <p>第30回(講義・演習)まとめ</p> <p>*第1回授業で診療報酬請求論Ⅱ B の定期試験の解説をします。 *原則毎回小テストを実施します。 *小テストは採点の上、次回の授業で解説をします。</p> <p>*授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等の質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。</p> <p>※)但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPGM2011
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	42290
科目	4229 医療事務実習	授業種別	実習
科目責任者	矢島 明彦	単位数	1 単位
担当教員	矢島 明彦		
授業概要	医療事務を学ぶ学生に、実際の医療現場での仕事を体験することにより、自らの学びに対する新たな課題や、将来の就職に対する動機付けとする。 [*この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。]		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎		◎
到達目標	実習に参加(原則すべて参加)し、病院内で働く事務職員の動向及び他職種との関連を認識することができるようになる。		

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
特になし プリント等配布					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	・実習期間は休まないこと。 ・事前レポート、事前学習会、実習レポート(50%)・実習評価(50%)で総合評価します。	
評価項目	割合	評価基準
事前レポート、事前学習会、実習レポート	50%	事前レポート、事前学習会、実習レポートの内容を総合評価します
実習評価	50%	実習中の説明を聞く姿勢・取り組み姿勢など及び実習準備等を総合評価します

受講条件	診療報酬請求論Iの単位取得者であること 診療報酬請求論I・II A・II Bいずれかについて5回以上欠席した場合は受講できない。 実習医療機関によっては、必要な検査の実施及び各種ワクチン接種が必要な場合がある。これらの指示を守ること。
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に実習病院の特徴・概要をレポートにまとめる。(5時間) ・事前学習会を受講する。(2時間) ・病院実習事前学習会の内容をレポートにまとめる。(2時間) ・病院実習中及び実習後に実習記録を作成し提出する。(8時間) ・病院実習(30時間) ・実習病院に事前訪問して詳細の打ち合わせを行います(実習指示書を提示される場合がある)。

授業の実施方法と授業計画	<p>下記の各病院で1年次2月から3月に5日間の実習を行います。(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊橋市民病院 ・浜松とよおか病院 等の医療機関(過去の実績医療機関) <p>*授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等の質問についても、適宜、授業内や実習後等に個別に回答します。</p>
--------------	---

ナンバリング	CPBM1008
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期		授業コード	42320			
科目	4232 診療報酬請求論Ⅱ A		授業種別	週間授業			
科目責任者	矢島 明彦		単位数	4 単位			
担当教員	矢島 明彦						
授業概要	診療報酬請求論Ⅰで学習した内容について、理解を深め、確実な理解を目標とします。 [＊この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。]						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性			◎				
到達目標	医療事務職員として診療報酬請求論Ⅰの基本的な知識を確実に習得する。 その上で、より深い診療報酬の知識を習得する。						

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
プリント等配布					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	小テスト(60%)・定期試験(40%)にて評価します。 定期試験が実施できない場合は小テストで評価します。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	60%	課題を適切に理解しているかを確認します
定期試験	40%	筆記試験によって理解度を確認します

受講条件	診療報酬請求論Ⅰ単位修得済みであること。 診療報酬請求論ⅡBとの同時履修不可。 医療法規と同時受講
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の授業前に指定箇所のテキストを読んで理解しておくこと(毎回2時間) 毎回の授業後に授業内で行なった内容について復習しておくこと(毎回2時間)

授業の実施方法と授業計画	<p>第01回(講義)ガイダンス(定期試験解説)</p> <p>第02回(講義・演習)診療報酬制度について</p> <p>第03回(講義・演習)初診料1</p> <p>第04回(講義・演習)初診料2</p> <p>第05回(講義・演習)再診料1</p> <p>第06回(講義・演習)再診料2</p> <p>第07回(講義・演習)投薬料1</p> <p>第08回(講義・演習)投薬料2</p> <p>第09回(講義・演習)注射料1</p> <p>第10回(講義・演習)注射料2</p> <p>第11回(講義・演習)医学管理料1</p> <p>第12回(講義・演習)医学管理料2</p> <p>第13回(講義・演習)処置料1</p> <p>第14回(講義・演習)処置料2</p> <p>第15回(講義・演習)処置料3</p> <p>第16回(講義・演習)まとめテスト実施</p> <p>第17回(講義・演習)点数算定と演習(手術料)1</p> <p>第18回(講義・演習)点数算定と演習(手術料)2</p> <p>第19回(講義・演習)点数算定と演習(検査料)1</p> <p>第20回(講義・演習)点数算定と演習(検査料)2</p> <p>第21回(講義・演習)点数算定と演習(画像診断料)1</p> <p>第22回(講義・演習)点数算定と演習(画像診断料)2</p> <p>第23回(講義・演習)点数算定と演習(精神科専門療法)</p> <p>第24回(講義・演習)点数算定と演習(リハビリテーション料)1</p> <p>第25回(講義・演習)点数算定と演習(リハビリテーション料)2</p> <p>第26回(講義・演習)点数算定と演習(入院基本料)1</p> <p>第27回(講義・演習)点数算定と演習(入院基本料)2</p> <p>第28回(講義・演習)点数算定と演習(入院基本料)3</p> <p>第29回(講義・演習)点数算定と演習(入院基本料等加算等)1</p> <p>第30回(講義・演習)点数算定と演習(入院基本料等加算等)2</p> <p>＊原則毎回小テストを実施します。 ＊小テストは採点の上、次回の授業で解説をします。 ＊第1回目の授業で診療報酬請求論Ⅰ定期試験の解説をします。 ＊診療報酬請求論ⅡBとの合同授業となる場合があります。</p> <p>＊授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等の質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。 ※)但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPFM1017
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	42410
科目	4241 診療報酬請求論Ⅲ A	授業種別	週間授業
科目責任者	矢島 明彦	単位数	4 単位
担当教員	矢島 明彦		
授業概要	診療報酬請求制度の基本的な知識の習得を確実なものとしていきます。 [★この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。]		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性			◎
到達目標	医療事務職員として診療報酬制度の基本的知識の習得を確実に習得する。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
診療点数早見表 2025 年 4 月増補版	医学通信社	医学通信社	4600 円 + 税	9784870589902	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
プリント等配布					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項					
------------------------------	--	--	--	--	--

成績評価	小テスト(60%)・定期試験(40%)にて評価します。 諸般の情勢等で定期試験が実施できない場合は小テストで評価します。				
評価項目	割合	評価基準			
小テスト	60%	課題を適切に理解しているかを確認します			
定期試験	40%	筆記試験によって理解度を確認します			

受講条件	診療報酬請求論Ⅰの単位修得済。診療報酬請求論ⅡAまたは診療報酬請求論ⅡBを履修済みであること。 診療報酬請求論ⅢBとの同時履修不可。				
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の授業前に指定箇所のテキストを読んで理解しておくこと(毎回2時間) 毎回の授業後に授業内で行なった内容について復習しておくこと(毎回2時間)				

授業の実施方法と授業計画	<p>第01回(講義) ガイダンス(定期試験解説)</p> <p>第02回(講義・演習) 手術料について1</p> <p>第03回(講義・演習) 手術料について2</p> <p>第04回(講義・演習) 手術料について3</p> <p>第05回(講義・演習) 手術料について4</p> <p>第06回(講義・演習) 手術料について5</p> <p>第07回(講義・演習) 手術料について6</p> <p>第08回(講義・演習) 検査料について1</p> <p>第09回(講義・演習) 検査料について2</p> <p>第10回(講義・演習) 検査料について3</p> <p>第11回(講義・演習) 検査料について4</p> <p>第12回(講義・演習) 画像診断料について1</p> <p>第13回(講義・演習) 画像診断料について2</p> <p>第14回(講義・演習) 画像診断料について3</p> <p>第15回(講義・演習) 画像診断料について4</p> <p>第16回(講義・演習) 精神科専門療法について1</p> <p>第17回(講義・演習) 精神科専門療法について2</p> <p>第18回(講義・演習) リハビリテーション料について1</p> <p>第19回(講義・演習) リハビリテーション料について2</p> <p>第20回(講義・演習) リハビリテーション料について3</p> <p>第21回(講義・演習) リハビリテーション料について4</p> <p>第22回(講義・演習) 入院基本料について1</p> <p>第23回(講義・演習) 入院基本料について2</p> <p>第24回(講義・演習) 入院基本料について3</p> <p>第25回(講義・演習) 入院基本料について4</p> <p>第26回(講義・演習) 入院基本料等加算等について1</p> <p>第27回(講義・演習) 入院基本料等加算等について2</p> <p>第28回(講義・演習) 入院基本料等加算等について3</p> <p>第29回(講義・演習) 入院基本料等加算等について4</p> <p>第30回(講義・演習) まとめ</p> <p>★第1回授業で診療報酬請求論ⅡA定期試験の解説をします。 ★原則毎回小テストを実施します。 ★小テストは採点の上、次回の授業で解説をします。 ★診療報酬請求論ⅢBとの合同授業となる場合がある。</p> <p>★授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等の質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。</p> <p>※)但し、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>				
--------------	--	--	--	--	--

ナンバリング	CPGM2012
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	42430
科目	4243 歯科事務Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	水野 真理	単位数	2 単位
担当教員	水野 真理、矢島 明彦		
授業概要	【歯科】高齢者が増加している現在、自分の歯を残そうという流れは日々増えています。歯を残すための予防も含め、歯科疾患の治療も日々進歩しています。そのなかでも、基本的な治療の流れはこれからも変わらないことが考えられます。歯そのものと歯科疾患の治療の流れを理解し、正しい診療報酬の算定につなげ、請求をすることは重要です。歯科診療報酬の算定とレセプトの書き方について演習を中心に学習します。講義修了後には、医療事務管理士(歯科)の資格取得を目指します。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性			◎
到達目標	歯科疾患についての理解を深めることができる。 歯科診療報酬の算定ができる。 歯科診療報酬明細書(レセプト)の作成ができる。 最終的に技能認定振興協会の歯科医療事務管理士の資格取得を目指す。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	歯科テキスト2診療報酬の算定資料ブック(歯科診療報酬点数早見表付)(上記は「歯科事務Ⅰ」使用分) トレーニングブック 歯科診療報酬明細書 ※ソラストオリジナルテキスト
------------------------------	---

成績評価	1. 小テスト(40%) 2. 定期試験(60%) なお、学校規定の出席率を満たしていない場合や、担当講師からの指示による提出物がある場合は、すべて提出をしていない場合は、定期試験は受験できません。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	歯の知識と正しい点数算定を理解しているかを評価
定期試験	60%	学科・実技(点数算定) 両面において理解度を評価

受講条件	原則、以下の条件をどちらも満たしている者 1. 歯科事務Ⅰの受講者 歯科事務Ⅰを受講していない場合は、自主学習が必要ですが可とします。(歯科事務Ⅰで使用したテキスト代が別途かかります。)
事前・事後学修(内容・時間)	所定範囲にそってテキストを再読し、トレーニングブックの学科問題を実施すること。(授業を欠席した場合は、自己学習をすること。)(第01回～第14回/1時間程度) 学習した範囲についてトレーニングブックのカルテを使用し、算定とレセプト作成を行うこと。(算定/第02～第14回/2時間程度)(レセプト作成/第07～第14回/2時間程度) 上記、該当部分については担当講師から指示を行うこととする。

授業の実施方法と授業計画	<p>第01回【演習・講義】これまでの復習と講義(硬組織疾患(C))点数早見表を使用して、算定と治療の流れを再確認する。</p> <p>第02回【講義・演習】傷病による治療と算定:硬組織疾患(Pul)例・例題と解答・解説 点数早見表または資料ブックを再確認しながら解説後、レセプトの記載箇所の説明を行いレセプトを作成する。解答を手渡し。</p> <p>第03回【講義・演習】傷病による治療と算定:硬組織疾患(Per)例・例題と解答・解説 点数早見表または資料ブックを再確認しながら解説後、レセプトの記載箇所の説明を行いレセプトを作成する。解答を手渡し。</p> <p>第04回【講義・演習】傷病による治療と算定:軟組織疾患と復習(トレーニングブック使用)点数算定に重点を置く。</p> <p>第05回【講義・演習】トレーニングブックを使用した診療報酬の算定演習と質疑応答</p> <p>第06回【講義・演習】レセプトの作成演習・質疑応答</p> <p>第07回【講義・演習】傷病による治療と算定:歯周疾患1例・例題と解答・解説 点数早見表または資料ブックを再確認しながら解説後、レセプトの記載箇所の説明を行いレセプトを作成する。解答を手渡し。</p> <p>第08回【講義・演習】傷病による治療と算定:歯周疾患2例・例題と解答・解説 点数早見表または資料ブックを再確認しながら解説後、レセプトの記載箇所の説明を行いレセプトを作成する。解答を手渡し。</p> <p>第09回【講義・演習】トレーニングブックを使用した診療報酬の算定演習と質疑応答</p> <p>第10回【講義・演習】欠損補綴:ブリッジ1例・例題と解答・解説 点数早見表または資料ブックを再確認しながら解説後、レセプトの記載箇所の説明を行いレセプトを作成する。解答を手渡し。</p> <p>第11回【講義・演習】欠損補綴:ブリッジ2例・例題と解答・解説 点数早見表または資料ブックを再確認しながら解説後、レセプトの記載箇所の説明を行いレセプトを作成する。解答を手渡し。</p> <p>第12回【講義・演習】欠損補綴:有床義歯1例・例題と解答・解説 点数早見表または資料ブックを再確認しながら解説後、レセプトの記載箇所の説明を行いレセプトを作成する。解答を手渡し。</p> <p>第13回【講義・演習】欠損補綴:有床義歯2例・例題と解答・解説 点数早見表または資料ブックを再確認しながら解説後、レセプトの記載箇所の説明を行いレセプトを作成する。解答を手渡し。</p> <p>第14回【講義・演習】トレーニングブックを使用した算定とレセプト作成全般</p> <p>第15回【講義・演習】修理・再装着・未来院請求とトレーニングブックで点数算定とレセプトの作成演習を行う。試験対策としてポイントの再度確認を行う。 ※講義内で実施した小テスト、提出された課題は、採点コメントを入れて返却後、解説を全体にフィードバックします。 ※質問においては講義前、講義後、講義中に随時受け付け回答をすると同時に全体へフィードバックします。</p>
--------------	--

ナンバリング	CPGM2013
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	42440
科目	4244 診療報酬請求論Ⅳ B	授業種別	週間授業
科目責任者	矢島 明彦	単位数	4 単位
担当教員	矢島 明彦		
授業概要	高レベルのレセプト作成技能、医療事務知識を学習する。 「*この科目は当該授業内容に関する医療事務の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。」		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性			◎
到達目標	・レセプト作成技能、カルテと作成されたレセプトを見て点検して修正する力を修得する。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
診療点数早見表 2025 年 4 月増補版	医学通信社	医学通信社	4600 円 + 税	9784870589902	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
プリント等配布					

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項					
------------------------------	--	--	--	--	--

成績評価	小テスト(60%)、定期試験(40%) 諸般の情勢等で定期試験が実施できない場合は小テストで評価します。				
評価項目	割合	評価基準			
小テスト	60%	課題を適切に理解しているかを確認します			
定期試験	40%	筆記試験によって理解度を確認します			

受講条件	診療報酬請求論Ⅰを単位習得後、診療報酬請求論Ⅱ A 又は診療報酬請求論Ⅱ B を単位習得後、診療報酬請求論Ⅲ A 又は診療報酬請求論Ⅲ B の単位修得済みであること。				
事前・事後学修(内容・時間)	1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。(毎回2時間) 2. 復習として、課題にする練習問題等は必ず解き、理解を深めておくこと。(毎回2時間)				

授業の実施方法と授業計画	<p>第 01 回(講義) ガイダンス(定期試験解説)</p> <p>第 02 回(講義・演習) レセプト演習 医療事務学科1 演習</p> <p>第 03 回(講義・演習) レセプト講義 医療事務学科1 講義</p> <p>第 04 回(講義・演習) レセプト演習 医療事務学科2 演習</p> <p>第 05 回(講義・演習) レセプト講義 医療事務学科2 講義</p> <p>第 06 回(講義・演習) レセプト演習 医療事務学科3 演習</p> <p>第 07 回(講義・演習) レセプト講義 医療事務学科3 講義</p> <p>第 08 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(外来)の作成1(演習)</p> <p>第 09 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(外来)の作成1(講義)</p> <p>第 10 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(外来)の作成2(演習)</p> <p>第 11 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(外来)の作成2(講義)</p> <p>第 12 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(外来)の作成3(演習)</p> <p>第 13 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(外来)の作成3(講義)</p> <p>第 14 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(入院)の作成1(演習)</p> <p>第 15 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(入院)の作成1(講義)</p> <p>第 16 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(入院)の作成2(演習)</p> <p>第 17 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(入院)の作成2(講義)</p> <p>第 18 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(外来)の応用作成1(演習)</p> <p>第 19 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(外来)の応用作成1(講義)</p> <p>第 20 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(外来)の応用作成2(演習)</p> <p>第 21 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(外来)の応用作成2(講義)</p> <p>第 22 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(外来)の応用作成3(演習)</p> <p>第 23 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(外来)の応用作成3(講義)</p> <p>第 24 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(入院)の応用作成1(演習)</p> <p>第 25 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(入院)の応用作成1(講義)</p> <p>第 26 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(入院)の応用作成2(演習)</p> <p>第 27 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(入院)の応用作成2(講義)</p> <p>第 28 回(講義・演習) レセプト演習 診療報酬明細書(入院)の応用作成3(演習)</p> <p>第 29 回(講義・演習) レセプト講義 診療報酬明細書(入院)の応用作成3(講義)</p> <p>第 30 回(講義・演習) まとめ</p> <p>*第 1 回授業で診療報酬請求論Ⅲ B の定期試験の解説をします。 *原則毎回小テストを実施します。 *小テストは採点の上、次回の授業で解説をします。</p> <p>*授業内で実施した小テストは採点后、返却します。また、課題・レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。授業やアンケート等の質問についても、適宜、授業内や個別に回答します。</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>				
--------------	--	--	--	--	--

ナンバリング	CPGM2014
--------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	40530
科目	4053 インターンシップ	授業種別	実習
科目責任者	田原 数哲	単位数	1 単位
担当教員	田原 数哲		
授業概要	学外での就労体験を通じて、社会人や採用担当者とのコミュニケーションをとる機会が生まれ、興味のある業界や企業が見えてきます。また、この経験から、得たこと・感じたこと・反省点等が見え、振り返りを行うことで今後の学生生活で何をすべきかが見えてきます。自己成長の場となります。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○
到達目標	就労体験を通じて実践的なスキル等を学び、専門知識の学習や大学での学習の目的意識を確立することができる。 社会人として必要なマナーや能力を再確認し習得することができる。 早い段階から自らのキャリアを意識することができ、今後の大学生生活の取り組みを主体的に計画することができる。		

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に、テキストはありません。 適宜、必要な資料を配布します。
------------------------------	-----------------------------------

成績評価	実習期間の遂行、実習報告書(レポート)、インターンシップ先企業の評価を総合的に判断し評価します。	
評価項目	割合	評価基準
実習期間の遂行	40%	5日間のインターンシップ実習参加を確認します。
実習報告書(レポート)	30%	各自で設定した目標を達成できたかを確認します。
実習先の評価	30%	指導担当者からの報告書の内容を確認します。

受講条件	『受講条件はありません』 インターンシップに参加するには、事前説明会に参加していただきます。 インターンシップ終了後、事後報告会に参加していただきます。
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修 インターンシップ事前説明会(2.5時間) インターンシップ先の選定(2.5時間) 企業研究(2時間) マナー講座(1.5時間) 実習(5日間～10日間) 事後学修 実習先の報告書(5日間～10日間) 事後報告会(1.5時間) か事後レポート(1.5時間)の提出

授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) インターンシップ 事前説明会 第1回目 第2回(演習) インターンシップ 選定活動 第3回(講義) インターンシップ 事前説明会 第2回目 第4回(講義) インターンシップ先決定説明会 第5回(講義・演習) マナー講座 第6回～15回(実習) 就労体験 5日間～10日間 第16回(講義・演習) 事後報告会または事後レポートの提出 ※課題、レポート等については、必要に応じてコメントを加え、フィードバックとして返却します。事前学修、事後学修等での質問についても、適宜、個別に回答します。
--------------	--

ナンバリング	CPBM1007
--------	----------